



始



宗教制度調查資料

第十三輯 法類組 寺

文部省宗教局

法類組寺ニ付テハ佛道各宗派ノ宗制寺法等ニ規定セルトコロアルモ其因由及之カ取扱方法ハ各宗相異ルヲ以テ之等諸種ノ關係ヲ調査センカ爲メ各宗派ニ對シ左記要項ニ依リ之カ取調ヲ求メ其回答ニ基キ本編ヲ輯録シタルモノニシテ中ニハ體裁其他修補セルトコロアルモ可成原報告ニ依リ之ヲ掲載セリ

第一法類

一 法類ノ意義

二 寺附法類

イ 寺院古來ノ緣故、慣例又ハ契約ニ依ルモノ

ロ 緣故慣例ノ事實、契約事項ノ概要

ハ 寺院ノ法脈關係ニ依ルモノ

ニ 法脈ノ稱呼及沿革

ハ 同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ

ハ 本寺ノ名稱所在地及關係末寺數

ニ 法源同一ナルモ其遠近ニ依リ法類ヲ區別スルモノ

其事實ノ概要

ホ 地域ニ依リ又ハ寺院數ニ依リ法類關係ヲ定ムルモノ

其事由

三 身附(又ハ人體)法類

イ 師弟關係

續柄及範圍

ロ 法脈關係

師家ノ名稱及閱歴

四 法類ニ關シ登録等ノ制アルモノ

届出、登録等ノ手續

五 法類ノ解除脱退及資格ノ喪失

事由及方法

六 法類總代

員數、被選資格(寺附又ハ身附
法類ノ區分)選定方法、届出又ハ登録手續、任期、職務權限

七 以上ノ外法類ニ關シ參考スヘキ事項

第二組 寺

一 組寺ノ意義

二 組寺ノ組織及範圍

地域、寺院數ニヨルモノハ其標準程度等又組規約ヲ設クルモノニ在リテハ規約規定ノ要項

三 組寺總代

員數、選舉方法、届出又ハ登録ノ手續、任期及職務權限

四 組長

選舉又ハ任命方法、任期及職務權限、組寺總代ト組長ノ兩者ヲ設クルモノニ付テハ其兩者ノ

關係

五 以上ノ外組寺ニ關シ參考スヘキ事項

目次

天台宗	一〇
同 寺門派	一〇
同 真盛派	一一
真言宗各派	一二
新義真言宗智山派	一三
同 豐山派	一五
真言律宗	二五
律宗	二六
淨土宗	二八
同 西山禪林寺派	三一
同 西山光明寺派	四二
同 西山深草派	四三
臨濟宗 天龍寺派	四五
同 相國寺派	四八
同 建仁寺派	五〇
同 南禪寺派	五一
同 妙心寺派	五二

目次

同	建長寺派	五九
同	東福寺派	六二
同	大德寺派	六四
同	圓覺寺派	六五
同	永源寺派	六七
同	方廣寺派	六八
同	佛通寺派	七〇
同	國泰寺派	七〇
同	向嶽寺派	七二
曹洞宗	宗	七三
黃檗宗	宗	八一
真宗本願寺派		八二
同	大谷派	八四
同	高田派	八五
同	興正派	八八
同	佛光寺派	八九
同	木邊派	九〇
同	出雲路派	九一
同	山元派	九二
同	誠照寺派	九三

同	三門徒派	九五
日蓮宗	蓮宗	九六
顯本法華宗	宗	一〇
本門法華宗	宗	一一
本法華宗	宗	一三
法妙法華宗	宗	一六
日本蓮正宗	宗	一九
日蓮正宗	宗	二〇
日宗蓮不受不施派		二二
同不受不施講門派		二三
融通念佛宗	宗	二三
時相宗	宗	二六
法相宗	宗	二七
華嚴宗	宗	三〇

法類組寺

天台宗

第一法類

一 法類ノ意義

法類ト稱スルハ從前ノ法脈關係寺院（寺附法類）及三世系以内ノ法縁者（身附法類）ヲ謂フ
寺附法類ハ我國ニ於ケル同一祖先ノ氏族關係ニ依ツテ成レル家附親類ニ類ス元ヨリ宗家支流本家分
家等ノ如キ關係トハ同一視シ難キ處アルモ其寺院相互間ニ相續者ヲ缺キタルトキ之カ相續者ヲ定ム
ル場合ニ其法脈關係寺院ヨリ相續者ヲ出シ又ハ相續者ヲ選定シ之ヲ繼承セシムルノ義務アリ身附法
類ハ民法上ニ規定セル血族ヲ主トシテ構成セル親族ノ如ク人即チ自己ヲ主トシテノ最モ親近ナル法
縁ノ者ヲ身附法類ト稱ス

二 寺附法類

イ 寺院古來ノ縁故、慣例又ハ契約ニ依ルモノ

之ヲ例セハ某寺院等ノ開山又ハ中興開山等ハ元同國內有力ノ寺院或ハ比叡山、東叡山、日光山
等ノ山内ニ於ケル某寺院等ノ住持（住職）又ハ所化（徒弟）タリシ縁故アリ之ヲ世間ニ謂フモ
某比某性ノ家ニ共ニ祖先ヲ同シクシ又ハ本家分家等ノ關係ニヨリテ家附ノ親類ト稱スルモノ、ア
ルカ如ク寺院ニ於テモ又前記ノ如キ古來縁故ノ寺院ヲ寺附法類ト稱シ其某寺院ハ開山某僧正某

上人等ノ縁故ニヨリ從來彼ノ國內有力寺院或ハ比叡山、東叡山、日光山等ノ山内寺院ノ住持又ハ徒弟等ノ法脈關係者ヲ以テ相互ニ世代ノ住職ヲ襲ヒ法脈ヲ繼承スルヲ慣例トスルモノアリ又其開山某及世代住持ノ某々等カ更ニ轉シテ某寺院ヲ創立シ又ハ某寺院ノ中興開山トナリタルモノ、中ニモ又相互ニ之ヲ寺附法類トシ相倚リ相扶ケテ寺門ノ維持隆盛ヲ謀リ其法脈ヲ繼承スルヲ慣例トセルモノモアリ

以上ノ如キハ寺附法類モ之ヲ溯レハ身附法類トナリ寺附法類ノ延長ハ一面之ヲ身附法類トモ見ルコトヲ得ヘシ又多數寺院中ニハ間々前記ノ慣例ニ類似スル契約ニ依テ定メタル寺附法類ノ有リシナランモ契約事項等ハ今之ヲ知ルニ由ナシ

又中世ニ於テ院ノ維持隆盛ヲ謀ル爲メニ或ル勢力ヲ有スル寺院ニ便宜ヲ求メテ其寺院ト本末關係ヲ結フト共ニ寺僧モ其住持ト師弟ノ關係ヲ結ヒ其寺院ヲ寺附法類ト爲シタルモノモアラシ又同一山内、同一木寺、同一組内等ノ關係ニヨリ創立當時ヨリ既ニ法類關係在リシモノアリ或ハ其後ニ於テ關係ヲ生シ又ハ其レ等ノ寺院カ相互間ニ於テ法類トナリ相保護シ發達ヲ遂クルヲ便宜ナリトシテ互ニ寺附法類トナリタルモノモアラシ

ロ 同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ
 同一本寺ニシテ且同一本寺ノ有スル灌室ニ入り同一法流ニヨル灌頂ヲ受クルニ依リ又ハ同一本寺ニシテ且同一山内ナルニヨリ又ハ同一本寺ニシテ且同一組内ナルニヨル等以上ノ如キ種々ノ關係ニヨリ寺附法類トナレルモノハ相當有之ルヘキモ其關係錯雜セルヲ以テ唯單ニ同一本寺ナルカ故ニ法類トナリタルモノトシテハ之ヲ的確ニ認ムルニ由ナシ
 從ツテ本寺ノ名稱所在地及關係末寺數ハ之ヲ列舉シ難シ

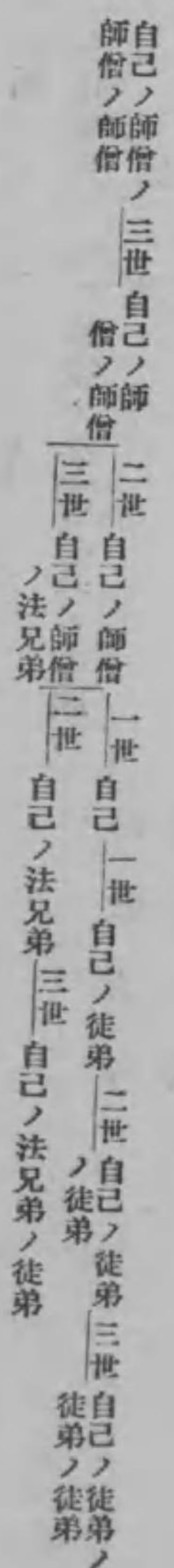
ハ 法源同一ナルモ其遠近ニ依リ法類ヲ區別スルモノ
 土地ノ遠近ニ依リ法類ヲ區別スルコト無之又寺附法類ハ世數ノ遠近ニ依リ區別セス

ニ 地域ニ依リ又ハ寺院數ニ依リ法類關係ヲ定ムルモノ
 地域ニヨリ法類關係ヲ定ムルコトハ宗規上其定ナシ唯同一組内ノ寺院カ相互間ニ法類關係ヲ定ムルヲ便宜ナリトシ之ヲ定メテ其以後慣例上互ニ法類トナレルモノ之レアリ然レト寺院總代設定法等ニハ地域ニ依リ又ハ寺院數ニ依リ法類關係ヲ定ムルコトヲ規定セス

三 身附(又ハ人體)法類
 イ 師弟關係

續柄及範圍ハ宗則第三十六號寺院總代設定法第十二條ニ身附法類トハ三世系以内ノ法縁者ヲ謂フコトニ規定セリ、三世系以内ノ法縁者トハ

- 一 直系尊屬 自己ノ師僧(一世系) 自己ノ師僧ノ師僧(二世系) 自己ノ師僧ノ師僧ノ師僧(三世系)
- 二 直系卑屬 自己ノ徒弟(一世系) 自己ノ徒弟ノ徒弟(二世系) 自己ノ徒弟ノ徒弟ノ徒弟(三世系)
- 三 傍系 自己ノ師僧ノ法兄弟(三世系) 自己ノ法兄弟(二世系) 自己ノ法兄弟ノ徒弟(二世系)



法脉關係

法脉關係ニ依ル師家ノ名稱及其ノ始祖

一、山家流	傳教大師
一、三井流	證大
一、川ノ流	覺超師
一、院尊流	未詳
一、蓮華流	永祐意
一、三味流	良嚴
一、佛頂流	行殿
一、智泉流	覺範
一、法曼流	相實
一、穴太流	聖昭
一、梨本流	明快
一、功德流	未詳
一、味岡流	未詳
一、西山流	澄豪
一、葉上流	榮西

閱歴ハ之ヲ略ス

法類ニ關シ登錄等ノ制アルモノ

届出、届出ノ手續ハ天台宗宗令第七十六號寺院總代設定法施行規則第五條ニ於テ法脉寺院名稱

出方ヲ規定ス

(參照)

第五條 寺院住職又ハ選舉管理者ハ其ノ寺院從前ノ法脉關係寺院及寺院總代設定法第十四條ニ依ル組寺ノ名簿ヲ調製シ寺院總代設定届ト共ニ庶務部長ニ差出スヘシ

寺院總代設定法第十三條第二項ニ依リ法縁者ヲ以テ法類總代ヲ設定シタルトキハ届書ニ其ノ續柄ヲ明記スヘシ

五 法類ノ解除就退及資格ノ喪失

寺院總代ノ解除及資格喪失ニ付テハ宗則第三十六號寺院總代設定法第五條第六條ノ規定アルモ單ナル法類ニ付テハ何等規定ナシ法類間ニ於ケル從來ノ慣例ニ依ル

但身附法類ハ三世系以内ノ法縁者ト定メアリ從ツテ三世系以外トナリタルトキハ其資格ヲ喪失ス(參照)

第五條 寺院總代ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ當然總代タルノ資格ヲ失フ

- 一 寺院總代ニ選舉セラレタル寺院ノ住職ヲ罷メタルトキ
- 二 住職停權以上ノ懲戒處分ヲ受ケタルトキ

第六條 寺院總代ニシテ寺院又ハ住職ニ對シ不良ノ行爲アリタルトキハ住職ハ天台座主ノ認可ヲ得テ總代ヲ解除スルコトヲ得

六 法類總代

總代ノ員數ハ寺院總代設定法第二條ノ規定ニヨリ三箇寺トシ法類寺ノ數三箇寺ニ達セサルモノハ例外トセリ

被選資格及選定方法ハ寺院總代設定法第三條ニヨリ法脉寺院住職(寺附法類)ノ互選トシ

法脈寺院ナキモノハ同法第十三條ノ規定ニヨリ法縁者(身附法類)ニシテ住職タル者ニ付之ヲ定ム
 法脈寺院ナク又法縁者ナキモノ若ハ特別ノ事由アルモノハ天台宗務廳ノ許可ヲ經テ寺院住職タル者
 ノ中ニ就キ之ヲ設定スルコトヲ得ルコトニ規定ス
 之カ届出方ハ當該寺院住職並新舊總代連署ヲ要シ任期ハ寺院總代設定法第九條ニヨリ六箇年ト規定
 シ補闕ノ者ハ同第十條ニヨリ前任者ノ殘任期間在任ス職務權限ハ
 一、當該寺院ノ住職候補者ヲ選定シ又ハ選定ノ協議ニ與カリ其任免申請書ニ連署ス

天台宗則第十號寺院住職選任法

第四條 住職選任ニ關シ師弟若クハ法流相承其他特別ノ慣例アル別格寺ノ住職候補者ハ選舉
 ニ依ラス六級教師以上ノ者若ハ宗立中學卒業以上ノ者ニシテ十二級教師以上ノ者ノ中ニ就
 キ山内別格寺ニアリテハ其ノ一山山内住職者、其ノ他ノ別格寺ニアリテハ寺院住職本寺及
 法類ノ協議ヲ以テ之ヲ選定シ本人ノ承諾ヲ得タル後現住職一山總代若ハ法類總代及本寺連
 署ノ上當該寺院及候補者所屬ノ教區宗務所ヲ經由申請セシメ之ヲ任命ス

第六條 門跡寺別格寺以外ノ寺院ノ住職候補者ハ其寺院等級相當以上ノ稱號ヲ有スル教師ノ
 中ニ就キ宗令ヲ以テ定ムル順位ニ依リ其ノ寺院現住職法類ノ協議ヲ以テ之ヲ選定シ本寺組
 寺ノ同意及本人ノ承諾ヲ得タル後現住職法類總代組寺總代本寺連署ノ上當該寺院及候補者
 所屬ノ教區宗務所ヲ經由申請セシメ之ヲ任命ス

寺院住職選任法施行細則

第二條 寺院住職選任法第六條ニ依ル住職候補者ハ現任住職法類ノ協議ヲ以テ左記ノ順位ニ
 依リ當器ノ者ヲ選定シ本寺組寺ノ同意及本人ノ承諾ヲ得テ現任住職申請人トナリ寺院總代
 並本寺ノ連署シタル住職任命申請書ヲ作製シ住職寺及候補者所屬ノ教區宗務所ヲ經由シ之

ヲ天台宗務廳ニ差出スヘシ

一 徒弟(既ニ住職シタル者ヲ含ム)

二 法類

三 前二號以外ノ者

住職候補者ノ選定申請ニシテ現任住職ナキ寺院ハ前項ニ準シ法類ニ於テ之ヲ選定シ法類總
 代申請人トナルヘシ

第三條 寺院住職選任法第七條ニ依ル兼務住職候補者ハ前條ノ順位ニ從ヒ住職タル者ノ中ニ
 就キ之ヲ選定シ前條ニ準シ申請スヘシ但シ本申請ニハ專務住職ヲ選定スルコト能ハサル理
 由ヲ詳記シタル理由書ヲ添付スヘシ

第四條 寺院住職選任法第四條ニ依ル住職候補者ハ山内別格寺院ニアリテハ現任住職法類ニ於
 テ當器ノモノヲ豫選シ山内寺院住職者ノ協議ヲ以テ之ヲ決定シ其他ノ別格寺ニアリテハ現
 任住職法類ノ協議ヲ以テ之ヲ選定シ第二條ニ準シ申請スヘシ

第五條 寺院住職選任法第三條ニ依ル住職候補者ハ從前ノ慣例ニ依リ之ヲ選定シ現任住職申
 請人トナリ寺院總代ノ連署シタル住職任命申請書ヲ作製シ之ヲ天台宗務廳ニ差出スヘシ但
 現任住職ナキトキハ寺院總代申請人トナルヘシ

二、當該寺院住職缺員シ後任住職未定ナル場合ニ其寺院財產並一切ノ事務ヲ引繼キ之ヲ保管ス
 又後任者タル住職ニ其引繼ヲ了シタルトキハ引繼届出ニ連署ス
 (參照)

天台宗則第十號寺院住職選任法

第十九條 住職交迭シタル時ハ本寺並寺院總代檀徒若ハ信徒總代立會ノ上前住職又ハ法類總

代ヨリ後任住職ニ寺院財産並一切ノ事務ヲ引繼クヘシ其ノ後任住職未定ナルトキハ前記各關係者立會ノ上其寺院法類總代ニ引繼キ法類總代ハ後任住職決定ノ場合更ニ之ヲ引繼クヘシ

前項ノ引繼ヲ結了シタルトキハ其ノ都度關係者連署ノ上天台宗務廳ヘ届出ツヘシ但シ關係者立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ理由ヲ具シ届出ツヘシ

第十四條ニ依リ寺務擔當ヲ命シタル場合ハ前二項ニ準シ其ノ手續ヲ行フヘシ

當該寺院ノ財産臺帳ニ連署シ財産異動ノ手續ヲ爲ス場合ニモ又之ニ連署ス

三、

(參照)

天台宗則第二十五號寺院財産管理法

第二條 寺院ハ前條ノ種別ニ準ヒ寺有財産ノ名稱品質數量並由緒等ヲ記載シタル寺院財産臺帳ヲ調製シ天台宗務廳並教區宗務所ヘ各一通ヲ提出シ又其ノ寺院ニ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ寺院財産臺帳ニハ其ノ寺院住職寺院總代檀徒總代若ハ信徒總代及本寺ノ連署ヲ要ス

第四條 寺院財産ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度第二條ニ準シ寺院財産臺帳訂正ノ手續ヲ行フヘシ

天台宗務廳ニ於テ寺院財産ニ異動アリタルコトヲ認知シタル場合ハ總務ハ當該寺院ニ財産臺帳ノ訂正ヲ命スルコトヲ得

第二組寺

一 組寺ノ意義

組寺ト稱スルハ其寺院ノ屬スル部内寺院ノ中ニ就キ從來ノ慣例ニ依リ及關係者ノ協議ヲ以テ之ヲ定

メタルモノヲ謂フ。但部ヲ設ケサル教區ニアリテハ教區内寺院ノ中ニ就キ之ヲ定ムルコトヲ得、組寺ハ其組内寺院間ニ於テ互ニ其當事者ヲ督勵シ相倚リ相扶ケテ寺院ノ維持隆盛ヲ謀リ組寺間ノ禍福慶弔ニ際シテハ互助的精神ヲ以テ之ニ從事シ寺役ニ付互ニ相助勢スルノ義務アリ

二 組寺ノ組織及範圍

地域及寺院數ニ付キテハ其標準程度等無之組寺ハ元來同一郡内又ハ同郷内ノ關係元ノ同一領地關係同一本寺ノ關係等ニヨリ成立セルモノニシテ天台宗則第六號教區制度ニヨリ現ニ定メタル同一部内又部ヲ設ケサル處ハ同一教區内ノ範圍ニ於テ今猶舊來ノ慣例ヲ保チツ、アリ

又組規約組寺規約等ノ設ナシ從來ノ慣例ニヨル

三 組寺總代

員數ハ寺院總代設定法第二條ノ規定ニヨリ三箇寺トス、組寺ノ數三箇寺ニ達セサルモノハ此ノ限ニアラス、選定方法ハ其寺院ノ屬スル部内寺院ノ中ニ就キ從來ノ慣例ニ依リ及關係者ノ協議ヲ以テ定メタル組寺ノ住職ノ互選トス、但部ヲ設ケサル所ニアリテハ教區内寺院住職ノ中ニ就キ之ヲ定ムルコトヲ得

天台宗 第三十六號寺院總代設定法

第三條 寺院總代ハ各種毎ニ關係寺院住職ノ互選トシ選舉ニ關スル事務ハ住職之ヲ管理ス但シ寺院總代ノ設定ニ關シ特別ノ慣例アルモノハ其ノ慣例ニ依ルコトヲ得

第十四條 本法ニ於テ組寺ト稱スルハ其ノ寺院ノ屬スル部内寺院ノ中ニ就キ從來ノ慣行ニ依リ及關係者ノ協議ヲ以テ之ヲ定メタルモノヲ謂フ但シ部ヲ設ケサル教區ニアリテハ教區内寺院ノ中ニ就キ之ヲ定ムルコトヲ得

第十五條 組寺總代ハ前條組寺ノ住職タル者ノ中ニ就キ之ヲ定ムヘシ

組寺總代選定届出方ハ法類總代ト同シク任期モ亦法類總代ト同シク六箇年トス補缺ノ者ノ任期ハ前任者ノ残任期間タルコト又同シ

職務權限ハ當該寺院任職候補者ノ選定ニ同意シ其任免申請書ニ連署ス

(參照)

天台宗則第十號寺院任職選任法第六條(前出)

當該寺院ノ財産臺帳ニ連署シ財産異動ノ手續ヲ爲ス場合又之ニ連署ス

(參照)

天台宗則第二十五號寺院財産管理法第二條及第四條(前出)

天台宗寺門派

第一 法類

一 法類ノ意義

法類トハ慣行ニ基ク寺院間ニ於ケル連繫ヲ指ス場合ト師弟關係ニ基ク僧侶間ニ於ケル連繫ヲ指ス場合トノ二義ヲ包含ス前者ヲ寺法類トイヒ後者ヲ身法類トイフ

二 寺附法類

イ 寺院ノ開基若クハ再興者ヲ同シクシタル場合其寺院間ニ限ラレタル特殊ノ關係ガ慣例トナリテ連繫セルモノ

ロ 甲寺院ノ開基若クハ再興者ノ法流ヲ傳承スル爲メニ建テラレタル乙寺院トノ特殊關係ガ慣例トナリテ連繫セルモノ

三 身附法類

イ 師弟ノ關係ニ依テ連繫セルモノ

ロ 法脉ノ關係ニ依テ連繫セルモノ

四 法類ノ解除脱退等ハ各自法類内部ノ習慣ニ一任ス

五 法類惣代ノ員數被選資格選定法届出又ハ登錄手續任期等ノ規定ナシ職務權限ニ付テハ教師ノ退職僧侶ノ轉派歸俗ノ場合、托鉢免許證再下付願、證明及ヒ托鉢免許證還納ノ場合、法資金ノ減額猶豫ノ請願懲試處分ニ對スル減免ノ請願別格寺以下寺院任職及ヒ兼任職ノ進退ニ關スル請願ニハ連署スヘキコトヲ規定セリ

第二 組寺

一 組寺ノ意義

組寺トハ法要等相互援助ノ爲メニ存スル寺院ノ組合ナリ

二 組寺ノ組織及ヒ範圍

三 多年ノ慣行ニ從ヒ別ニ組規約等ノ存スルモノナシ

天台宗眞盛派

三 組寺惣代ノ員數選定方法届出又ハ登録ノ手續任期等ノ規約ナシ職務權限トシテハ別格寺以下ノ寺院住職及ヒ兼住職ノ進退ニ關スル請願ニハ連署スヘキコトヲ規定セリ

天台宗眞盛派

本宗ニ於テ法類組寺ニ關シ宗制寺法ニ規定スルトコロ左ノ如シ

宗制寺法第八章 寺院住職任免

第四十二條 一般寺院住職ハ其寺組長法類檀家總代本寺アルモノハ其本寺住職協議ノ上之ヲ定メ其地管事ヲ經由シテ管長ヘ具申シ其補命ヲ請フ

第十章 寺院古文書什器寶物保存法

第五十條 寺院ニ屬スル什器寶物等重要ナル財産ハ住職信檀徒等ニ於テ自儘ニ處分スルコトヲ得ズ

不動産モ亦同シ

但不得止事故ニ依リ本文財産ノ處分ヲナサントスルトキハ其旨詳細書面ヲ以テ住職檀信徒總代組長法類連署シ管事ヲ經由シテ管長ヘ願出ヘシ

第五十三條 寺院地内地所建物ノ圖面、古文書、什器、寶物、祠堂金、田畑、山林、積立金等ノ明細簿各三通ヲ製シ住職檀信徒總代組長法類連署ノ上管事ノ奥印ヲ得其地教務支所ヲ經由シテ管長ヘ差出スヘシ(下略)

補則

第十三條 住職罷免又ハ教師罷免擯斥等ノ處分ヲ受ケタル者ハ直ニ組寺又ハ法類及檀信徒總代ニ事務ヲ引渡シ一週間内ニ退寺スヘキモノトス

眞言宗各派聯合

(高野派、御室派、大覺寺派、醍醐派、東寺派、泉涌寺派、山階派、小野派)

第一 法類

一 法類トハ當該寺院ノ重大ナル事項ニ關シ協議ニ參加シ世出世諸般ノ援助ヲ爲スモノニシテ世間ノ親戚關係ノ如シ

二 寺附法類

- イ 甲乙兩寺ノ住職互ニ道交親密ナリシ爲メソノ申合セニヨリ法類關係ヲ結ヒ爾來後任者代々ソノ遺旨ヲ尊重シ今回ニ至レルモノナリ
 - ロ 秘密法流ノ系統ヲ同シタルモノ、例セバ同シク廣澤流ノ流レヲ汲メルモノ或ハ同シク三寶院流ノ流レヲ傳フルモノ又ハ中院流ヲ繼承セルモノ等互ニ法類關係ヲ結ビ甲寺ノ弟子ヲ乙寺ノ後任トシ乙寺ノ弟子ヲ甲寺ノ住職ト爲シ互ニ深厚ノ關係ヲ生セルモノアリ
 - ハ 同一本寺ヲ有スルモノ必スシモ法類ナラサルモノ近隣ノ同門寺院ハ多ク法類關係ヲ有セリ
 - ニ 法源同一ナルモノモ遠隔不便ノ寺ハ省キテ近接便利ノ寺院ヲ多ク法類寺トセリ
- 但シ特種ノ緣故アルモノハ遠隔ノ地ト謂ヘトモ特ニ法類關係ヲ持續セルモノナキニアラス

- ホ、法類寺ハ三ヶ寺ヨリ十ヶ寺迄ヲ限度トスル規定ニシテ左記ノ六項目中ノ資格ヲ多ク具有スルモノヨリ順次法類寺、爲スヲ原則トス加除増減モ此ノ方針ノ下ニ取扱フモノトス
- 一、同一本寺ヲ有スル寺院住職
- 二、法流ヲ同クスル寺院住職
- 三、結衆又ハ組寺若クハ隣寺ノ寺院住職
- 四、先代住職ノ縁故アル寺院住職
- 五、現住職ノ法縁ニシテ寺院住職タルモノ
- 六、其ノ他深厚ナル關係アルモノ
- 三 寺附法類ハ先代住職ノ縁故又ハ現住職ノ法類タルモノニシテ甲寺ノ弟子ガ乙寺ノ住職トナリ又丙寺ノ住職ガ丁寺へ轉住シソノ間師弟關係又ハ法兄法弟ノ關係等ヨリ法類關係ヲ生セルモノ少カラス
- 四 登録ノ手續ハ法類總會ノ決議ニヨリ追加届又ハ法類總代届ヲ法務所ニ提出シ法務所ハ之レヲ當該寺院關係者トシテ寺院臺帳ニ登録ス
- 五 法類又ハ法類總代ハ住職寺移轉ニヨリ資格消滅スルモノトス解除又ハ追加ハ法類會ノ決定ニヨリ本所へ届出テ登録ヲ爲スモノトス
- 六 法類總代ハ二名以上トシ任期ハ三ヶ年トス被選舉資格ハ平等ニシテ寺附ノ區別ナシ選定ハ一般ノ互選ニ依ル届書ハ新舊總代ノ連名トス若シ全部缺員等ニヨリ新タニ選定シタル時ハ當選者以外ニ別ニ代表者ノ連署ヲ要ス職務權限ハ當該寺院住職ノ任免及寺有財産ノ異動其ノ他重要事項ニ付キ協議ニ參與シ諸願書等ニ連署ヲ爲ス
- 七 法類總代ノ外ニ末寺總代ト稱スルモノアリ中本寺小本寺等ニシテ末寺ヲ有スル寺院ニアリテハ末

寺總代ヲ置クヲ原則トシ法類總代ハ必スシモ必要トセズ

第二組 寺

- 一 組寺ハ寺院又ハ檀家ニ於テ曼荼羅供土砂加持等各種ノ法會ヲ營ムニ際シ互ニ援助補佐ヲ爲スヲ主ナル目的トシ傍ラ慶弔諸般ノ事ヲ互ニ相ヒ助ケ更ニ社會事業教化事業等ニ協同動作ヲ爲ス
- 二 組寺ノ組織範圍ハ多ク地域ニ依ルモノトス或ハ流域ヲ境ト爲スアリ或ハ山ヲ以テ界ト爲スコトアリ或ハ一郡内ヲ以ツテ組寺ト爲ス等一準ナラズ又寺院數ハ多キハ三四十ヶ寺少キハ五六ヶ寺ノモノアリサレド多クハ十四五ヶ寺ヲ一組寺トス規約トシテハ法會ノ案内ヲ受ケタル時ハ萬障ヲ排シ必ス出勤スルコト若シ止ムヲ得ザル差支ヘアル時ハ相當代理人ヲ出勤セシムル事等主ナル條文トシソノ他一樣ナラス
- 三 組寺總代並ニ組長等ノ規定及習慣ハ本宗ニハ無之稀レニ便宜上私ニ設ケタル地方ナキニアラサルモ其ハ全ク一種ノ私的申合セニ過ギザルモノトス

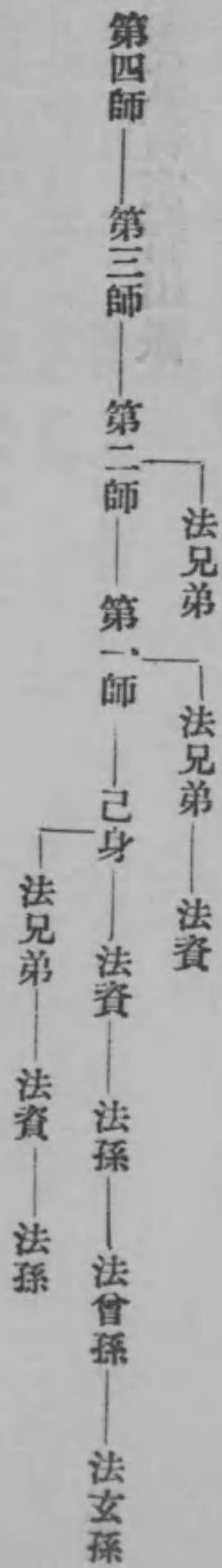
新義眞言宗智山派

第一 法類

- 一 法類ノ意義
本派ニテ法類ト稱スルハ法縁關係ニ由ル親族ヲ云フ、例へバ師資法 兄弟法 叔姪等
(參照)

宗規第十五號法類資格條例

第二條 本派ニ於テ法類ト稱スルハ身附法類ノ一種トス
 第三條 身附法類トハ左ノ各種ヲ以テス



二 寺附法類

本派ニハ寺附法類ト稱スルモノナシ、但シ住職人ノ身附法類ヲ以テ其寺院ノ法類トナス

三 身附法類

イ、師弟關係
 ロ、法脈 係

前掲宗規第十五號法類資格條例第三條及別表身附法類四等内系圖添附

四 法類ノ登錄

宗規第十五號法類資格條例

第六條 法類名簿及總代届ハ宗務支所ヲ經テ宗務所ニ差出スヘシ

同條例施行細則

第二條 身附法類ハ本派僧籍（宗務所備附ノ僧名簿）ニ依リ師資法縁四等以内ヲ稱ス

第三條 身附法類ハ別記第一號様式ニ依リ宗務所ヘ届出スヘシ

身附法類ハ住職交代ノ爲メ異動シ若クハ其他ノ事故ニヨリ人員ニ増減ヲ生シタル時ハ其旨届出ツベシ

第一號様式略ス

五 法類ノ解除脱退及資格ノ喪失

イ、法類ノ解除脱退

(一) 離弟ニ因ルモノ

師僧ヨリ事由ヲ具シテ管長ヘ届出ヲ要ス

(二) 歸 俗

本人又ハ師僧又ハ法類惣代人ヨリ管長ニ届出又ハ度牒ヲ返上セルモノ

(三) 師僧替ニ因ルモノ

合意上甲師僧ヨリ乙師僧ヘ師僧替ヲナシ異法類トナリタルモノ

右ハ本人新師僧及舊師僧又ハ法類惣代人連署ノ上管長ヘ届出ヲ要ス

ロ、法類資格ノ喪失

法類ノ資格喪失ハ即チ絶縁ヲ意味ス、依テ前項離弟歸俗及師僧替ニ依リ異法類トナリタル時ハ法類ノ資格ヲ喪失スルコト勿論ナルモ寺院トノ關係ニ於テハ左ノ場合ニ依ル

(一) 住職交代ニ依リ異法類者ノ住職シタル時

(二) 住職死亡シテ異法類ガ後任住職トナリタル時

(參照)

宗規第十五號法類資格條例

第九條 身附法類ハ其法類タル者住職ヲ辭シ又ハ罷免セラレタル時ハ其寺ニ對シ法類タル資

格ナキモノトス

同條例施行細則

第七條 寺院住職死亡シタル時ハ其身附法類ガ其法類寺ニ對シ法類タルノ資格ヲ失スルハ後任住職任命ノ結果異法類トナリタル以後トス

六 法類總代

(一) 員數 一人

宗規第十五號法類資格條例

第四條 身附法類ハ互選ヲ以テ總代一名ヲ定ムヘシ

(二) 被選資格 一寺住職以上

(三) 選定方法 届出又ハ登録手續

宗規第十五號法類資格條例施行細則

第四條 寺附法類總代届ハ別記第二號様式ニ依リ届出ツヘシ

第二號様式略ス

第五條 身附法類ハ教師試補以上ニアラサレハ其總代ノ選舉人タルヲ得ズ一寺住職以上ニアラサレバ其總代被選人タルコトヲ得ス

第六條 法類總代人死亡又ハ其他ノ事故ニヨリ缺員シタル時ハ十五日以内ニ選舉シ届出ヘシ

(四) 任期 三ヶ年

宗規第十五號法類資格條例

第五條 法類總代ノ年限ハ滿三ヶ年トス

(五) 職務權限

一 法類寺ノ後任住職選定ニ關與スルコト

二 法類寺ノ財産處分ニ關與スルコト

三 法類寺ノ願届等ニ連署スルコト

四 法類寺ノ住職死亡後ノ寺務管掌、後任選定並申請、財産監守及住職ノ遺弟、遺族、遺産等ノ處理ヲナスコト

(五) 法類寺ノ住職ガ廢疾トナリ又ハ失踪シ又ハ犯罪者トナリテ資格ヲ喪失セル場合ノ寺務ヲ處理スルコト

(參照)

宗規第十四號住職任免條例

第四條 寺院ノ住職ハ左項ノ規定ニ隨ヒ任命ヲ申請シ又ハ之ヲ特任ス

第一項 現住職アル時ハ現住職ニ於テ現住職ナキトキハ法類總代人ニ於テ法類多數ノ意見ニ依リ該寺相當資格アル者ヲ選出シ組寺總代人(末寺アル時ハ末寺總代人ヲ加ヘ)ノ連署ヲ得テ住職任命ヲ申請スヘシ

第二項 後任候補者認可ヲ得タル寺院ニシテ其住職死亡退隱轉任又ハ懲戒罷免ノ時ハ該候補者ヲ該寺相當ノ教師ニ昇進シ得ルモノニ限り現住職又ハ法類總代人ノ申請ニ依リ住職ヲ任命ス

全條例施行細則

第三條 住職後任選定及任命申請ノ主任ハ現住職アルトキハ現住職トシ現住職ナキトキハ法類總代人トス

第十四條 住職死亡ノ際ハ後任候補者アルトキハ後任候補者後任候補者ナキトキハ法類總代

ヲシテ其寺役法儀ヲ取扱ハシメ寺有財産ヲ監守セシムルモノトス

宗規第十五號法類資格條例

第七條 法類總代ハ法類寺院ノ願届等ニ連署スルモノトス

第八條 法類總代左ノ場合ニ於テ連署セントスルトキハ豫メ法類一同協議ヲ遂ゲ其多衆意見

ニ依リ連署スヘシ

一 住職進退

二 寺院創立 再興 移轉 廢合

三 地所建物什物 抵當賣買 其他古文書財産ニ關スル件

宗規第十七號寺有財産保管條例

第五條 寺有財産ハ其住職及法類總代 組寺總代 檀徒總代若ハ信徒總代連署ノ上其本寺住

職並管理ノ奥印ヲ受ケ置クヘシ

第十二條 住職交代ノ際ハ第五條ノ關係人立會ノ上第一種乃至第四種ノ物件ヲ照合シ該財産

帳ニ授受ノ證印ヲナシ管理ノ奥印ヲ受ケ置クヘシ

但シ住職死亡又ハ失踪セル場合ニハ法類總代人之ガ主任タルヘシ

宗規第十四號住職任免條例

第十四條 住職ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノハ法類總代人ノ申請ニ依リ住職ヲ罷免ス

一 醫師ヨリ精神病者トシテ癡疾ト診斷セラレタルモノ

二 失踪届出ノ後六ヶ月ヲ經過スルモ所在不明ノモノ

七

以上ノ外法類ニ關シ參考スヘキ事項

(一) 法類ヲ要セザル寺院

宗規第十五號法類資格條例施行細則

第九條 總本山及東京芝真福寺ハ法類ヲ要セス

(二) 法類ノ分割

全細則

第十一條 身附法類ハ合意上分割シテ届出ヲナスコトヲ得

但シ本届出ヲナスモ法類關係ニハ影響セサルモノトス

(三) 法類規約

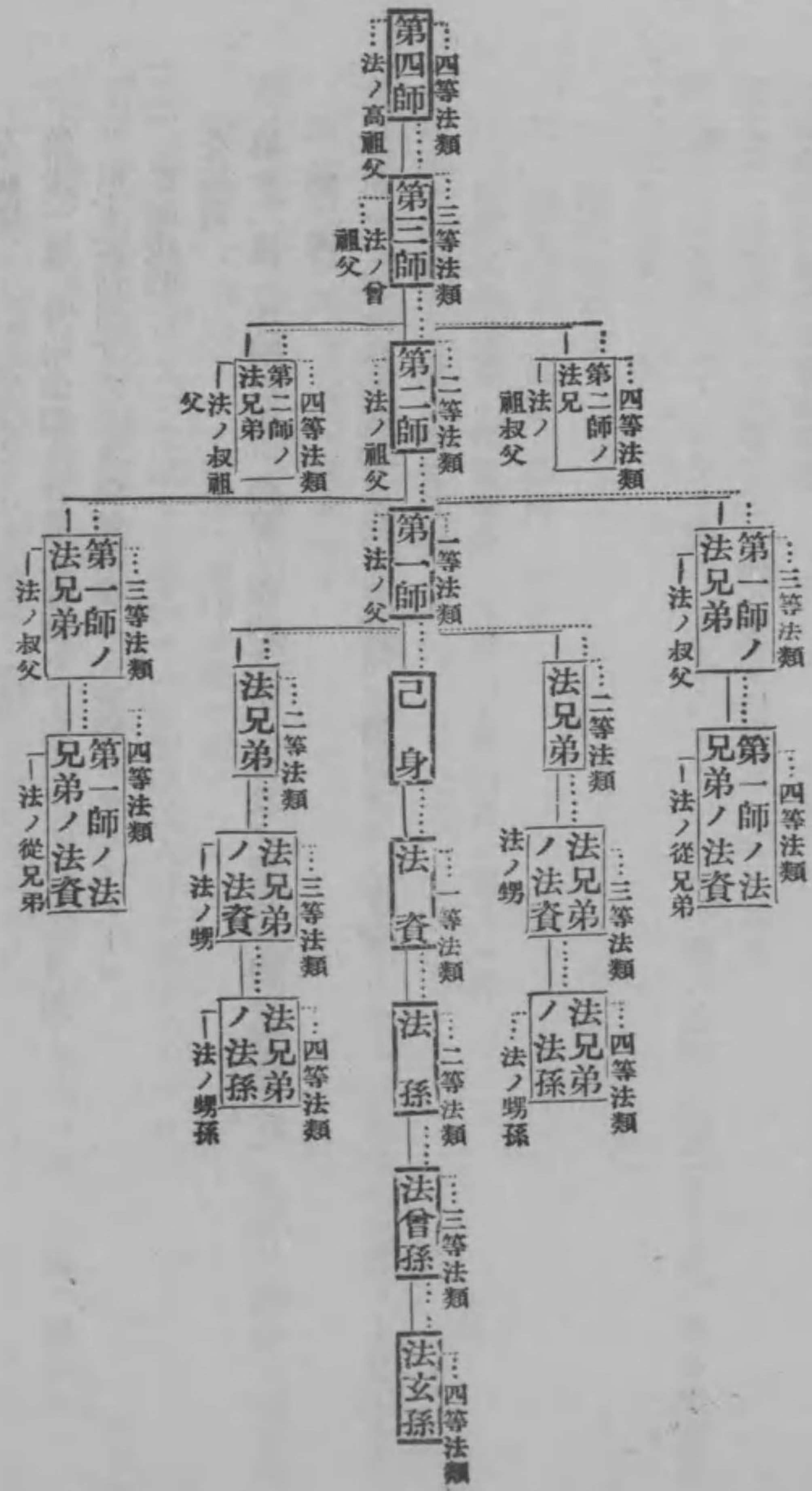
全細則

第十二條 身附法類ハ必要ノ規約ヲ定メ管長ノ認可ヲ得テ實施スヘシ

備考

本派ニハ未ダ法類規約ヲ定メテ認可ヲ得タルモノナシ

○寺附法類四等内系圖



第二組寺

一 組寺ノ意義

組寺トハ組合寺院ノ畧稱ニテ互ニ法儀及寺務ヲ補助シ合フ寺院ノ義ナリ

二 組寺ノ組織及範圍

(一) 地域寺數別ニ定メナシ同一市内又ハ四隣町村等附近寺院數ケ寺乃至數十ケ寺聯合シテ組合ヲ組織ス

三 組寺總代

員數ハ一名以上ナルモ概ネ一名或ハ二名ナリ組合寺院正住職ノ互選ニテ任期ヲ三年トス其職務權限ハ宗務所及宗務支所ノ命ヲ受ケテ命令ヲ傳達シ又ハ組寺ニ關スル事件ヲ調査シ紛議ヲ調停シ又ハ組寺ノ願届等ニ連署スル等

四 組長

本派ニハ組長ナルモノナシ

五 以上ノ外組寺ニ關スル參考スベキ事項

本派ニハ組寺ニ關スル規則及施行細則アリ左ニ全文ヲ掲ゲテ參考ニ資ス

宗規第二號宗務條例

第四章

- 第二十六條 各宗務支所下寺院ハ組合ヲ設ケ法要及寺務ヲ相互ニ補翼スヘキモノトス
- 第二十七條 組合寺院ノ區域ハ其地方ノ便宜ニ依ルモノトス
- 第二十八條 組合ニハ各寺院正住職ノ互選ヲ以テ組寺總代一名以上ヲ定ム
- 第二十九條 組寺總代ノ年限ヲ滿三ケ年トシ再選ヲ妨ケズ
- 第三十條 組合寺院及組寺總代人ハ宗務所ヘ届出ツヘシ
- 第三十一條 組寺總代人ハ其組合寺院重大ノ事件ニ關シ其組合寺院住職決議ノ上諸願届等ニ

連署スヘシ

第三十二條 組合寺院ハ其總代ニ於テ連署事件ニ付不正ノ點アルヲ發見シタルトキハ組合寺院過半数以上ノ同意ヲ得宗務所及宗務支所ニ具狀スルコトヲ得
全條例中施行細則

第一條 本施行細則ハ宗規第二號宗務條例第四章ニ依リ之ヲ定ム

第二條 組合寺院ハ其組寺ノ住職又ハ後任候補者選定ノ場合ニ現任職及本寺法類ニ於テ不正ノ取扱ヲナサ、ル限リハ異議ヲ主張スルヲ得ス

第三條 法類ハ宗務支所事務細則第一條ノ各項其他宗務所宗務支所ヨリ調査又ハ執行ノ命アリタルトキハ速ニ處理スヘシ

第四條 總代ハ法資教育布教傳道其他寺門ノ維持興隆等ノ方法ヲ獎勵スヘシ

第五條 總代ハ僧侶檀信徒間ニ葛藤ヲ生ジタルトキハ之ガ調和ヲ勉ム

第六條 總代ハ住職交代寺務引繼ノ場合ハ立會人トシテ財産什器ヲ取調ヘ引繼ニ不都合ナキトキハ其帳簿ニ署名捺印ス

第七條 總代ハ組内ニ宗憲宗規教令等ノ違犯者ヲ生セサルヲ要務トス

第八條 總代ハ組寺中協議ヲ要スル事件ヲ生シタルトキハ組寺會議ヲ開ク

第九條 組寺ニ必要ナル規約ハ組寺會ニ於テ定メ宗務所ノ認可ヲ得ヘシ

第十條 組寺會ニ關スル記録等ハ漸次後任總代ニ引繼ヲナス

新義眞言宗豊山派

第一 法類

一 法類トハ法縁ノ關係ヲ有スルモノヲ稱ス

二 寺附法類
イ 寺院ト寺院トノ間ニ於テ古來ヨリ緣故慣例ヲ持續シ來レル法縁關係アルモノヲ寺附法類トス

其ノ事例ハ開基ヲ同フスルモノ又ハ相導師ト稱シ住職死亡ノ場合相互ニ導師ヲ爲スモノ但現行法ニ於テハ新タニ契約ニ依ル法縁關係ヲ認メス

ロ 寺附法類ハ五箇寺以内ヲ以ツテ定ムル制限アリ

三 人體法類
イ 本人、師僧、重師僧、自己ノ徒弟、師僧ノ法兄弟、孫徒弟、法兄弟、法兄弟ノ徒弟

四 寺附法類ニ於テハ法縁ノ關係事實ヲ詳記シ登録申請ノ手續ニヨル

五 法類關係者ハ合意ニ法縁ノ關係ヲ解除スルニ於テノミ法類ノ資格喪失ス

六 法類總代

員數、貳名以内、被選資格、一寺住職ノモノニ限ル 選定方法、寺附法類人體法類ノ互選ニヨリ届出ヲ要シ任期ハ五箇年トス、職務權限ハ法類ヲ代表シ住職ノ死亡セル場合ニ事務ヲ執行シ後任住職ノ選定寺有財産ノ處分ニ關與ス

第二 組 寺

組寺ニ關スル制度ナシ

眞言律宗

一 法類ノ意義

同法同軌ノ教義ニ基キタル古來相傳ノ儀式ヲシテ他流ニ混同セス其ノ本分ヲ確守シ永久斷絶ニ歸セサルヲ持目的ヲ達スル護法ノ意義ヲ示ス

二 寺附法類

イ 寺院古來ノ緣故慣例ノ事實又ハ契約ニ依ルモノ
緣故慣例ノ事實契約事項

同一開基又ハ同一中興祖師及住持先德ノ古來緣故關係事實者ニ限ル
契約ハ其寺ノ開基先德ノ教義儀式ヲ他流ニ混同セス其ノ本分ヲ確守シ相續維持スル寺法及僧制等ヲ遵守スル制約書ヲ爲スヲ以テ其事項トス

ロ 寺院ノ法脈關係ニ依ルモノ法脈ノ稱呼及沿革

四分南山律宗及宗祖興正菩薩相承ノ密教並ニ菩薩ノ興起セラレタル西大寺流ヲ以テ其ノ稱呼トス
沿革ハ宗祖常騰律師稱徳天皇ノ御願ニヨリ三論律宗ヲ宣揚セラル爾後幾百ノ星霜ヲ經テ律宗衰微ニ屬ス嘉禎年間叡尊興正菩薩深ク之ヲ嘆シ自誓得戒シテ律宗ヲ再興セラレ眞言ヲ修學シ西大寺流ヲ興起シ律ト密ト併學ス

明治二十八年一宗獨立管長認可ヲ得テ今日ニ至ル

ハ 同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ本寺名稱所在地及關係末寺數

西大寺

奈良縣生駒郡伏見村

關係末寺數
七拾ヶ寺

寶山寺	奈良縣生駒郡生駒町	四ヶ寺
稱名寺	神奈川縣久良岐郡金澤村	二ヶ寺
淨瑠璃寺	京都府相樂郡當尾村	二ヶ寺
長福寺	福島縣石城郡下小川村	五ヶ寺
無量壽福寺	三重縣名賀郡神戶村	四ヶ寺
福智院	奈良市福智院町	二ヶ寺
金藏院	京都府相樂郡當尾村	一ヶ寺
東妙寺	佐賀縣神崎郡三田川村	一ヶ寺
崇恩寺	三重縣名賀郡依那古村	一ヶ寺
佛勝寺	三重縣名賀郡猪田村	一ヶ寺

ニ 法源同一ナルモ其遠近ニヨリ法類ヲ區別スルモノ其ノ事實

本宗ニハ其遠近ニヨリ法類ヲ區別スルモノ無シ

ホ 地域ニヨリ又ハ寺院數ニヨリ法類關係ヲ定ムルモノ、其ノ事由

本宗ニハ其事實無シ

三 身附(又ハ人體)法類

イ 師弟關係 續柄及範圍

同一師僧ノ兄弟又ハ前住職ノ徒弟及其ノ關係者等ノ法孫ノ緣故者ヲ以ツテ其續柄トナス
以上ノ關係ノ有無ヲ以テ範圍トス

四 法類ニ關シ届出登錄等ノ手續

得度誓約、入衆誓約、受式誓約、住職誓約、以上各誓約書ニ履歷書ヲ添附シ師僧法類連署調印ヲ以

テ出願シ其ノ許可ヲ得タルモノニ限り其資格ヲ有シ其手續無キモノハ資格ヲ有セス古來ヨリノ慣例ニ依ル

五 法類ノ解除脱退及資格ノ喪失、事由及方法
自ラ各誓約ヲ犯シ或ハ歸俗シ又ハ宗制第十一章第二節規定ノ懲戒法ニヨリ僧籍削除所分ヲ受ケタルモノナリ

六 法類總代
員數、被選資格(寺附又身附 法類ノ區分)選定方法届出又ハ登録手續、任期職務權限
法類總代其他資格選定方法等ニ關スル規定ヲ別ニ設ケズ古來ヨリノ慣例ニヨル

一 組寺ノ意義
其ノ地方ノ本宗寺院ガ結集シ布教教化法要等互ニ助成シ本寺法要等ニ際シ代表シテ結集寺院ノ義務ヲ全フス
組寺ノ組織及範圍總代組長等ニ關シ別ニ規定ヲ設ケズ古來ノ慣例ニヨル

律宗

一 法類ノ意義
同法同軌ノ教義ニ基キタル古來相傳ノ儀式ヲシテ他流ニ混同セス其ノ本分ヲ確守シ永久斷絶ニ歸セサル維持目的ヲ達スル護法ノ意義ヲ示ス

二 寺附法類

イ 寺院ノ縁故慣例等ハ左ニ依ル
同一開基又ハ同一中興祖師及住持先德ノ古來縁故關係事實者ニ限ル
契約ハ其寺ノ開基先德ノ教義儀式ヲ他流ニ混同セス其ノ本分ヲ確守シ永久相續維持スル寺法及僧制等ヲ遵守スル誓約書ヲ爲スヲ以テ其事項トナス
ロ 寺院ノ法脈稱呼ハ左ニ依ル
四分南山律宗及宗祖過海大師傳來ノ古密教並ニ招提寺松橋流ヲ以テ其ノ稱呼トナス
沿革ハ宗祖過海大師 聖武天皇ノ勅ヲ奉テ來朝シ天平勝寶六年二月五日ノ詔ニ依リ律儀ヲ宣布セシニ起リ嘉禎二年覺盛大悲菩薩之レヲ中興シ明治卅三年八月九日一宗獨立管長認可ヲ得テ今日ニ至ル

ハ 同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ本寺名稱所在等ハ左ノ如シ

唐招提寺	奈良縣生駒郡跡村	關係末寺數
藏松院	全所	貳拾壹ヶ寺
壬生寺	京都市下京區壬生柳之宮町	參ヶ寺
法金剛院	京都府野葛郡花園村	貳ヶ寺
		一ヶ寺

ニ 法源同一ナルモ其遠近ニ依テ法類ヲ區別スルモノ 其事實ハ本宗ニハ宗制第十二章規定ノ通り其等ノ區別ハ寺格ヲ以テ定メ法類ニ於テハ區別ノ事實ハ全ク無之
ホ 地域ニ依リ又ハ寺院數ニ依リ法類關係ヲ定ムルコトハ本宗ニハ古今通シ其事實無之
三 身附又ハ人體法類

- イ 師弟關係續柄及範圍ハ左ニ依ル
 - 同一師僧ノ徒弟ノ兄弟又ハ前住職ノ徒弟及其關係者等ノ法孫ノ緣故ヲ以テ續柄トス
 - 以上關係ノ有無ヲ以テ其範圍トナスニアリ
- 四 法類ニ關シ登錄等ノ制ハ左ノ如シ
 - 得度誓約、入乘誓約、受戒誓約、住職誓約。
 - 古ノ各誓約書ニ履歷書ヲ添付シ師僧及法類連署調印ヲ以テ出願シ其ノ許可ヲ得タル者ニ限り其ノ資格ヲ有シ其手續無キ者ハ資格ヲ有セズ等古來ヨリノ慣例法ニ依ル
- 五 法類ノ解除脱退及資格喪失ノ理由方法ハ左ニ依ル
 - 自ラ各誓約ヲ犯シ或ハ歸俗シ又ハ宗制第十一章規定ノ懲戒法ニ依リ僧籍削除處分ヲ受ケタル者
- 六 法類總代員數被選資格選定權限等ハ宗規第六號法類總代選定規則ニ依ル
 - 但シ本宗ニハ寺院ニ對スル參與權ハ寺附法類者ニ限ル 身附法類總代等ノ組織ハ全ク無之

(參照)

宗規第六號法類總代選定規則

- 第一條 寺院ノ法類トハ同一本寺ヲ有スル寺院及法流上從來深厚ノ關係ヲ有スル寺ヲ云フ
- 第二條 法類總代ハ住職任免及寺有財產ノ異動其ノ他特別ノ規定シアル事項ニ對シ當該寺院ノ關係者トス
- 第三條 法類總代ハ二名以上トシ前上住職法類互選ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス
- 第四條 前條互選資格ヲ有スル法類ハ當該寺院ヨリ豫メ宗務所ヘ届置クヘキモノトス
- 第五條 法類總代ハ滿五ヶ年毎ニ改選シ宗務所ヘ届出ツヘキモノトス
- 三三 改選ノ際再選スルモ妨ケナシ

第六條 法類總代ノ選定ハ當該寺院住職ニ於テ管理スルモノトス

第七條 宗制第七十七條ニ依リ止ムヲ得サル慣例アル寺院ニ限り組寺總代ヲ併置スルコトヲ得

但シ其選定方法ハ法類總代ニ同シ

宗制第七十七條

- 本寺末寺ノ關係ハ宗制寺法及ヒ宗規ニ抵觸セサル限りハ從前ノ慣例ニ從フ
- 第二組 寺
- 本宗ニハ組寺ノ組織法ハ全ク無之

淨土宗

第一 法類

一 法類ノ意義

法類トハ主トシテ法緣關係ヲ以テ結バレタル僧侶ノ結合體ト云フベク其形質ヲ分ツニ下ノ如シ

宗規法類條規第一條

「第一條 法類ハ法脈關係ノ緣類トシテ民法親族ノ例ニ準シ師僧ヲ父母ニ徒弟ヲ子ニ擬シ三親等マデノ者トス

前項法類ノ外ニ尙契約ニ依リ三名以内ノ法類ヲ定ムルコトヲ得

第一項ニ該當スル法類ナキ者ハ契約ニ依リ三名以内ノ法類ヲ定ムルコトヲ要ス」

トアルハ法類ノ形式ヲ定メタルモノニシテ於中第一項ハ法脈關係（傳法上ノ系脈ニアラズ得度教養ノ關係ヲ指ス）ノ近キモノヲ法類ト定メタルモノ、第二項第三項ハ相互ノ諒解ニ依リ契約ヲ以テ法類關係ヲ結ヒタルモノ、前者ヲ法脈法類ト稱シ後者ヲ契約法類ト稱ス法脈關係ヲ有スルモ法類ニ非ザル場合アリ次ノ如シ

法脈關係アルモ法類ニ非サル場合

直接法脈關係ヲ有シ乍ラ事實上法類ニ非サル場合多シ所謂得度教養ノ關係ヲ有セズ唯傳法附法ニ於テノミ師資關係ヲ結ベル場合ナリトス淨土宗ニ於テハ傳法附法ハ本山住職又ハ特別ノ慣例アル檀林住職ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得ト定メタルヲ以テ淨土宗ノ僧侶ハ悉ク本山又ハ檀林住職ニ就テ傳法受法ス從テ其法脈又ハ血脈ナルモノハ得度教養ノ師ニ於テ之ヲ允可授與スルモノニ非ズシテ總テ傳法ノ師タル本山又ハ檀林住職ヨリ之ヲ允可傳授スルモノナリ斯ノ如ク傳法上ニ於テノミノ師資、法孫弟乃至法叔伯父母、法甥姪ノ關係ハ是ヲ法類ト見做サズシテ唯得度教養ノ關係ニ於テノミ法脈法類ノ成立ヲ許スモノナリ

法類關係ノ内容

前述ノ如ク法類得度教養ノ關係及ヒ契約關係ニ依リテ成立スル故ニ他宗派ノ僧侶又ハ入信ノ在俗者モ法類關係ヲ結ビ得ベキニ似タレドモ事實ハ然ラズ唯同一宗派内ノ僧侶ニ限定セリ是レ法類成立ノ因由中其必要ト理由トノ存シタルガ故ト云フベシ今淨土宗ニ於ケル法類ノ沿革ニ就テ一瞥セシニ

宗祖法然上人在世ノ時上人ニ就學受法セル學侶門弟甚タ多ク其門ニ所謂西山、長樂寺等ノ四派ノ分立ヲ見、鸞鳳輩出スト雖世人此等ノ人ヲ以テ悉ク上人ノ法類ト見做サズ又上人自ラモ其法類又ハ法類々似ノ者トモ考ヘラレザリシガ如シ勿論當時ニ於テ法類ナル制度ノ存在セル確證ナキモ法

類々似ノ實存シタルハ疑フベカラズ

法然上人行狀繪圖第四十五卷ニ勢觀房源智ノ傳ヲ記シテ

勢觀房源智ハ（中略）

備中守師盛の子小松府重盛の孫なり（中略）

生前十三歳の時上人に進す

（中略）常隨給仕首尾十八ヶ年上人憐愍覆護他と異にして法土の法門を教示し圓頓戒この人をもちて附屬とし給ふこれによりて道具、本尊、房舎、聖教のこる所なくこれを相承せられき

ト云ヒ又漢語燈第十卷等に宗祖の遺戒文ヲ載セテ

普告予門人於予没後就坊舎資具等莫起諍論白衣尙可愧況於緇服乎門徒雖多信空實是多年給仕弟子因爲表懇志聊有遺屬謂黒谷本房兼殿白川本房兼殿坂下園兼殿一所洛中領地一所此外本尊聖教撰寫六卷等付屬之者也又吉水中坊舊在西山坂谷高島領地一所又吉水西舊房長尊其本主也今還遺之中略此外雜舎一兩皆附西房附屬之長尊也感西長尊是亦年來常隨弟子故付與之者也（下略）

ト云ヒ行狀繪圖翼賛ニ前ノ「道具」ノ語ヲ註シテ

道具とは今時世出世の具に通じていへども本は佛具を云ふなり

ト云フ是等ニ依リテ見ルニ法然上人ニ於テモ没後其資具ヲ附法ノミノ高弟タル聖光、隆寛等ニ與ヘズシテ得度又ハ教養ノ門弟タル源智、信空、感西等ニ附與セラレタル者ト見ルベシ是ノ例相傳ヘ徳川氏時代ニハ更ニ縁山（増上寺）學寮ノ如キマデ悉ク法類相續ト定ムルニ至レリ

上來ノ經緯ヲ考フルニ法類トハ主ニ出世間ノ三寶物即チ法具（寺院佛堂佛具等）相傳ニ就テノ僧侶間ニ於ケル次第並ニ關係ノ順序ヲ表ハセルモノト見ルヲ得ベシ換言セバ法類トハ得度教養ノ關係ヲ主トシテ結合セル同一宗派内僧侶ノ集團ニシテ出世間三寶物（法具）ヲ傳持シ又ハ保管處理ス

二 寺附法類

ル權能アル者ノ類別ヲ指スト云フベキナリ

寺附法類ナルモノハ其實無キニ非ズ又坊間其名稱ヲ用ヒサルニ非ルモ現制規上之ヲ認メズ而カモ別ニ不都合ヲ生セサルナリ

寺附法類ハ其源ヲ僧侶ノ法縁關係ニ發スルモノ多ク寺院相互ノ法縁關係ニ發スルモノ少シ今淨土宗ニ於テ寺附法類ノ成立セル場合ヲ見ルニ大略次ノ如シ

イ 寺院古來ノ縁故慣例ニヨルモノ（縁故慣例ノ事實）

寺院ノ縁故慣例ニヨリ寺附法類ヲ形造レル最モ顯者ナル例ハ長野市善光寺塔頭十四坊ナリトス此ノ各坊ハ古來善光寺本尊佛ヲ中心トシ其護持者タル若麻績一門ノ法類ニヨリ相續シ來リテ未ダ他系ノ入ルコトヲ許サズ若麻績一門トハ善光寺創草以來同寺本尊佛ノ傳持守護者ト見做スベキモノニシテ古來僧籍ニ在リテ僧體ヲ爲スト雖代々血統ヲ以テ相續シ假令法脈上親近ノ者アリト雖若麻績一門ニ非サレバ各坊ヲ相續セシメズ 即チ各坊ハ善光寺開創ノ縁故ニヨリ寺附法類ノ關係ニアルモノナリ

又東京市外目黒祐天寺開山祐天上人ノ開基、開創開眼其他縁故寺ガ互ニ法類關係ヲ結ベルガ如キ皆寺院古來ノ縁故關係ニヨリ寺法類トナリタルモノナリ然レトモ今日ニ於テハ寺附法類ノ制度存セザルヲ以テ其面影ヲ殘スノミナリ。

ロ 寺院ノ法脈關係ニヨルモノ（法脈ノ稱呼沿革）

寺院ノ法脈關係ニヨリ寺附法類ノ關係ヲ生シタルモノハ栃木縣芳賀郡大澤村名越流檀林圓通寺ヲ本寺トスル寺院ニシテ壬生寮及秋田寮ヲ中心トスル二種ノ法類關係ヲ其著シキモノトス 壬生寮法類系ノ寺院ハ栃木縣下都郡賀壬生町興光寺ノ學頭良範ヲ中心トシテ起リタルモノニシテ曾テ栃

木縣ノ西部、福島、秋田、山形ノ四縣下ニ亘ル圓通寺末寺ヲ其所屬トシ秋田寮法類ハ茨城縣北相馬郡文間村圓明寺ノ學頭良達ヲ中心トシテ起リタルモノニシテ常總一圓ノ圓通寺末寺院ヲ所屬トシタルモノナリ今日ヨリ之ヲ見レバ明カニ寺附法類ナルモ其初ハ矢張り個人ノ法類關係ガ寺附法類ニ轉化シタルモノト云フベシ

ハ 同一本寺ヲ有スルニ因ルモノ

（本寺ノ名稱所在地及關係末寺數）

同一本寺ヲ有スルニヨリ寺附法類ノ關係ヲ爲スモノハ前述長野市善光寺ヲ本寺トスル同寺塔頭十四坊ヲ主トシ千葉縣生實大嚴寺全小金東漸寺茨城縣飯沼弘經寺全結城弘經寺全瓜連常福寺埼玉縣川越蓮馨寺全岩槻淨國寺全鴻巣勝願寺群馬縣館林善導寺全太田大光院等ノ田舎檀林十三ヶ寺ノ末寺等ナリトス前者ガ善光寺ヲ本寺トスルニ由ルハ勿論ニシテ後ノ檀林十三ヶ寺ノ末寺ノ若干ガ法類關係ヲ結ブニ至リシハ貞享二年十一月廿九日奉行所ヨリノ定書及下知狀ニ其端ヲ發シタルモノ、如ク小金東漸寺志中ニ

貞享二年仰出之内田舎檀林十三ヶ寺近邊に有之候知恩院増上寺兩末寺之分其檀所ハ或末寺或支配ニ相附可申候（中略）自分之弟子は不及申又末之弟子迄其檀林へ令入寺可被爲致修學勿論爲支配寺上ハ對能化不化有無禮候

ト云フハ其新附末寺ガ同一檀林ヲ本寺トスルニ依リ法縁間關係ヲ結ブニ至リシ證左ト見ルベシ

ニ 契約關係ニ依ルモノ

現時淨土宗ニ於テ存スル契約法類トハ寺附法類ト云フヨリモ寧ロ身附法類ノ部ニ屬スベシ但シ現在ニ於テモ寺院ノ住職スル等ノ場合右ノ學寮相續又ハ法類寺ニ住持タル場合ノ如ク寺院ヲ中心トシテ契約ニ因リ法類關係ヲ結ブモノ少ナカラズ此所謂契約ニ因ル法類トハ古來ノ寺附法類ニモ

非ズ現時ノ契約法類ニモ非ズシテ而モ其兩者ニ通スルモノナリ即チ法類間ニ於テノミ相續傳持セ
ル學寮又ハ寺院ヲ余義ナキ事情ニ因リ他系ノ人ニ相續セシメサル可カラサル際其人ヲ自己ノ法類
中ニ取リ入レ寺附法類ノ一種ノ形ヲ作り以テ其相續ヲ行フモノニシテ綠山志第八補秀室ノ條下ニ
神秀室、通譽大僧上ノ碑ヲ安置、永世法縁相續すべきの定書を賜り祠金書籍等共に附什ありて
他に傳ふることをなし故に此寮に主たる僧はたどひ他の法流なりともみな法縁に屬す近世唱聲上
人は三河國松應寺に住せられ觀源は阿波の國淨智寺に住職ありみな正流に非ず。

トアル如キ文政以前此種ノ法類關係ノ盛ニ存シタル證トスベク此例甚ダ多シ
ホ 法源同一ナルモ遠近ニ依リ法類區別スルモノ
ヘ 地域ニ依リ又ハ寺院數ニ依リ法類關係ヲ定ムルモノ
右二種ノ理由ニヨリ法類關係ヲ結ブモノ存スベキモ今適例ヲ得ズ法源同一ニシテ遠近ノ區別ニ依
リ寺院間ニ親疎ヲ生ズルハ寧ろ組寺成立ノ因ニシテ地域ニ依リ法類關係ヲ結ブガ如キハ身附法類
中ノ契約法類ノ部ニ屬スベシ寺院數ガ法類關係ニ影響アル如キハ殆ンド其例ヲ見ズ而シテ上記寺
附法類モ今日ニ於テハ既ニ歷史上ノ事實ニ屬スト云フベク現制度上ニ於テハ全ク其形ヲ有セザル
ナリ

三 身附法類

イ 師弟關係

師弟關係ニ依ル法類ハ現淨土宗ノ制度ニテハ其續柄及範圍ヲ左ノ通り規定セリ

- 一 親等 師僧 兄弟
- 二 親等 祖師僧 孫徒弟 法兄弟
- 三 親等 曾祖師僧 曾孫徒弟 法叔伯父母 法甥姪

即チ三等ノ區別ヲ爲スモノニシテ其中ノ師僧トアルハ得度教養ノ雙方ヲ含ムモ傳法ノ師ハ其類ニ
入ラズ古來法類ノ親等ヲ制規ヲ以テ區別スルコト無カリシモ近時民法ノ擧ニ倣ヒ制規中ニ此ノ差
別ヲ加ヘタルモノナリ然レトモ舊來斯ノ如キ差別無カリシ故ニ通常ノ場合ハ前記三親等以外ノ者
ヲモ法類ト見做シ又事實上法類ノ交ヲ爲スモノ多シ

淨土宗ノ現制度ニ於テハ法脈契約ノ二種ヲ認ムルニ依リ表面上法脈ノ關係ニヨリ法類關係ヲ結ブ
モノ多キガ如ク見ユルモ其法脈關係ト云フモノハ實ハ師弟關係ニシテ宗脈、戒脈ヲ傳授スル傳法
上ノ法脈關係ニ非サルコト既述ノ如シ淨土宗ノ制度ニヨレバ傳宗傳戒ノ式ハ總本山智恩院、四箇
大本山其他特別ノ慣例アル檀林ニ於テ行ヒ其傳燈師傳戒師ハ即チ傳法ノ師ハ總本山住職大本山住
職又ハ特別ノ慣例アル檀林寺院住職ニシテ其受者ハ相當資格ヲ有スル一般僧侶ナリトス故ニ此ノ
意味ニ於ケル法脈關係者ハ古來之ヲ法類ト見做サス故ニ法脈法類ノ名稱アルモ傳法上ノ法脈關係
ニヨリ法類關係ヲ認ムルコト無キナリ

ハ 學寮關係(學寮ノ名稱及沿革)

學寮關係ニテ法類ヲ結ベルモノ多シ寺附法類ノ下(ロ)寺院ノ法脈關係ニ依ルモノノ部ニ述ベ
タル名越流檀林間通寺末壬生寮、秋田寮ノ關係、東京増上寺ノ舊學寮中學頭寮幹事寮ヲ除キタル
蒼龍窟、團盟室、最澤室、海藏窟、碧窟室、止觀室、止著室、蔡萃樓、神秀窟、在心室、淵龍窟
寶樹窟、進德亭、大塔庵、金毛窟、旭松亭、旭松軒、淨光窟、無爲窟、作業室、自足室、積累室
法輪窟、慈仁室等ノ學寮關係者ハ假令ヒ法系若クハ持寮系ノ別アルモ共ニ學寮關係者ヲ以テ法類
關係アルモノトシ學寮ヲ中心トシテ法類關係ヲ結ビタルモノナリ(綠山誌第八卷參照)

侶ノ間ニ於テ尙其遺形ヲ存スルモノアルガ如キモ宗門トシテハ公式ニ法類關係アリトハ認メサルナリ

ニ 契約法類

師弟、法脈、學寮ノ關係ニアラズシテ任意ニ法類關係ヲ結ブモノ之ヲ契約法類ト稱ス宗規法類條規第一條ニ「契約ニヨリ三名以内ノ法類ヲ定ムルコトヲ得、法脈法類ナキ者ハ契約ニヨリ三名以内ノ法類ヲ定ムルコトヲ要ス」(取意)トアルモノ是ニシテ法類ハ住職死亡後任住職ノ推選、遺族遺弟ノ保護等ニ付最善ノ處置ヲ取ルベキ者ナルガ故ニ法脈法類無キ場合若クハ法脈法類中其人ヲ得サル場合其信賴スル人ヲ法類中ニ入レ其後事ヲ委スルガ如キハ契約法類設定ノ有力ナル理由ト見ルベシ

四 法類ニ關シ登録等ノ制アルモノ届出登録等ノ手續

宗規法類條規第二條ニ「法類ノ氏名ハ法類連署ヲ以テ所屬組長及教務所ヲ經由シ宗務所ニ届出ツベシ宗務所及教務所ハ之ヲ法類臺帳ニ登録ス」トアリテ法類ノ届出及登録方ヲ規定ス届出ハ下ニ添付スル書式ニ依ル

五 法類ノ解除、脱退及資格ノ喪失(事由、方法)

イ 解除及脱退ノ場合

甲 法類相互ノ喫約又ハ申合ニヨルトキ

乙 契約法類ニシテ届出後滿三ケ年ヲ經過シ三十日以内ニ契約者ガ被約者ヲ解除改選シ届書ヲ差出シタル場合

ロ 資格喪失ノ場合

甲 法脈法類ニ於テハ法縁關係(師弟關係ニシテ傳法關係ニアラズ)ヲ離レタル場合

六 法類總代

イ 員數

一名ニ限ル從前ハ三名以内ト規定セラレタル時モアリタリ

ロ 被選資格

現制度ノ下ニ於テ法類總代タルコトヲ得ルモノハ法類中ニ於テ一ケ寺住職タル者ニ限ル但シ懲戒處分中ノ者ハ一ケ寺住職タリト雖法類總代タルコトヲ得サルモノトス

ハ 選定方法

別ノ規定ナシ任意選定届出ルモノトス

ニ 届出及登録手續

甲 届出方法 別紙雛形ニヨリ本人及法類總代ノ連署ヲ以テ所屬組長ヲ經由シ教務所及宗務所ニ届出ルモノトス

乙 登録方法 教務所及宗務所ハ其届出アリタルトキ之ヲ法類臺帳ニ登録ス

ホ 任期

任期ハ届出後滿三ケ年トス但シ繼任ヲ妨グス古ク任期ヲ規定セザル時モアリタリ

ヘ 資格喪失

甲 法脈法類ニシテ法脈關係(師弟關係ニシテ傳法關係ニアラズ)ヲ離レタル場合

乙 總代タル者ガ停權以上ノ懲戒處分ヲ受ケ其懲戒期間内ニアル場合

ト 職務權限

- 甲 法類協議會（世間ノ親族會議ノ如キモノ）ノ議長トナル
- 乙 法類ガ住職セル寺院ノ寺務若クハ住職者ノ進退等ニ付法類又ハ檀信徒間ニ爭議ヲ生シタル場合仲裁調停ヲ爲ス
- 丙 法類タル住職死亡後法類ヲ代表シ後任住職ノ推選ヲ爲ス
- 丁 法類タル寺院住職死亡後其子弟等ニ對シ保護ノ方法ヲ講ス

第二組 寺

一 組寺ノ意義

組寺ノ意義古來記スルモノナシ蓋シ組内寺院、組合寺院ノ意ニシテ別意アラザルベシ現時ノ制度ニ於テハ全國四十七ノ教區ニ分チ教區ノ内ニ於テ又數個ノ組ヲ分置ス共ニ政府ノ行政區画ニ準シ別ニ其地方ノ勢狀、寺院數、舊來ノ慣例等ヲ參照シテ其區分ヲ行フ古ヘヨリ組中連判等ノ制アリテ組ヲ以テ寺院集團ノ最小單位トシタリ現時ニ於テモ之ヲ宗内寺院結合體ノ最小單位トシテ又寺院自治團體ノ最小機關トシテ之ヲ踏襲ス

二 組寺ノ組織及範圍

イ 組織

組寺ノ組織ハ略々政府ノ行政區画ニ準シ其他慣例地勢、寺院ノ粗密等ニヨリ更ニ幾分ノ手心ヲ加フル所アリ其標準トシテハ別ニ定マレルモノヲ有セズ但シ大略明治二十年五月制定セラレタル教會制度ノ中、中教會ヲ以テ其標準トス幕府時代ニ於ケル組組織ノ標準ハ不明ナリ

ロ 組規約

組規約ハ教務所長ノ認可ヲ經テ現時大抵ノ組ニ設ケラレ居リト雖千差アリテ一攬シ難シ内容ハ（一）組内寺院ノ和親協力 （二）組内寺院施設各種事業 （三）宗務所本山ノ布教及ヒ社會事業及其

- 負擔ニ對スル申合 （四）組合役員ニ關スル規定 （五）組協議會ニ關スル規約 （六）組内寺院關係各種會計等ヲ規定スルモノヲ主トセリ

三 組寺總代

淨土宗ノ現在ニ於テハ組寺總代ニ關スル規約無シ組寺總代ヲ要スルトキハ組長之ニ當ルヲ例トス

四 組長

イ 選舉及任命方法

組内寺院正住職ニ於テ互選シ教務所長ノ具狀ニ依リ執行之ヲ任免ス

ロ 任期

滿二ケ年

ハ 職務權限

左ノ各項ノ事務ヲ掌理ス

- 一 法式法服及座次ニ關スル事項
- 二 組寺院公文書類、諸願伺届ノ教務所及宗務所宛進達及傳達
- 三 組内寺院ノ財産住職其他僧侶ノ異動並ニ其功過ニ關スル事項
- 四 組内寺院僧侶ノ宗務所、教務所及本山ヘノ納金ノ徵收

浄土宗西山禪林寺派

第一 法類

- 一 法類トハ慣行ニ基ツク寺院間ニ於ケル連繫ヲ指ス場合ト師弟關係ニ基ツク僧侶間ニ於ケル連繫ヲ指ス場合トノ二義ヲ包含ス 前者ヲ寺法類トイヒ 後者ヲ身法類トイフ
- 二 寺法類發生ノ源因ハ身法類關係同一本寺關係 同一法類關係又ハ緣故ニ基ツクモノ、三者ナリ 多年ノ慣行トシテ現今ニ於テハ宗制上ノ事實ト公認シ取扱ヒ居レリ
- 三 身法類發生ノ源因ハ單ニ師弟關係ナリトス 法系學系 之ヲ存スルコト無シ
- 四 法類ニハ別ニ届出登錄ノ制度ヲ存セス
- 五 從テ法類ノ解除脱退及總代ニ關シテモ各自法類内部ノ慣習ニ一任ス

第二 組寺

- 一 組寺ハ法要等ノ相互援助ノ爲メニ存スル寺院組合ナリ 亦多年ノ慣行ニ基ツケリ
- 二 從テ其組織範圍總代組長等ニ關シテハ宗制上別ニ明文ヲ存スルコト無ク一ニ慣行ニ從フ

浄土宗西山光明寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

法類トハ創立者ヲ同フスル寺院及法緣アル寺院相互間又ハ師資續柄ノ僧侶相互間ニ於ケル一定範圍ノ集團ニ附シタル稱號ナリ 而シテ前者ヲ寺法類後者ヲ身法類ト云フ

二 寺附法類

一 創立者ヲ同スル寺院相互間

- 二 甲寺ノ徒弟若クハ法緣關係者が乙寺ヘ住職シタル緣故又ハ慣例ニヨル甲乙寺院相互關係
- 三 住職僧侶ノ人體ニヨル何等法緣關係ナキモ甲乙丙寺ハ古來ヨリ寺附法類ナリト稱スル寺院其例僅カナレトモ存ス 然シソレ等ニ對スル特殊ノ契約文書ヲ交換セズ 唯相互寺院住職僧侶ガ法要慶弔ノ場合往來スルニ止マル

寺院ノ法脈關係若クハ同一本寺ヲ有スルコトニヨリテ寺附法類ヲ組成セル寺院ナシ

ハ 法源同一ナレバ一定ノ法類名ヲ稱呼シ其遠近ニヨリテ區別スル事實ナシ

二 地域又ハ寺院數ニ依リ法類關係ヲ定ムルコトナシ

三 身附(又ハ人體)法類

イ 師弟關係ヲ第一トシ大凡左記續柄ノ範圍ヲ法類ト稱ス

師 僧 徒 弟

祖 師 僧 孫 徒 弟 法 兄 弟 等

ハ 法脈關係若クハ學寮關係ニヨリテ法類ヲ組成セル事實ナシ

四 登錄

宗派寺務所へ届出登錄ノ手續ナシ

五 解除脱退

前記ノ如ク未登錄ナルヲ以テ解除脱退及資格存失ニツキテ宗派寺務所之ヲ關知セズ法類寺院相互間ノ認定ニヨル

六 法類總代

員數 一名ヲ原則トスルモ場合ニヨリ二名以上ナルコトモアリ 又總代選出ノ方法ニヨラズ寺院僧侶法縁ノ厚薄ニヨリテ近縁者適宜之レニ當ルコトアリ 被選資格 一寺住職以上 選定方法 法類寺院僧侶推選又ハ選舉ニヨル 任期 二年アリ三年アリ 無任期アリ 各法類ニヨリテ一定セズ 職務權限 法類ニヨリテ一定セザレドモ法類ヲ統御シ相互寺院住職交代堂宇毀建不動産ノ處分其他重要ナル諸願届届ヲ宗派寺務所又ハ行政官廳ニ差出ス場合ニ於テ法類ヲ代表シテ協議ニ參加ノ權能アリ書類ニ署名捺印スルハ其通例ナリ

第二組 寺

一 組寺ノ意義

組寺トハ教義ヲ同クシテ共同的ニ地方教化ノ宣傳ニ努メ法要等ノ場合住職又ハ僧侶相互往來シテ法務修行ニ萬遺憾ナカラシムル一定範圍ノ寺院稱呼ナリ

二 組寺ノ組織及範圍

地域ハ多ク接近セル寺院相互間ニシテ寺院數ハ多ク該組内ニ於ケル法務修行ニ支障ナキ程度ノ最大限度ヲ其組寺數トナシ 各組寺必シモ寺數ヲ一定セズ組規約モ設ケタルモノアリ 單ニ申合セ止

マルアリテ一定セザレドモコレガ根本要項ハ各寺法務ノ場合ニ於ケル往來組寺相互間ノ法務執行ニ關スル案件ノ協議等ナリ

三 組寺總代

一ヶ寺ナリ選出方法ハ推薦又ハ選舉ニヨリテ各組寺ニヨリテ必シモ一定セズ 宗派寺務所ニ届出又ハ登錄ノ手續ナシ 任期ハ二年アリ三年アリ無任期アリ各組寺ニヨリテ一定セズ 又組寺總代選出ノ方法ニヨラズ 適宜慣例ニヨリ組寺ノ意志ヲ代表セシムルコトアリ

職務權限ハ各組寺ニヨリテ必シモ一定セザレドモ相互寺院住職交代大法要其他組内寺院ニ關係アル案件出來ノ場合協議參加ノ權限アリ書類ニ署名捺印ス

四 組長

組長ハ多ク組寺總代之ニ當リ別ニ組長ヲ置カズ

淨土宗西山深草派

第一 法類

一 法類ノ意義

師弟關係僧籍ノ縁類ニシテ恰モ民法ノ規定ニ依ル親等ノ如シ 之ニニアリ 寺附法類 身附法類

二 寺附法類

イ 法類ノ淵源ハ法類内ニ多數ノ檀徒ヲ有スル甲寺院ガ多數ノ徒弟ヲ教養シ該徒弟ノ成業者ハ順次

乙寺院へ住職ス 茲ニ一法類ヲ生ズ 乙寺住職ガ自己ノ徒弟ニ譲リテ他ノ丙寺ニ轉入又ハ死亡シテ
二、三代其ノ系統者ガ相續スレバ其寺院ニ、一、二代法系統ヲ異ニスル者住職スト雖甲寺院ヨリ見
レバ寺附法類トシテ之ヲ取扱ヒ 法系統ヲ異ニスル住職ハ其淵源寺院ヨリハ身附法類トシテ之ヲ取
扱フ

要スルニ法類淵源者ノ勢力ト人格トニ依リテ身附法類タル性質ノ寺院ガ寺附法類ト轉々シタルノ例
多シ 故ニ從來法類トシテ交際シ來リシモ僧籍上何等ノ關係無キ寺院アリ之レニ對シテ本派ハ五ヶ
寺以内ノ契約法類ヲ設ケシムルコトヲ規定セリ

三 身附法類
ロ 寺院開創當時ノ師弟關係ヲ繼續シ居ル寺院ハ皆無ノ狀態ニシテ數百年來ノ變遷ニ依リテ開祖ヲ
同フセル寺院ハ多數アルモ今日ノ法類關係ハ同一ナラズ

イ 師弟關係

甲寺ニ入寺徒弟タルヲ志願シ師僧タルモノ之ヲ許シタル後 行儀法式ノ普通ヲ習修シタル後古式ニ
則リ得度式ヲ行ヒ師僧ヨリ僧名及度牒ヲ授與ス授者ヲ師ト云ヒ受者ヲ徒弟ト云フ

四 法類ニ關シ登録等ノ制アルモノ
法類ハ三親等以内ノ僧籍關係ノ縁類者ヲ謂フ 前項法類ノ外ニ尙契約ニ依リ五名以内ノ法類ヲ定ム
ルコトヲ得

(參照) (宗規第二十三條法類規則第二條)

第一項ニ該當スル法類無キ者ハ契約ニ依リ五名以内ノ法類ヲ定ムルコトヲ要ス
僧籍關係ノ縁類ハ左表ニ依ル

- 一 一親等 師僧 徒弟

- 二 二親等 祖師僧 孫徒弟 法兄弟

- 三 三親等 民法親族例ニ準スル法脉上ノ三親等

第三條 第二條第二項第三項ニ依ル法類ハ契約法類トシテ僧籍法類ノ次ニ列記スヘシ

第四條 寺院住職ハ法類ノ氏名ヲ親等ノ次第ニ從ヒ及契約法類ヲ明記シ法類連署ヲ以テ所屬
教務所ヲ經テ寺務所ニ届出ツヘシ 其異動ノトキ亦同シ
教務所及寺務所ハ之ヲ法類臺帳ニ登録ス

五 法類ノ解除脱退及資格ノ喪失

イ 不都合ノ所爲アリ改悛ノ見込ナク師僧カ其ノ理由ヲ具申シ寺務所ノ承認ヲ得テ離弟シタル場合
及左ノ理由ニ依リ僧籍ヲ削除シタル場合

- (一) 歸俗ノ目的ヲ以テ師僧寺ヲ出テタル者
- (二) 敬上ノ節度ヲ守ラズ師僧寺ヲ出テ五年以上所在不明ナル者
- (三) 他宗他派へ無届轉籍シタル者 (解除)

ロ 管長ノ認可ヲ得テ師僧換ヲ爲シ又ハ轉籍シタル場合 (脱退)
ハ 解除脱退懲戒ニヨリ法類ノ關係ヲ離レタル場合 (資格喪失)

六 法類總代

イ 員數 一ヶ寺ニ付一名 ロ 被選舉權 一ヶ寺住職以上 ハ 選定方法及任期 寺院住職ノ推
薦ニ依リ法類ノ協賛ヲ經テ選定シ届出テ寺務所ニ於テ之ヲ登録ス 任期ハ三ヶ年 ニ、職務權限
住職又ハ前任住職ナキ寺院ノ後任住職ノ推薦權及寺院ニ關スル諸願書ニ調印連署又ハ寺有財産授受
ノ際立會人タルノ權ヲ有ス

第二組 寺

本派ハ之ヲ廢止セリ

臨濟宗天龍寺派

法類ニ關シ本派宗憲宗規ニ規定スルトコロ左ノ如シ

宗規第九號 懲戒例

第七條 左記各項ノ一ニ該當スルモノハ謹慎ニ處ス

二 師資法類等相争鬩シ宗務取締及執事ノ説論ニ服セサル者

宗規第十號 住職任免例

第二條 住職ハ請願ニ依リ管長之ヲ任命ス

第三條 左ノ場合ニ於テハ管長ハ特選ヲ以テ住職ヲ任命ス

二 住職選定ニ關シ法類及檀徒又ハ信徒總代各意見ヲ異ニシ三ヶ月ヲ經過シ尙ホ妥協ニ至ラサルトキ

第四條 前條ノ特選ニ對シテハ本寺法類及檀徒信徒等ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五條 第二條ニ依リ住職ヲ請願セントスルトキハ別ニ定ムル規定ニ依リ法類檀徒總代信徒總代連署ノ上宗務取締ノ奥書ヲ以テ宗務本院へ出願スヘシ

第八條 住職ニシテ後任住職ヲ定メスシテ其地位ヲ去リ又ハ死亡シタルトキハ法類ニ於テ檀徒又ハ信徒總代ト協議ノ上後任住職ヲ選定シ第五條ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 住職ニシテ刑事ノ被告人トナリ拘留セラレタルトキハ其未決中法類及檀徒又ハ信徒總代協議ノ上住職事務取扱人ヲ定メ宗務本院へ届出スベシ

宗規第十八號 寺有財産管理例

第五條 寺有財産帳ハ寺院住職法類及檀徒總代若クハ信徒總代ノ連署ヲ要シ取締ノ證印ヲ受クヘシ

第八條 己ムヲ得サル事由ニ因リ寺有財産ヲ賣買、讓與若クハ質入書入セントスルトキハ住職ハ法類及檀徒若クハ信徒總代連署ノ上管長ノ副書ヲ得成規ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 第三種建造物ノ再建築増築等ヲナサントスルトキハ其設計方法、經費、收支豫算及圖面等ヲ添ヘ法類及檀徒又ハ信徒總代連署ノ上宗務本院ニ出願シ管長ノ副書ヲ得成規ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 寺有財産ニシテ成規ノ手續ヲ履行シ又ハ災害等ニ依リ異動増減ヲ生シタルトキハ法類及檀徒若クハ信徒總代連署ヲ以テ寺有財産帳ノ異動ヲ宗務本院ニ届出ス可シ

第十五條 住職交代ノ際ハ法類及檀徒又ハ信徒總代宗務取締立會ノ上帳簿ニ照合シ後任住職又ハ兼務住職ニ引繼キヲ了シ同時ニ授受者連署ノ上宗務本院ニ届出可シ

第十六條 住職死亡又ハ宗制第八十九條ニ依リ失職セシ者ニシテ前條ノ手續ヲ爲スコト能ハサル場合ハ法類及檀徒又ハ信徒總代ニ於テ寺有財産引繼ノ責ニ任スヘシ

第十八條 兼務住職ハ該兼務寺院ノ毎年度金穀收支計算書二通ヲ調製シ檀徒若クハ信徒總代連署ノ上宗務取締ノ證明ヲ得テ翌年一月中ニ一通ヲ宗務本院ニ差出シ一通ハ自ラ之ヲ保存シ後任住職ニ引繼ク可シ

臨濟宗相國寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

法系及法縁ヲ以テ互ニ相結ヒタルモノヲイフ
本派ニテハ寺附及身附(又ハ人體)法類ノ種別ナク法系法脉上ノ關係ヨリ成ルモノ及ヒ之ニ關係セ
サルモ地域上古來ノ慣例縁故ヨリ成レルモノトアリテ寺院ノ興廢又ハ法政上ノ連帶責任ヲ有スル關
係者ヲ謂フ

イ 開祖同一ナルモノ、又ハ追請シテ開山始祖トセル等寺院古來縁故慣例ニヨルモノ

ロ 寺院ノ法脉關係ニ依ルモノ

ハ 同一法源ノモノニアリテハ宗盟上宗務法等互助的關係ニ於テ近キモノ

ニ 本派宗制上地域ニヨラズ二名ヲ以テ一團ノ法類ト定メ寺院數ニ限定アルコトナシ

第二組 寺

無之

臨濟宗建仁寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

寺院創立ノ開山ガ師弟ノ關係ニ依リ法源、法脉ヲ同一ニシタルモノヲ之ヲ法類ト稱ス

二 寺附法類

寺院創立以來師弟關係ノ縁故ニ依リ其ノ所在地域ノ遠近ニ拘ハス總テ之ヲ寺附法類ト稱ス 法脉ノ
稱號ハ本ヲ法源ト云ヒ分レヲ法孫ト稱ス 其他契約事項等ハ一切之レ無シ
但シ本末寺關係モ之ニ同シ

大本山建仁寺ノ外其本寺ノ名稱ヲ中本寺ト稱ス 其所在地ハ左ノ如シ

一 京都市下京區八坂鳥居前下ル下河原町壹番戶 中本寺 高臺寺

一 福井縣大飯郡青鄉村字日置 中本寺 大成寺

一 山口縣大分郡山口町宇野野令 中本寺 洞春寺

一 大分縣大分郡挾間村 中本寺 龍祥寺

一 大分縣大分郡植田村 中本寺 大泉寺

其關係孫末寺數ハ二十七ヶ寺トス 但シ大本山直末寺數ハ四十六ヶ寺

三 身附(又ハ人體)法類ハ之レ無シ

四 法類ニ關シ登錄等ノ制ハ之レ無シ

五 法類ノ解除、脫退等ノ制ハ之レ無シ

六 法類總代ハ法類ノ寺數ニ依リ二名又ハ三名トス、被選資格ハ住職ハ又兼務住職トス、選定方法ハ法類寺院ノ合意ニ依リ別ニ規則ニ依ル選定法ナシ、登錄ノ手續及任期ノ制ハ之レ無シ、職務權限ハ法類寺院ノ住職選定及法類寺院ノ利害關係問題ニ付之レニ參與シ其寺ノ檀信徒總代ト協商シ之ヲ解決スルモノトス

第二組 寺

(組織無之)

臨濟宗南禪寺派

第一 法類

- 一 法類ノ意義
- 二 甲寺ト乙寺ト同開山ヨリ成ルモノ或ハ甲寺ヨリ乙寺ニ住職ヲ請シタル緣故ニヨリ成立スル之ヲ寺附法類トス
- 三 甲寺住職ノ徒弟乙寺ヘ住職セシ場合之等ノ續柄ニヨリ成立スルヲ身附法類トス
- 四 寺附法類
 - イ 甲寺ト乙寺ト同シ開山ニシテ而モ何世住職ハ甲寺ヨリ請セシ緣故ノモノ
 - ロ 現任職ハ前任職ノ徒弟テアリシノモ或ハ甲寺ニ徒弟ナキ時ハ乙寺ノ緣故寺院ヨリ請シ以テ法脈ヲ相續ス

二 ハ 本寺ノ名稱 瑞龍山南禪寺

所在地 京都市上京區南禪寺福地町

關係末寺數四百三十七ヶ寺

三 身附法類

イ 師弟關係 第一師—法兄弟—法兄弟ノ法資

ロ 法脈關係 釋尊ヨリ第八十一世

師家ノ名稱及閱歷 前管長豊田毒湛禪師ノ法嗣

四 法類ニ關シ登錄等ノ制アルモノ届出登錄等ノ手續

宗務本所ニ寺附法類及身附法類元簿ヲ備ヘ置キ之ヲ登錄ス

五 寺附法類及身附法類ヲ有スル寺院ハ別ニ定メラレタル書式ニヨリ宗務本所ニ登錄ヲ申請スベシ

寺附法類ハ解除脫退スルコトヲ得ス

身附法類ハ當該寺院住職ノ死亡後後任住職就任ノ上變更届ヲ提出シタル後ニ非レハ其資格ヲ喪失ス

六 法類總代ハ別ニ定メス

第二組 寺

一 組寺ノ意義

全國中本派寺院所在地ニ組寺ヲ設ケ該組内所該内ニアル本派僧侶及檀信徒ニ對シ本派ニ屬スル一切ノ事務ヲ取扱フモノトス

二 組寺ノ組織及範圍

地方區域ハ從來ノ慣例ニヨリ三十區ニ分ツ寺院數ハ其國ニヨリ同シカラス多キ組ハ二十八ヶ寺アリ少キ組ハ六、七ヶ寺トス組規約等ハ本派宗制宗規參照

三、組寺總代ト云ハス組長(取締ト稱ス)選舉法ハ一組内寺院住職ノ互選ヲ以テ之ヲ定メ當選人ヲ宗務本所ニ稟申シ管長之ヲ任命ス任期滿四ヶ年トス

職務常ニ本末ノ氣脈ヲ疏通シ和親ヲ努メ以テ興學布教ノ事ヲ策勵ス
權限本派該組所轄内ノ僧侶及信徒間ニ生シタル總テノ紛擾ヲ調停和解ス或ハ該組所轄内ノ僧侶及信徒ニシテ特殊ノ功勞アリ又ハ其善行ヲ表彰スベク或ハ素行修マラサル者ニ訓誡ヲ加ヘ又ハ本派宗制宗規ニ違反シタル者アル時其事由ヲ管長ニ具申シ徵戒處分ヲ請求スル權利ヲ有ス

臨濟宗妙心寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

法類ハ往古之ヲ法眷ト云フ現今法類ト稱スルニ同ジ蓋シ傳法者カ傳法上ノ法師、法叔、法兄弟、法子、法孫等ノ相互ニ對スル稱呼ニシテ慶弔相扶持シ禍福共ニ擁護スルモノ世所謂親戚類ト稱スルニ同シ寺附法類ハ當該寺開山始祖ヲ基準トシテ寺院ニ對スル稱呼ニシテ身附法類ハ住職個人トシテ人體ニ對スル稱呼ナリ

二 寺附法類

イ、寺院古來ノ緣故ニ依ルモノ

甲寺ノ開祖ニシテ又乙寺ヲ開創シタルモノ若クハ甲祖開寺ノ法子ニシテ乙寺ノ開祖タルトキ甲寺乙寺双方ヨリ共ニ法類ト稱ス

但シ第一ノ場合ハ本末關係ノ法類ニシテ第二ハ師弟關係ノ法類ナリ

ロ、寺院ノ法脈關係ニ依ルモノ
開祖ノ傳法々脈ニ依リテ該寺ノ寺院法系ヲ定ム故ニ寺院法系ハ開創以來古來改變アルコトナシ而シテ寺院ニ法地ト平僧地ノ二類アリ法地ハ中級以上ノ寺院ニシテ法系ヲ將來ニ樹立シ得ルモノ平僧地ハ下級寺院ニシテ法系ヲ將來樹立シ得サルモノナリ平僧地ニシテ興隆スル場合法系ヲ將來存續シ得ルトキハ法地ニ改ムルコトヲ得

法系ニ二類アリ佛祖ヨリ的々相承ノ傳法々脈ト寺院ノ系統ニ屬スル法院法系トノ二類アリ開祖ハ主トシテ傳法々脈ニシテ爾後ハ寺院寺系トナル

ハ、同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ
同一本寺ヲ有スルモノハ末寺相互ニ於テモ法類ナリ本寺ト稱スルハ本派法規上末寺及孫末寺ヲ有スルヲ中本寺ト稱シ單ニ末寺ヲ有スルヲ小本寺ト稱ス

中本寺 五七 (大本山直末ニシテ二個類ノ末寺) 末寺(即小本寺) 一三〇

小本寺 五五八 (大本山直末ニシテ末寺「孫末」ヲ有スルモノ) 末寺(即大本山孫末) 二、四二六

(中本寺末ニシテ末寺「曾孫末」ヲ有スルモノ) 末寺(即大本山曾孫末) 二八九

以上ノ外大本山直末ニシテ末寺ヲ有セサルモノアルモ之ヲ省ク
中本寺小本寺所在地ハ省略ス

源同一ナルモ相互遠距離ニ在リテ相扶持スルコト能ハサルモノハ古來法類ノ交際ヲナサス故ニ之ヲ除外ス願フニ交通不便ノ昔ニ在リテハ法類扶持ノ意義ヲ果ス能ハサルニ依リ除外ノ慣例現今ニ至レリ

ホ 地域ニ依リ法類關係ヲ定ムルモノ地域ノ遠隔ニ依リ法類ナキ場合ハ近傍寺院ニ就キ之ヲ定ム、教令第十號第五條ニ詳ナリ

以上法則資格ニ就テハ法則第六十二號法類資格例及教令第十號法類資格規則ニ詳ナリ

三 身附(又ハ人體)法類

イ 師弟關係——續柄及範圍

身附法類ハ住職個人ニ對スル法類ニシテ兼務任職及管理人ニ對シテハ身附法類ヲ定メス住職個人ニ就キ其關係ヲ定ムルコト左ノ如シ

——第一師ノ法兄弟

第三師——第二師——第一師——己身——法資——法孫——法曾孫

——己身ノ法兄弟

ロ 法脈關係師家ノ名稱及閱歷

佛法的傳ノ正法傳燈者ヲ師家ト稱ス其承嗣者ヲ法嗣ト稱シ法嗣者相互ヲ同法ト云フ而シテ是等師資ニ對シテハ身附法類ヲ認メス

四 法類ノ登録

法類ニ關シ登録等ノ制アリ教令第十號第三條第十六條ニ届出登録ノ手續ヲ示セリ

五 法類ノ解除脱退及資格ノ喪失

寺附法類ニシテ登録シタルモノニ對シテハ解除脱退資格喪失等ノ事ナシ但シ教令第十號第四條ノ場

合ハ此限リニアラズ身附法類ハ同令第十二條ニ依リ資格ノ喪失ヲ規定ス

六 法類總代

員數、被選資格(寺附又ハ身附法類ノ區分)選定方法、届出又ハ登録手續、任期、職務權限

員數、寺附身附各一名以上二名以下、其他被選資格、寺附身附法類區分、任期、職務權限等ハ總テ法則第六十二號及教令第十號各條ニ詳ナリ

法則第六十二號 法類資格例

第五條 寺附法類及身附法類ハ其種別ニ依リ各二名宛ノ法類總代ヲ互選スヘシ

但二種ノ法類ヲ合シテ總代二名トスルモ妨ケナシ

第六條 法類總代ノ年限ハ滿四ケ年トス

第七條 各寺院ノ法類總代届ハ法類名簿添付ノ上教務取締ヲ經テ教務本所ヘ進達スヘシ

第八條 法類總代ハ法類寺院ノ願届書等ニ連署スルモノトス

第九條 法類總代ニシテ左記各項ノ事件ニ連署セントスル場合ハ豫メ法類一同協議ヲ遂ケ其多數ノ意見ニ依ルヘシ

一、住職進退

二、寺院創立再興移轉廢合

三、地所建物什物ノ抵當賣買等財產ニ關スル件

第十條 寺附法類身附法類ハ其法類タル寺院ノ重大ナル事件ニ參與スルハ勿論ナルモ住職一身上及其遺產處分等ニ就テハ身附法類ノ主任任タルヘシ

第十一條 身附法類タルモノ住職ヲ辭シ又ハ罷免セラレタル時ハ其寺ニ對シ法類タルノ資格ナキモノトス

教令第十號 法類資格規則

- 第二條 教務本所ニ寺附法類及身附法類元簿ヲ備置キ之ヲ登錄ス
- 第三條 寺附法類ヲ有スル寺院ハ別記第一號書式ニ依リ教務本所ニ登錄ヲ申請スヘシ
- 第四條 寺附法類ニ關シ異議アルトキハ其理由ヲ具シテ教務本所ニ上申スヘシ
- 第五條 寺附法類ヲ有セサル寺院ハ寺附法類ニ準スベキ寺院ヲ選定シ管長ノ認可ヲ得テ登錄申請ノ手續ヲ爲スベシ
- 第六條 寺附法類ニシテ當該寺附法類寺院ノ事件ニ參與スルハ其法類寺院ノ住職又ハ兼務住職若クハ寺務管理人ニ限ル
- 第七條 身附法類ハ法類資格例第四條ニ該當スルモノニシテ本派ニ僧籍ヲ有シ寺院住職タルモノトス
- 第八條 身附法類ハ別記第二號書式ニ依リ師資法縁系圖添付ノ上教務本所ニ届出スヘシ身附法類ノ當該寺院住職交代ノ爲メ異動シ又ハ故アリテ人員ニ増減ヲ生シタル場合ハ其届度届出ツヘシ
- 第九條 身附法類總代被選人ハ六等地以上ノ寺院住職トシ選舉人ハ八等地以上寺院住職トス
尼僧地ニ對スル法類總代ハ此ノ限ニアラス
- 第十條 法類總代届ハ別記第三號書式ニ依ルヘシ
- 第十一條 寺院住職死亡ノ場合ハ寺附法類身附法類協同シテ其寺院ノ事件ニ參與スヘシ
- 第十二條 身附法類ハ當該寺院住職ノ死亡後々住職就任ノ上變更届ヲ提出シタル後ニアラサレハ其資格ヲ喪失セス
- 第十三條 身附法類ヲ有セサルモノハ本規則第五條ニ準據シ身附法類登錄申請ノ手續ヲ爲ス

ヘシ

- 第十四條 寺附法類及身附法類各自特ニ規約ヲ設クル場合ハ管長ノ認可ヲ得ヘシ
- 第十五條 本派由緒寺院及專門道場タル寺院ニ限リ法類資格例第四條ヲ適用セス

第二組 寺

本派ニ於テ宗派行政上地域ノ廣狹寺院ノ多寡ヲ標準トシ教區ヲ設ケ布教其他寺院ニ關スル事項ヲ管轄シアルモ特ニ組寺ノ組織ナシ

大組寺(教區)

地域ノ廣狹寺院ノ多寡ニ依リ之ヲ定ム其標準ハ百ヶ寺以上三百ヶ寺以下ヲ以テ一教區トス、教區規約ノ要項ハ教區費豫算及徵收方法並ニ布教興學寺院興廢ニ關スル事項

小組寺區劃ハ大組寺ノ方法ニ同ジ

其標準程度ハ十ヶ寺以上五十ヶ寺

臨濟宗建長寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

法源ヲ同ウスル寺院及ヒ同一法系ニシテ特別ノ緣故アル寺院間ニ慣例ニ依リ相互ニ重要ナル事件ヲ協議決定スルモノトス、例ヘハ住職進退、不動産ノ移動等ニ就イテ其寺院隸屬ノ檀信徒ト協議決定ス

現行宗典ニハ單ニ法類ト稱シ寺附身附ノ區分無シ

寺院古來ノ緣故慣例、又ハ契約ニ依ルモノ
現行宗典ニハ法類登錄ノ規定ナキモ末寺相互間ニ於テハ緣故慣例ニ依リ各自之レヲ承認シ事務ヲ處理ス

寺院ノ法脈關係ニ依ルモノ

法脈ノ稱呼及ヒ沿革、法類ハ其法脈ニ依ルヲ正當トス、ソノ法脈ノ主ナルモノハ本派ニ於テハ大覺派、佛光派、中峰派ノ三トナス
大覺派ヨリ佛燈派アリ、佛光派ヨリ、佛國派アリ、中峰派ヨリ遠溪、印元兩派アリ現今ニテハ中峰下ノ遠溪派カ末寺ノ大多數ヲ占ム

同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ

本寺ノ名稱 大本山、中本寺及ヒ小本寺ノ三トナス

本寺ノ種類	名稱	所在 地	末寺數
大本山	建長寺	神奈川縣鎌倉郡小坂村山之内	四二六
中本寺	歸一寺	靜岡縣賀茂郡中川村	一一三
中本寺	普濟寺	東京府北多摩郡立川村	二〇〇
中本寺	廣德寺	東京府西多摩郡五日市町	二〇〇
中本寺	法雲寺	茨城縣新治郡斗利出村	一六
中本寺	吉祥寺	東京府西多摩郡檜原村	一六
中本寺	光嚴寺	東京府下西多摩郡戸倉村	一六
中本寺	光明寺	神奈川縣津久井郡串川村	一六

寺名	所在地	末寺數
中本寺	雲居寺	一六
中本寺	瑞光寺	一一二
中本寺	林際寺	一一一
十ヶ寺以下ノ末寺ヲ有スル中本寺四十七ヶ寺アリ		
小本寺	普門寺	八
小本寺	宗建寺	一
小本寺	福正寺	一
小本寺	清雲寺	一
小本寺	龍谷寺	一
鎌倉箱五山、列岳、壽福寺、淨明寺ハ特例地トシテ取扱フ		
三 法類ノ解除、脱退及ビ資格ノ喪失		
懲戒例ニ依リ警職ニ處セラレタルモノハ死亡ノ外解退、資格ノ喪失等ナシ		
三 法類總代		
員數ハ壹名若クハ貳名トナス、被選資格、選定方法及ビ届出又ハ登録手續、任期職務權限現行宗典ニ規定ナシ		

第二組 寺

- 一 組寺ノ意義
- 法類ニ準シ一定ノ寺院間ニ相互ニ重要ナル事項ヲ處理シ相互ニ補佐スル者トス
- 二 組寺ノ組織及ビ範圍
- 地域ニ依リテ分チ寺院數ニ制限ナシ

- 其ノ規約等ハ宗務院ヨリ干涉スルコトナク現行宗典ニ則リ各行政區域間各寺院協議ノ上コレヲ定メ
- 二各組寺ハコレヲ適用ス
- 三組寺總代
- 員數ハ壹名若シクハ貳名トス、選定方法、届出又ハ登録ノ手續任期及ビ職務限別ニ規定ナシ

臨濟宗東福寺派

第一 法類

- 一 法類ノ意義
法類トハ法縁上ニ於ケル親類ト云ヘル意義ナリ
- 二 寺附法類
 - イ 其寺開山以來主トシテ師弟關係ヨリ生ジタルガ故ニ重ナル法要若クハ不時ノ災變等ニハ相互ニ補佐シ又ハ本山並ニ諸官衙ニ對スル諸願書類ニ調印ヲ要スル場合ニハ相互ニ之レヲ爲ス慣例ナリ
 - ロ 寺院ノ法脈關係ニ依ルモノ
寺該開山ノ法脈ヲ繼承シテ一寺ヲ創立シ又ハ分法シテ在未ノ寺院ニ住居シ末寺トナリタルモノニシテ法源地ヲ本寺ト稱シ法脈ヲ繼承モシ寺ヲ末寺ト呼ブ
 - ハ 法源ハ同一ナルモ地域關係ニ依リ親疎ノ區別自ラ生スルコトアリ縱令バ從テ末寺ナルモ官廳ノ許可ヲ得テ他府縣ニ寺號移轉セシ場合ハ本寺トノ關係モ亦疎遠トナレルガ如シ

二 法脈ハ異ナルモ地域ニ依リ寺院數些少ナル場合ニハ法要執行又ハ推舉調印ヲ相互ニ爲シ自然ニ法類關係ヲ生ズ

三 身附法類

乙寺ヨリ適當ナル徒弟ヲ選定シ甲寺ニ後任任職タラシムル時ヨリ始メテ相互ニ法類關係ヲ生ズ但シ該關係ハ一代限リトス

第二組 寺(本派ニテハ教區寺院ト稱ス)

一 教區ノ意義

一 教區トハ一地方寺院相互協力教務、法務等ニ從事スル其區域内寺院ト云フ意義ナリ

二 教區ノ組織及範圍

地理ヲ按配シ十ヶ寺以上三十四ヶ寺ヲ以テ一教區トナシ取締一名ヲ置キ之レヲ統理ス
範圍 四五里乃至三十里ニ亘リ一郡若クハ二郡ニ跨ルモノアリ

取締

員數 一名

選出方法、教区内寺院ノ互選トシ高點者ヲ宗務本院ニ届出管長定テ任命ス任期ハ滿三ヶ年トス
取締ハ管長又ハ宗務本院ノ指揮ニ從ヒ支院百般ノ事務ヲ司管シ其責ニ任ズ

臨濟宗大德寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

法アツテ伽藍アリ師アツテ兒孫アリ一人出世シテ兒孫四方ニ分布ス、本山アツテ末寺アリ根ヨリ幹ヲ生シ相次テ枝葉ヲ生ス元ト一開山ヲ戴クモノハ恆ニ之ヲ見レハ其全末寺並ニ住僧ハ盡ク法類ニ屬ス然レトモ源遠キモノハ流レ長ク分派轉傳シテ其間自ラ親疎ヲ生シ寺院發達ノ停止スルニ及ヒ茲ニ最親ヲ探テ法類ヲ定メ法類ノ名義斯ニ成立ス

二 寺附法類

本派ニ於テ法類アルモノハ一種ノ不文律ニシテ別ニ届出等ノ制ヲ設ケス從テ貴問ノ如キ精密ナル規定ナシ唯其寺最親ノ法脈關係ヲ以テ法類トス

三 身附法類

或ル場合ニハ師資昆季ノ續柄ヲ以テ法類ヲ設クルモ公式ノ場合ニハ遵用セズ即チ住職ノ箇人ニ關スルモノトス

四 法類ニ關シ登録等ノ制アルモノ

本派ニハナシ

五 法類ノ解除脱退及資格ノ喪失

本派ニハ其制度ナシ

六 法類總代

別ニ規定ヲ設ケズ

第二組 寺

本派ニハ組寺ノ制度ナシ

臨濟宗圓覺寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

最親ノ法源タル寺院及其法源ヲ同フスル寺院及特殊ノ慣例緣故アル一定ノ寺院間ニ於テ相互ニ重要ナル事件例ヘハ住職ノ進退寺有財産ノ異動等ニ就キ協議決定スルモノヲ云フ
現行宗典ニハ單ニ法類ト稱シ寺附身附ノ區別ヲ存セズ
イ 寺院古來ノ緣故、慣例ノ事實、契約事項

緣故 緣故ノ事實分明ナラズ

慣例 地域の便宜ト法系トヲ斟酌シ各地小區域ヲ限リテ何々門中ト稱シ互ニ法類關係ヲ定ム

契約 ナシ

ロ 寺院ノ法脈關係ニ依ルモノ

法脈ノ主ナル者佛光派、佛滿派、佛源派、夢窓派等トス 以上幾多ノ隆替ヲ經テ今日ニ至ル
ハ 同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ
本寺ノ名稱所在地及關係末寺數

大本山 圓覺寺

鎌倉郡小坂町山之内

末寺 貳百七ヶ寺

臨濟宗圓覺寺派

中本寺	國清寺	静岡縣田方郡垂山村奈古谷	末寺	五十六ヶ寺
小本寺	關興寺	新潟縣南魚沼郡石打村	末寺	六ヶ寺
同	月桂寺	東京市牛込區市ヶ谷河田町	末寺	參ヶ寺
同	泉龍寺	群馬縣佐波郡名和村	末寺	拾ヶ寺
同	極樂寺	神奈川縣足柄上郡南足柄村狩野	末寺	六ヶ寺
同	甘掌院	埼玉縣南埼玉郡久喜町	末寺	四ヶ寺
同	興禪寺	千葉縣安房郡富浦村	末寺	六ヶ寺
同	普應寺	福島縣岩瀨郡須賀川町	末寺	五ヶ寺

二 法源同一ナルモ其遠近ニ依リ法類ヲ區別スルモノ
 其事實

同一法系多數ナル場合ハ相互ノ諒解ノ上關係寺院ヲ地理ノ便宜ニ制限シ法類關係ヲ結ブ
 ホ 地域ニ依リ又ハ寺院數ニ依リ法類關係ヲ定ムルモノ
 其事實

同法源ノ寺院ノ所在地極メテ遠隔ナル場合ハ同一法系ニ非ザル寺院ト法類ノ關係ヲ締結スルコト
 アリ今日ノ慣例ニ多ク之ニ屬ス寺院數ニ依リ法類關係ヲ定ムル事實ナシ

第二組 寺

一 組寺ノ意義

法類ニ準ジ各組内寺院ニ於ケル重要事項ヲ處理シ相互ニ扶助スルモノトス

二 組寺ノ組織及範圍

地域、寺院數ニ依ルモノハ其標準程度

地域依ル標準凡 一、二里ヲ限リ其地方重ナル地名ヲ冠シ何々門中ト稱シ組寺關係ヲ組織ス
 寺院數ニ依ルモノナシ
 規約ニ依ルモノナシ

三 組寺總代

總代ヲ設クル規定ナリ登錄ノ手續ナシ若シ總代ヲ必要トスル場合ハ其組内ノ重ナル寺院ニ於テ總代
 タルコト不文律ノ規定ナリ

臨濟宗永源寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

甲寺開祖又ハ中興等ノ法脈相承者(各人)ニシテ乙丙丁等ノ寺院ヲ創建若クハ中興シテ其法系ノ存
 續スルトキ甲、乙、丙、丁ノ各寺ノ關係ヲ法類ト稱ス

二 寺附法類

往昔輪番地寺院ニシテ開祖ノ法系傳ハラサルモノヲ中古嗣法相續寺院ニ改メシモノヲ嗣法祖トシ
 テ法系ヲ存續スル場合嗣法祖ナルモノハ甲寺ノ法系ヲ相續住持シ乙寺嗣祖トシテ分法相續者ヲ乙

寺ニ住持セシメ其法系ヲ存續スルトキハ甲乙二寺ハ即チ法類トナル
但シ此ノ寺院制度ハ文政年間ノ制定ナリ

第二組 寺

臨濟宗方廣寺派

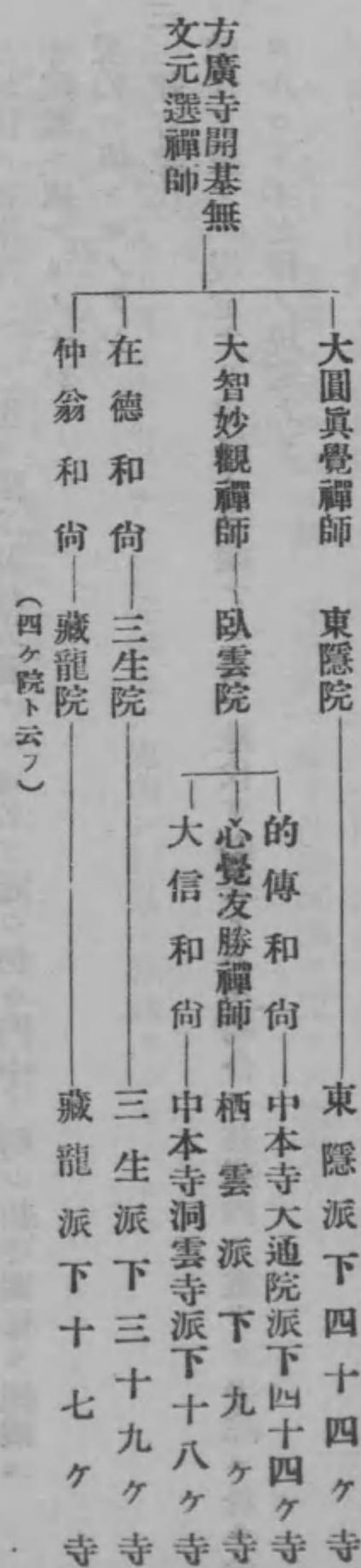
第一法類

一 法類ノ意義

法類ト稱スルハ最近ノ法源タル寺院及其法源ヲ同クスル各寺院ヲ云フ

二 寺附法類

法脈關係及本末關係ニ依ル



備考 方廣寺派下ト稱スル中ニ以上ノ四ヶ院及栖雲派洞雲派大通派ヲ總稱スルモノトス

東隱院、臥雲院、三生院、藏龍院ノ所在ハ靜岡縣引佐郡奥山村奥山

栖雲派ハ臥雲院ニ合併セラレタルモノ

大通院ハ靜岡縣濱名郡新津村新橋

洞雲寺ハ全 全 神久呂村神ヶ谷

(イ)及(ニ)、ニ該當スルモノナシ

ホ 四ヶ院、大通、洞雲ニ所屬セザル場合ニ於テハ開祖法系ノ最親近ナル寺院又ハ本脈内最近距離ノ寺院ヲ法類トス

三 本派ニ於テハ身附法類ニ該當スルモノナシ

四 法類總代

總代ハ滿三ヶ年毎ニ改撰スルモノトス此場合ニ於イテハ寺院住職新舊總代連署ヲ以テ届出ノ事備考 法類ハ規定ニ依リ寺務ニ對スル書知ニ連署スルノ外凡テ法類各寺院ニ利害ノ及ボスベキ重要ノ件並ニ佛事法要等ニ關シ相互ノ法盟ヲ厚フシ贊助スベキモノトス

第二組 寺

一 組寺ハ法務互助ノ目的ヲ以テスルモノトス

二 地域ニヨルモノニシテ大凡一里範圍ヲ標準トス

三 組寺總代ハ一名トシ互選ニ依ルモノ、三ヶ年ヲ以テ一期改選スルモノ、組寺内ニ起レル凡テノ重要事項ニ代表スルモノトス

臨濟宗佛通寺派

本派ニ於テ法類ニ關シ宗典法則ニ規定セルモノ左ノ如シ

法則第四號 佛通寺派住職任免例

第四條 住職ヲ請願セントスルトキハ戶籍謄本ヲ添ヘ書比第一號ニ依リ兼務住職バ書式第二號ニ依リ副住職ハ書式第三號ニ依リ各其書式ニ於テ連署ヲ要シタル者ノ協議ヲ以テ（前任職或ハ兼務住職又ハ法類、檀徒總代又ハ信徒總代、法類總代、本寺アルトキハ本寺本寺アルトキハ末寺）住職兼務住職又ハ副住職タルヘキ者ヲ定メ連署ノ上地方取締ノ奥書ヲ得テ宗務本院ニ差出スヘシ

右ノ外住職ノ轉住退職等ノ場合ニモ夫々ノ書式ニ依リ寺院關係者ノ協議連署ヲ要ス

法則第十五號 佛通寺派寺屬財產管理規程

第六條 寺屬財產帳簿ニハ其寺院住職法類及檀徒總代又ハ信徒總代連署シ地方取締ノ奥書ヲ受クヘシ

臨濟宗國泰寺派

第一法類

一 寺附法類

イ 寺院古來ノ緣故慣例ニヨル

別ニ契約ニ非ルモ宗盟ヲ以テ各寺互ニ保護監督スル義務ヲ有ス

ロ 本山開山清泉國師以下末寺開山ニ分附遞傳シタルモノナリ

二 身附（又ハ人體）法類

イ 師弟關係

僧侶ハ其衣鉢安名ヲ授クル者ヲ師僧ト稱シ之ヲ受クル者ヲ徒弟ト云フ

續柄及範圍

ロ 法脈關係

開山以後師資相承シタルモノナリ

師家ヲ老師ト呼ビ専門ノ大事畢了後宗師家ノ印可證明ヲ得タル者ヲ云フ

三 法類ニ關シ登錄等ノ場合ハ總テ連署請願ニヨル

四 法類ノ解除脫退及資格喪失等ノ事由方法ナシ

五 法類總代ハ壹名多クハ其首席者ヲ選定シ若クハ事務ニ精通シタル者ヲ選拔シ時宜ニ隨フ事アリ別ニ任期ナシ

第一組 寺

一 組寺ハ各教區内ノ寺院ヲ以テ組織シ別ニ寺數標準程度規約等ノ規定ナシ

二 組寺總代

教區取締ヲ以テ總代トナシ別ニ任期ナシ

三 組長ハ教區取締之ヲ兼務ス

臨濟宗向嶽寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

本派各寺院ハ開山ノ法縁ヲ以テ法類トス

二 寺附法類

イ 開祖ノ法類ニ依リ別ニ契約等ニ依ラズ

ロ 開祖ノ法縁ヲ尊重シ其ノ後ノ法脈ニ依ラズ

ハ 本派大本山開祖ノ法脈ヲ繼承シタル弟子七人アリ之レヲ七派ト稱シ各派ノ法脈ヲ傳持シタル寺

院相互ニ義務ヲ盡ス

七 派

通方明道

十三ヶ寺

峻翁令山

十ヶ寺

傑叟自玄

七ヶ寺

迦心玄祖

八ヶ寺

宗翁祖元

八ヶ寺

眞翁玄可

七ヶ寺

無住道雲

九ヶ寺

三 身附法類

目下規程起草中

第二組 寺

一 組寺ノ組織及範圍ハ別ニ寺院數ニ依ラズ地域ノ便宜ニ依リ設ケ支局長ヲ置キ各地方ノ取締及管長

ニ對シ各寺院ヨリ出願等ノ場合ハ調査シテ與書進達等ノ事務ヲ扱フ

二 組長 本派ハ支局長ト稱シ局内寺院ノ互選ヲ以テ定メ管長ノ認可ヲ得テ就職ス任期ハ四ヶ年トス

曹 洞 宗

第一 法類

一 法類ノ意義

本宗ニ於テ法類ハ師弟ノ關係換言スレハ師(本師)資(弟子)ノ傳法ヨリ生スル或範圍ノ法縁關係ヲ云フ

傳法以前ノ師僧ヲ授業師ト稱シ傳法ノ師僧ヲ本師ト稱シ傳法ヲ得タル弟子ヲ資ト稱ス(授業師ト本師トハ同一人ナルヲ普通トスルモ又同一人ナラサルコトアリ)授業師ハ變更スルコトアルモ一且傳法シタルトキハ再ヒ他人ヨリ傳法スルコトヲ許サ、ルニ付本師ハ絕對ニ變更スルコトナシ師資傳法ノ關係ヲ民法上ノ父子血族ノ關係ニ比較スレハ法類ハ恰モ親族ニ同シ(蓋シ古來「親類」ノ語ヨリ「法類」ノ語出テタルモノナラン)但シ師資ノ傳法ハ前述ノ如ク直接單純ナル關係ナルニ付民法上謂ユル養子縁組ニ依リ父子ノ關係ヲ生スル例及姻族關係ニ比較スヘキ例ハ法類ニハ全然ナシ

一 法類ノ範圍

本宗ニ於テ高祖承陽大師ヨリ孤雲懷辨、徹通義介、太祖常濟大師ト師資相承シ又一部常濟大師以前ノ分派アリ枝派分歧シテ現今ノ一般僧侶ニ至ル迄其ノ法脈頗ル複雑ナルモ根源ニレ逆ハ皆高祖ヨリ傳承セサル者ナキヲ以テ最モ擴大シタル意味ニ於テハ本宗僧侶全體相互法類ナルモ遠近ノ區別及中

途ノ派祖ヲ異ニスル等ニ依リ自然其ノ範圍ヲ局限シテ之ヲ法類ト稱スルニ至レリ然レトモ其局限ノ範圍亦古來一定ノ標準ナク又頗ル範圍廣キ意味ニ用ヒ來リタルモ現行宗規ニハ別項ノ如ク之ヲ局限シ猶更ニ局限的改正ノ要ヲ認ムルニ至レリ是レ恰モ古來親類ノ範圍頗ル廣キ意味ニ用ヒラレタルモノ民法ノ制定ニ依リ親族ノ局限ヲ見ルニ至リタルカ如シ

二 寺附法類

法類ノ意義ハ前段ニ於テ説明スル如ク全ク人ニ屬スル關係ニシテ性質上寺ノ傳統トハ區別スヘキモノナルモ本末ノ成立上末寺ノ創立者ト本寺ノ世代トハ直接師資ノ關係アルヲ原則トシ又創立後ノ寺院ノ繼承モ師資ノ關係アルヲ普通トスルヲ以テ法類關係ト寺ノ傳統ト相離ルヘカラサル關係トナリ從テ本寺ト末寺、及本寺ヲ同一ニスル末寺相互間ニ自然法類關係アルヲ普通トス然レトモ後世ニ至リテ寺ノ繼承者必シモ被繼承者ノ弟子ニアラサルヲ以テ者ノ傳統ト人ノ法系ト相一致セサルニ至レリ

中古寺ノ繼承者其ノ被繼承者ノ弟子ニアラサル場合一旦傳法シタル本師ヲ捨テ、再ヒ被繼承者ニ就テ傳法スルノ慣例ヲ生スルニ至レリ是レ寺ニ依リ師ヲ換フルモノニシテ宗祖ノ洪範ニ違背スルノ弊風ナルヲ以テ元録ノ頃卍山、梅峰ノ二人之ヲ憂ヒ屢官衙ニ哀訴シテ之ヲ復古シ古來ノ正義ニ復シタルハ宗門ノ歴史有上名ナル事實ナリ 然レトモ積年ノ弊垢一洗悉ク拭フコト能ハサルヲ以テ人法ノ外ニ伽藍法ナルモノヲ認メ正義ノ人法(師資ノ傳法)ノ外ニ寺ヲ繼承スル爲メ被繼承者ノ准弟子タルヲ意味スル伽藍法ノ相續ヲ認メ謂ユル伽藍二脈重授ノ規ヲ創シテ當時ノ意ニ充タシメタルモ明治ノ初年ニ至リテ全然之ヲ廢止シ何レノ寺ニ住職スルモ本師ノ外ニ更ニ寺ノ被繼承者ノ法脈ヲ授受スルノ制ヲ禁止スルニ至レリ

之ヲ要スルニ元來法類ハ寺院ノ關係ト離ルヘカラサル關係アルモ性質上全然人的關係ナリ寺ト寺ト法類關係アル場合モ其ノ住職人相互間ヲ通シテノ關係ニシテ寺ト寺ト直接ニ法類關係アルニアラス 本末關係、同門關係ハ寺院ノ聯絡關係ニシテ法類關係ニアラス 此ノ意味ニ於テ本宗ノ現制ニ於テ寺附法類ナルモノナシ

三 身附法類

前二段ニ於テ説明シタル如ク本宗ニ於テ法類ハ全ク師資傳法ヨリ生スル或ル範圍ノ法縁關係ニシテ寺附法類ハ無ク身附法類ニ限ルモノトス面シテ師資關係ヲ法類ノ最近親トシ之ヲ上下左右或範圍マテヲ局限シテ之ヲ法類トス其ノ範圍現制ハ左ノ如シ

洞宗僧籍規程

第五章 法類

第二十九條 法類ノ親等ハ左ノ順序ニ依ル

- 一 師僧、徒弟
- 二 師僧ノ師僧、徒弟ノ徒弟
- 三 法兄、法弟
- 四 師僧ノ師僧ヨリ五代ヲ逆ル間ノ各直屬尊系、徒弟ノ徒弟ヨリ五代ヲ下ル間ノ各卑系
- 五 師僧ノ法兄法弟、法兄法弟ノ徒弟
- 六 師僧ノ法兄法弟ヨリ四代ヲ下ル間ノ各傍系、法兄法弟ノ徒弟ヨリ四代ヲ下ル間ノ各傍系
- 七 師僧ノ師僧ヨリ五代ヲ逆ル間ノ各直屬尊系ヨリ分レタル者ヨリ十代ヲ下ルマテノ各傍系
- 八 前各號ニ定ムル法類ナキトキ又ハ法類ノ分明ナラサルトキハ其ノ他ニ於ケル最近尊系

及最近卑系

九 全各號ニ定ムル法類ナキトキ又ハ法類ノ分明ナラサルトキハ其ノ他ニ於ケル最近傍系但シ此ノ場合ニ於テハ尊系卑系ヲ分ツコトナキモノトス

第三十條 第二十九條第一號乃至第七號ニ定ムル法類多キニ過キ若クハ土地遠隔ニシテ互ニ音問交際ヲ爲ス爲ス能ハサルトヤハ近親法類、協議ニ依リ其ノ各號ノ範圍内ニ於テ法類ヲ局限スルコトヲ得但シ其ノ各號ノ順序ヲ紊リテ之ヲ局限スルコトヲ得ス

第三十一條 傳法以前ノ者ハ授業師ヲ師僧トシ傳法以後ノ者ハ本師ヲ師僧トス

第三十二條 授業師ト本師トヲ別ニスル者ノ法類ハ本師ニ屬スル者ニ依ル

本師ニ屬スル法類ナキ者又ハ法類ノ分明ナラサル者ハ授業師ノ法類ヲ以テ本師ノ法類ニ準スルコトヲ得

第三十三條 住職ニシテ第二十九條ニ定ムル法類ナキ者又ハ法類ノ分明ナラサル者若クハ當該寺院ニ關スル件ニ限リ特殊ノ事情アル者ハ本人ヨリ五代ヲ逆ル間ノ各先住及其ノ法類ヲ以テ第二十九條ニ定ムル法類ニ準スルコトヲ得但シ此ノ特殊ノ事情ニ依ルモノハ豫メ第二十九條ニ定ムル法類ノ同意ヲ得ルヲ要ス

四 法類登錄等ノ制

本宗ニハ寺院住職ノ法類總代ヲ以テ其ノ寺院干與者ノ一ニ加ヘアルヲ以テ其ノ法類總代選舉ノ前提トシテ法類名簿備付ノ必要アリ依テ現行寺院規程ニ左ノ條文アリ

曹洞宗寺院規程

第四十九條 寺院ニハ其ノ住職ノ法類名簿ヲ調製シ干與者ノ檢閲ヲ經テ之ヲ保存スヘシ法類ニ増減異動アル毎ニ訂正シ其ノ都度檢閲ヲ經置クヘシ名簿ニ登錄セサル者ハ如何ナル理由

アルモ法類ト認メス

第五十條 法類ノ資格ハ僧籍規定ニ於テ規定シ法類名簿ニ登錄セラル、ニ於テ備ハル但シ僧籍規定ニ準シ登錄手續中ノ者ハ法類ニ攝スルコトヲ得

五 法類ノ解除脫退及資格ノ喪失

法類ノ範圍資格ハ前記僧籍規程第二十九條ニ依リ定マルモノニ付僧籍脫退ノ場合ヲ除ク外法類ノ解除脫退及資格ノ喪失ハ無シ

六 法類總代

寺院住職ノ法類總代ハ其ノ寺院ノ干與者ノ一ニ加ヘラレ干與者中本寺、末寺總代、檀徒總代ハ主トシテ其ノ寺院關係ヲ主トスルモ法類總代ハ其ノ寺院ヨリモ寧ロ住職人ノ關係者トシテ干與スルモノナリ

其ノ員數、被選資格、選定方法、届出、任期職務權限等寺院規程ニ規定スルコト左ノ如シ

曹洞宗寺院規程

第三十八條 寺院ノ干與者ハ本寺、法類總代及檀徒總代又ハ信徒總代トシ本寺ニテハ末寺總代ヲ加フ

第三十九條 干與者ハ法令又ハ宗法宗規ノ定ムル所ニ依リ寺務ニ參與シ住職ノ職務ヲ補佐ス

第四十條 住職ハ干與者ノ住所資格氏名印鑑ヲ宗務院及管轄宗務所ニ届置クヘシ其ノ異動アルトキハ亦同シ

第四十二條 法類總代ハ一名以上三名以下トシ住職及法類ノ協議ヲ以テ其ノ員數ヲ定ム

第四十三條 法類總代ノ選舉ハ投票ニ依リ之ヲ定ム投票ニ關スル事務ハ住職之ル管理ス

法類ニシテ干與者トナルヘキ資格ヲ有スル者一名ナルトキハ投票ヲ用ヒス自ラ直ニ干與者ト爲ル二名若クハ三名ナルトキハ投票ニ依ルト投票ニ依ラスシテ總員直ニ干與者ト爲ルトハ其ノ申合ニ依ル

第四十四條 法類總代ノ選舉人及被選人ハ法類ニシテ法地以上ノ寺院住職ニ限ル

第四十五條 法類寺院住職ニシテ當該寺院住職ト互ニ五箇年以上ノ音問交際ヲ斷テタルトキハ法類總代ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

此ノ場合ニ於テハ當該寺院住職ヨリ各法類寺院住職ニ通告スヘシ

第四十六條 住職選舉ニ際シ住職及干與者ノ協定ヲ以テ一代限リ法類ニアラサル者ヲ住職セシメタルトキハ其ノ住職ニ屬スル法類ハ其ノ寺ノ法類總代ノ選舉人及被選人ト爲ルコトナシ

第四十七條 住職死亡シテ其ノ相續者ヲ定ムル期間ノ法類總代ハ凡テ死亡セル住職ノ法類總代ヲ以テ繼續ス

第五十一條 法類總代ノ就職期間ハ滿三ケ年トス期間中事故又ハ事情ニ依リ辭退セントスルトキハ住職ハ直ニ其ノ後任選定ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十二條 法類總代ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ住職ハ之ヲ解除シ直ニ其ノ選定ノ手續ヲ爲スヘシ但シ第二號ニ該當シ解除セントスルトキハ豫メ事由ヲ具シ管長ノ承認ヲ請フヘシ

一 宗法ニ依リ懲戒ノ處分ヲ受ケタルトキ

二 寺又ハ住職ニ對シ不良ノ行爲ヲ企テタル實跡アルトキ

法類總代ノ被委託者ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ住職ハ前項ニ依リ之ヲ解除シ

七 以上ノ外法類ニ關シ參考スヘキ事項

除シ委託者ヲシテ更ニ其ノ後任ヲ選定セシムルシムルモノトス

寺院住職ノ相續ハ徒弟相續、法類相續ヲ主トスル現制ナルヲ以テ寺院住職任免法ニ左ノ規定アリ

曹洞宗寺院住職任免法

第一條 寺院住職相續者ノ選定方法ヲ定ムルコト左ノ如シ
一 住職ニシテ辭職又ハ他ノ寺院ニ轉住スル場合ニ於ケル住職ノ相續者ハ其ノ徒弟又ハ法類ノ中ニ就キ適任者ヲ選定ス其ノ徒弟又ハ法類ニ適任者ナキトキ或ハ辭讓シタルトキハ法類以外ニ就キ適任者ヲ選定ス但シ第三十二條ニ規定スル協約アル者ハ其ノ協約ニ依ルヘシ

二 ヨリ五マテ特殊ノ場合ヲ規定ス(省略)

第三十二條 第一條第一號ニ定ムル徒弟及法類ニ於テ辭讓シタルトキ或ハ徒弟法類ニ適任者ナキトキ徒弟法類以外ノ適任者ヲ選定スル場合ニハ選定者ハ干與者ノ承認ヲ經テ被選定者ニ對シ其ノ後任住職ハ選定者又ハ選定者ノ徒弟法類ヲシテ選定セシムルノ協議ヲ爲サシムルコトヲ得但シ選定者又ハ選定者死亡後其ノ徒弟法類ノ任意ヲ以テ協約ノ解除ヲ爲シタルトキハ干與者ニ通告スヘシ

第二組 寺

一 組寺ノ意義

本宗ノ現制ニ於テ組寺ハ地方行政ノ便宜ニ基ク各府縣下各宗務所管内ヲ更ニ分割シタル地理的小區劃ニ過キス

二 組寺ノ組織及範圍

曹洞宗

現行法ニ規定スルコト左ノ如シ

曹洞宗宗務所構成法

第一條 宗務所ハ宗務院ニ屬シ宗務局長ヲ以テ其ノ管内ノ宗務ヲ掌理セシム

第二條 一府縣又ハ一市郡ニ一宗務所ヲ置ク

寺院多數又ハ地勢舊慣ヲ異ニスル市郡ニハ前項ノ例ニ依ラスニ以上ノ宗務所ヲ置クコトアルヘシ

第三條 宗務所ノ經費ハ別ニ設クル所ノ規定ニ依リ宗務院ヨリ之ヲ支給ス

第四條 宗務所管内ニハ寺數ニ應シ寺院組合ヲ設ケ組長ヲシテ其ノ組内ノ宗務ヲ分掌セシム

第五條 宗務所管内ノ寺院少數ニシテ二以上ノ組合ヲ成立シ得ザルトキハ前條ノ規定ニ依ラ

ス所長ノ直轄トス

第六條 組合ノ成立區劃ハ宗務所長ノ提議ニ基キ宗務所會議ヲ以テ之ヲ決ス

第七條 組合ノ經費ハ其ノ組内寺院ノ負擔トス

(備考) 現在全國ニ渉ル宗務所數二百四十ニシテ寺院組合數千三百四十二ナリ一宗務所管

内寺數多キハ七八十ヶ寺少キハ十箇寺前後一組合寺數多キハ二十箇寺前後少キハ十箇寺

前後ナリ皆寺院分布ノ地理的關係ニ依ルモノトス

三 組寺總代

四 組長

組寺總代ナク組長一人トシ組長ハ組内ノ宗務ヲ執行ス

組長ハ組内寺院住職ノ選舉ニ依リ管長之ヲ任命ス任期ハ滿三年トス

黃 檗 宗

第一 法類

一 法類ノ意義

法類トハ法系上姻戚關係ヲ有スルモノヲ云フ

二 寺附法類

イ 現在ノ宗憲ニハ制定ナキモ同派下ノ寺院ニシテ古來ノ慣例上直末寺院、孫末寺院、曾孫末寺院ノ區別アリ

ロ 寺院ノ法脈ハ開山ヨリ歴代因襲セルモノ

ハ 本宗ニ於テ本寺ト稱スルモノハ大本山萬壽寺ナリ

所在地 京都府宇治郡宇治村

寺 數 四百八十五ヶ寺

三 身附法類

イ 師弟關係

本宗僧侶ハ其衣鉢安命ヲ授クルモノヲ師僧ト稱シ之レヲ受クルモノヲ徒弟トス

ロ 法脈關係

師資ノ間ニ於テ針艾相投シ面々授受以心傳心佛祖ノ惠命ヲ相續ス是ヲ法脈トス

一 組寺ノ意義

第二 組寺

- 一 組寺トハ寺院ノ組合ニシテ最モ隣接セル場合ヲ云フ
- 二 本宗ハ全國ヲ貳拾五區ニ分轄ス其區内寺院ヲ組寺トス寺院數ノ制限ナシ
- 三 組長ノ職ハ別置セサルモ各區ニ宗務取締ヲ置キ區内寺院ヲ總轄シ居レハ取締カ組長ノ職務ヲ執ル任期ハ四ケ年ニシテ區内寺院ノ互選ニヨリ管長高點者ニ是ヲ命ス

眞宗本願寺派

第一 法類

- 一 法類ノ意義
寺法ニ依リ定メタル寺院組合ノ義ナリ
- 二 寺附法類
カ、ル稱呼ナシ
- 三 身附法類
ナシ
- 四 法類ニ關シ登録等ノ制アルモノ
別ニ届出登録等ノ制定ナシ
- 五 法類ノ解除脱退及資格ノ喪失

六 法類總代

本項ノ如キ問題ヲ生スルコトナシ、但寺院移轉等ノ爲メ甲組ヨリ乙組ニ轉スルコトヲ許可スルモノアリ此ノ場合其寺院ノ法類資格カ甲ニ喪失スルト共ニ乙ニ有スルニ至ルコトアリ

各組々長ヲ以テ法類總代トスルヲ原則トス其任期職務權限選定方法ハ組長ノ欄ニ於テ説明ノ通り此外ニ組内住職モ組長ト共ニ法類總代タルコトヲ得此場合ハ事件ノ度毎ニ各寺協議ノ上之ヲ定ム

第二組寺

- 一 組寺ノ意義
寺法細則第二章第八條ニ依リ定メタル寺院組合ニシテ一種ノ自治制トス
(參照)

- 二 組寺ノ組織及範圍
第八條 各地方末寺ノ多少ニ隨テ組劃ヲ定メ毎組ニ正副組長ヲ置キ組内ノ事務ヲ取扱ハシム

- 組ノ組織ハ寺院ノ多少又ハ地域等ニヨリ一派行政ノ便宜上區劃ヲ定メタルモノナルモ其寺數ノ標準等ヲ一定セス

- 三 組寺總代
其稱呼ナシ

- 四 組長
各組ニ正副組長(名譽職)ヲ置キ組内寺院ノ互選シタル候補者各二名ノ内ニ就キ本山之ヲ任命ス其ノ任期ハ四年ニシテ本山ノ命令ト各寺願記ノ進達其ノ他組内寺院ニ關スル諸般ノ事項ヲ處理セシム

眞宗大谷派

第一 法類

- 一 法類ノ意義
法類トハ慣例上寺院組合ノ義ナリ
 - 二 寺附法類
寺附法類ノ稱呼ナク寺法類ノ稱呼アリ法類組合ハ往古ヨリノ慣行ニ依リ來レルモノナリ
 - 三 身附(又ハ人體)法類
「親族寺院」アリ然シ之ハ寺法類ノ第二種ニシテ身附法類ニハ非ス
 - 四 法類ノ登録
法類ハ届出又ハ登録ノ定メナキモ不文慣例トシテ本山ハ之ヲ承認セル一個ノ事實ナリ
例ヘハ願書ノ連署、法類間ノ和合、法務ノ援助等ノ場合
 - 五 法類ノ解除、脱退及資格ノ喪失
 - 六 法類總代
法類ノ解除脱退竝ニ法類總代ニ關シ別ニ明文ヲ存セス總テ個々法類ノ慣例ニ從フ
但別ニ如上ノ問題ヲ生シタルコトヲナシ
- #### 第二 組 寺
- 一 組寺ノ意義
組トハ宗制寺法上ノ寺院組合ノ義ナリ一種ノ自治制トス
 - 二 組寺ノ組織及範圍

組ノ組織ハ地域ニ依リ行政ノ便宜區劃ヲ定メタルモノニシテ必スシモ寺院數ヲ以テ分割シタルモノニアラス

三 組寺總代

組寺總代ナルモノナシ

- 四 組長ハ正一名副一名又ハ二名組内寺院住職ノ互選ニ依リ選出シ本山之ヲ任命ス
任期ハ滿三ヶ年ニシテ願事ノ進達ト命令規則ノ傳達トヲ管掌シ其ノ他組内寺院ニ關スル諸般ノ事項ヲ處理セシム
- 組長副組長ハ名譽職トシ准稟授ノ待遇ヲ與フ
役務上ニ要スル費用ハ組内寺院ノ負擔トス

眞宗高田派

第一 法類

- 一 法類ノ意義
法類トハ慣例上寺院組合ノ義ナリ
- 二 寺附法類
寺附法類ノ稱呼ナク單ニ法類ト稱シ往昔ヨリノ慣行ニ依リ來レルモノナリ
- 三 身附法類
身附法類ナルモノナシ

四 法類ノ登録

法類ニ届出又ハ登録等ノ定メナキモ慣例トシテ之ヲ承認シ願書ノ連署等ヲナサシム

五 法類ノ解除脱退及資格ノ喪失

明文ナシ

六 法類總代

ナシ

第二組 寺

一 組寺ノ意義

組トハ宗制寺法上ノ組合寺院ノ義ナリ

二 組寺ノ組織及範圍

地域ニ依リ便宜上區劃ヲ定メタルモノニシテ強チ寺數ニ拘泥セス

三 組寺總代

制定ナシ

四 組長

組長ハ組内寺院住職中ニ於テ候補者二名ヲ公選シ其ノ壹名ヲ本山任命ス

(参照)

組長職務規定

第一條 各組ニ(部ヲ分テルモノハ各部ニ)組長壹名ヲ置ク但シ組ノ情況ニヨリ副組長壹名ヲ置クコトヲ得

第二條 組長副組長ハ其ノ組内寺院住職中ヨリ候補者各貳名ツ、公選シ其壹名ニ就キ本山之ヲ任命ス

組長ノ任期ハ二ケ年トシ組内ノ和合教化ノ發達ヲハカリ本山ヨリ公達事項又ハ組ヨリノ具申及堂班衣體義納金等ニ關スル件ヲ掌リ在職中ハ其ノ組内同堂班ノ首席トス

第三條 組長ハ其ノ組内ノ和合ヲ保持シ教化ノ發達ヲ期スヘシ

第四條 組長ハ前條ノ外左ノ事務ヲ掌ル

- 一 本山ヨリ其ノ組ヘ公達スル事項
 - 一 其組内僧侶ノ堂班席次衣體ニ關スルノ件
 - 一 其組内寺院ノ本山義納金納付ニ關スルノ件
 - 一 其組僧侶及門徒ノ地方教化上特殊ノ功勞者ヲ具申スルノ件
 - 一 前項ノ外組内ニ於テ特ニ具申スヘキ必要ヲ認メタル事項ニ關スルノ件
- 第七條 組長ハ任期中其ノ組内ニ限リ同堂班ノ首席トス

眞宗興正派

第一 法類

- 一 法類ノ意義
法類トハ慣例上寺院組合ノ義ナリ
- 二 寺附法類
寺附法類ノ稱呼ナク、寺法類ノ稱呼アリ法類組合ハ往古ヨリノ慣行ニ依リ來レルモノナリ
- 三 身附法類
身附法類ナルモノナシ
- 四 法類ニ關シ登録等ノ制アルモノ、届出登録等ノ手續
法類ハ届出又ハ登録ノ定メ無キモ不文慣例トシテ本山ハ之ヲ承認セル一個ノ事實ナリ、例ヘハ願書ノ連署、法類間ノ和合ヲ破ル者ニ關スル懲戒規定法務援助
- 五 法類ノ解除脱退並ニ總代等ニ關シ別ニ明文ヲ有セス、スベテ個々法類ノ慣例ニ從フ但シ別ニ如上ノ問題ヲ生シタルコトナシ

第二 組寺

- 一 組寺ノ意義
組寺トハ宗制寺法上ノ寺院組合ノ義ナリ、一種ノ自治制トス
- 二 組ノ組織及範圍
組ノ組織ハ「慣例ニ依ル寺法類ヲ基本トシ」地域ニ依リ行政ノ便宜區劃ヲ定メタルモノニシテ必スシモ寺院數ヲ以テ分轄シタルモノニ非ラス

三 組寺總代

組寺總代ナルモノナシ

四 組長

組長ハ一名ニシテ、組内寺院ノ互選ニ依リ之ヲ本山ニ届出テシム任期ハ滿三ケ年ニシテ願事ノ進達ト命令ノ傳達トヲ管掌シ其他組内寺院ニ關スル諸般ノ事項ヲ處理セシム

眞宗佛光寺派

第一 法類

- 一 法類トハ慣例上寺院組合ノ義ナリ
- 二 寺附法類ノ稱呼無ク寺法類ノ稱呼アリ法類組合ハ往古ヨリノ慣行ニ依リ來レルモノナリ慣行ノ原因ハ不明ナリタ、同一本山ヲ有スルモノ地域ノ便宜ニ依ルモノアルハ事實ナリ
- 三 身附法類ナルモノナシ
- 四 法類ハ届出又ハ登録ノ定メ無キモ不文慣例トシテ本山ハ之ヲ承認セル一個ノ事實ナリ例ヘハ願書ノ連署法類間ノ和合ヲ圖リ法務ノ援助等ナリ
- 五 法類ノ解除、脱退並ニ總代等ニ關シ別ニ明文ヲ存セス都テ個々法類ノ慣例ニ從フ但別ニ如上ノ問題ヲ生シタルコトナシ

第二 組寺

- 一 組トハ當派ニ於テハ部ト稱シ宗制寺法上ノ寺院組合ノ義ナリ一種ノ自治制トス

- 二 部ノ組織ハ地域ニ依リ行政ノ便宜區劃ヲ定メタルモノニシテ必シモ寺院數ヲ以テ分割シタルモノニ非ス
- 三 組寺總代ナルモノ無シ
- 四 部長ハ一名ニシテ部内寺院ノ互選ニ依リ之ヲ本山ニ届出テシム任期ハ三年ニシテ願書ノ進達布例ノ傳達トヲ管掌シ其他部内寺院ニ關スル諸般ノ事項ヲ處理セシム

眞宗木邊派

第一 法類

- 一 法類ノ意義
寺法類ハ歴史の寺組合ノ義ナリ即チ事實トシテハ法要其他寺ノ維持存續ニ關シ相互ノ連繫ヲ有ス假令任職進退ニ法類ノ調印ヲ要スルカ如シ
- 二 寺附法類
寺法類ハ明治九年宗規綱領發布以前ヨリ古來ノ慣例ニ基キ「講名」ヲ附シタル寺關係ヲ存續シ現在ニ及ヘリ
- 三 身附(又ハ人體)法類
當派ハ一本山即チ一本寺ニシテ一派全部ノ僧侶ヲ度スルハ本山法主一人ニ限ルヲ以テ僧侶相互ノ身附法類關係ヲ生スルコトナシ
- 四 寺附法類ハ本山ニ届出又ハ登録スルコトナキモ本山ハ不文慣行トシテ之ヲ承認セリタ、慣行ナル

カタメ法類ノ解除、脱退總代等ニツキ別ニ明文ヲ存セス

第二 組 寺

- 一 組寺ノ意義
組寺ハ宗制上寺組合ノ義ナリ即チ宗門行政上ノ便宜區轄ニ過キス
- 二 組寺ノ組織及範圍
組寺組織ノ標準ハ單ニ地域ニ依リ之ヲ定メ講ヲ包擁シテ編成シタルモノナリ
- 三 組寺總代
組寺總代ノ制ナシ
- 四 組 長
各組ニ正副組長各一名ヲ置キ組内寺院住職中ヨリ之ヲ選舉シ本山ニ届出シム任期ハ二年ニシテ組内各寺院ノ諸願書ノ與書及本山各種命令ノ傳達及組内寺院ニ關スル事項ヲ管掌ス

眞宗出雲路派

第一 法類

- 法類ニ關シ本派宗制寺法ニ規定スルところ左ノ如シ
- 寺法細則第六章 任職任免
- 第十八條 後任職及副任職ハ現任職ヨリ檀家總代及法類連署ヲ以テ薦舉セシメ若シ任職沒後

眞宗出雲路派

ナレハ檀家總代及ヒ法類ヨリ選舉セシム
 同 第十一章 褒賞懲誡
 第三十一條 本派ノ僧侶ニシテ左ノ項目ニ該當スル行爲アルトキハ其等差ニ從ヒ前條例目ニ照シテ之ヲ褒賞ス

- 一 本山法類自坊ニ對シ功績アル者

眞宗山元派

第一 法類

- 一 法類ノ意義
 法類トハ寺院及ヒ住職衆徒ノ興廢進退ニ關與スルモノトス
- 二 寺附法類
 寺院慣例ニヨルモノニシテ別ニ緣故契約ニ依ラス
 甲、乙兩寺相互隣保ノ關係ヨリ生ス
 乙、身附(又ハ人體)法類
 師弟關係 同一寺院ノ衆徒ハ相互其法類タルヘキモ本寺ニ對シ權能ナシ

四 法類ノ登録

法類寺ノ住職名義ハ本寺ヘ届出ヲ要ス

五 法類ノ解除、脱退及資格ノ喪失

隣保ノ義務ヲ盡サザルモノ若クハ解除ノ申告ニヨリ本寺ノ認定ニヨリ解除又ハ資格ヲ喪失ス

第二組 寺

一 組寺ノ意義

佛事葬儀等ノ場合ニ集合奉仕スルモノトス

二 組寺ノ組織及範圍

地域ハ各附近ノ同一末寺ヲ以テ組織シ寺數ノ範圍ナシ

眞宗誠照寺派

第一 法類

一 法類ノ意義

法類トハ宗制寺法補則「法類ニ關スル規定」第一條ニ定メタルカ如ク寺院組合ノ義ナリ
 (參照)

第一條 法類ト稱スルハ左ニ定メタル組合内各寺院ヲ云フ

第一組 越前國今立郡ノ内(鯖江町舟津村)及福井市並越後國

第二組 同 (中 筋)

- 第三組 同 (兩 谷)
- 第四組 同 (池 田)
- 第五組 同 國南條郡及丹生郡武生附近
- 第六組 同 國丹生郡
- 第七組 同 國大野郡及美濃國並北海道

二 寺附法類

本派ニハ寺附法類ノ稱呼ナク寺法類ノ稱呼アリ往古ハ慣行ニ依リ來リシカ明治三十七年八月「法類ニ關スル規定」ヲ設ケ一ハ地域ニヨリ行政ノ便宜區劃ヲ定メ一ハ以テ法類間法務援助等ノ自治制機關トセリ

三 身附(又ハ人體)法類

本派ニハ身附(又ハ人體)法類ナルモノ無シ

四 法類ノ登錄

本派ニ於テハ總テ法類ハ宗制寺法補則「法類ニ關スル規定」ニヨルモノナレハ登録等ノ制度ナシ

五 法類ノ解除脫退及資格ノ喪失

法類ハ總テ宗制寺法、補則「法類ニ關スル規定」ニヨルモノナレハ上記規定以外ニ於テ法類ノ解除脫退及資格喪失ノ問題ヲ生セス

六 法類總代

法類總代ハ宗制寺法補則「法類ニ關スル規定」第二條ニ規定セラル、通り一組合毎ニ一名トシ選定方法ハ同條ニヨリ職務權限ハ同第三條及第四條ニヨル其他被選資格届出又ハ登録手續任期等ノ定メ

ナシ

(參照)

第二條 前條組合内ノ寺院住職ハ事件毎ニ本山ノ指定ニ應ジ法類總代トナルコトヲ得

第三條 法類總代トシテ書面ニ連署セントスルニ付第四條第一號ノ場合ニハ組合内ノ各寺院

ト協議ヲ經タル後之ヲナシ同條第二號ノ場合ニハ自ラ支拂ナキモノト認メタル後之ヲナス

第四條 法類總代ノ書面ニ連署スヘキ事件左ノ如シ

- 一 寺院ノ創設再興移轉廢合及財産ニ關シ其他利害ノ重要ナル件
- 一 得度教師住職任免進退堂班昇階繼席衆徒轉屬其他成規アル件

第二組 寺

本派ニ於テハ法類即組寺組寺即法類ナルヲ以テ別段ノ規定及慣例ナシ

眞宗三門徒派

第一 法類

- 一 法類ト慣例上寺院組合ノ義ナリ
- 二 寺附法類ノ稱呼ナク寺法類ノ稱呼アリ法類組合ハ往古ヨリ慣行ニ依リ來レルモノニシテ其源因ハ不明ナリタ、地域ノ便宜ニ依ルモノアルハ事實ナリ
- 三 身附法類ナルモノナシ

眞宗三門徒派

四 法類ハ届出又ハ登録ノ定メ無キモ不文慣例トシテ本山之ヲ承認セルハ願書連署、法類間ノ和合法務ノ助援等ノ事實アリ

第二組 寺

- 一 組トハ宗制寺法上ノ寺院組合ノ義ナリ
- 二 組ノ組織ハ地域ニ依リ行政ノ便宜區劃ヲ定メタルモノニシテ必シモ寺院數ヲ以テ分割シタルモノニ非ス
- 三 組寺總代ナルモノナシ
- 四 組長ナシ

日蓮宗

第一法類

一 法類ノ意義
 法類トハ宗門教育ニ殊勳アル師ヲ中心トシ、其法脈ヲ傳承セル者、又ハ特定檀林ノ出身者並其末弟ヨリ成レル僧侶團體ヲ云フ
 本宗檀林中最古ノモノハ京都松ヶ崎檀林ニシテ天正二年ノ創立ナリ、飯高、小西、西谷、中村、山科等之ニ次テ起レリ、就中飯高、中村最モ盛ニシテ、寛永寛文ノ間ニ亘リテ飯高ニ中臺、城下、松和田、ノ三谷生シ、中村ニ東西南谷起レリ、谷トハ元檀林所在地ニ近接セル小字ヲ呼ヒシ地名ナ

リ、然ルニ學徒指導ノ便宜上檀林近接ノ一地劃ニ學寮ヲ建テ衆徒ヲ之ニ收容セリ、學生ノ増加ニ伴ツテ或谷ニハ敷棟ノ學寮ヲ建設セラル、モノアルニ及ヒ逐ニ一學寮或ハ敷棟ノ學寮ヨリ成レル學閥ヲ意味スル語トナレリ斯クテ其等學寮ノ僧團ハ漸次各々學師ヲ仰戴シテ分立セシモノ即法類ノ起源ニシテ、現存法類ノ一部ハ此等ノ法脈ヲ傳承セルモノナリ

此等ト相前後シテ小西、西谷、松ヶ崎、山科等ニ學籍ヲ置キシ衆徒ハ夫々檀林ニ殊勳アル師ヲ推戴シテ數個ノ團體ヲ形成セリ、此等ノ法脈ヲ繼承セルモノハ現在法類ノ他ノ一部ヲナス

二 寺附法類

イ 寺院古來ノ緣故、慣例又ハ契約ニ依ルモノ
 緣故慣例ノ事實、契約事項

前記ノ如ク本宗ノ法類ハ檀林ヨリ發生シテ、其起源ヲ寺院ニ有セズ、故ニ寺附法類ナルモノナシ、然レトモ寺院ト法類トハ甚ダ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ、此項下ニ其關係ヲ記ス
 中古已降ニ於ケル本宗寺院制度ノ原則トシテハ法類ハ寺院ニ屬セズシテ反ツテ寺院ハ殆ンド谷又ハ法類ニ屬セシナリ、乃チ僅少ノ例外ヲ除キテ約三千五百餘ノ寺院ハ凡テ特定ノ谷又ハ法類ニ屬セシヲ以テ、當時「某寺ハ某谷又ハ某法類ノ持チ或ハ緣寺ナリ」ト稱シ、其緣寺ガ本山ナル時ハ特ニ「出世寺」ト呼ヘリ、一宗ノ全寺院ヲ凡ソ三種ニ分ツヲ得ヘシ、一ハ谷ニ屬スルモノ、二ハ法類ニ屬スルモノ、三ハ特定ノ寺院ニ屬スルモノ是ナリ

- 一 谷ニ屬スルモノ四箇寺アリ
- 甲州身延山久遠寺 古來飯高檀林中臺、松和田兩谷ノ出身者ヨリ交代ニ住職スル慣例ナリ
- 池上 本門 寺 飯高檀林城下谷出身者ヨリ住職スルヲ例トセリ
- 京都市妙顯寺、及本國寺ハ共ニ中村檀林東西兩谷出身者ヨリ交代ニ住職シ來レリ

右ノ如キ慣例ヲ作リシ基因ハ主トシテ夫々ノ谷ニ屬スル法類ノ祖又ハ其門下末弟ガ住職セシ緣故ニ因ル、又其住職ノ選定ハ其時ニ於ケル各ノ谷ニ屬スル先聖(檀林長ノ勤メ)會議ニヨリテ決セラレタリ、但シ明治十八年ニ至リ右四箇寺及千葉縣中山法華經寺トハ共ニ一宗ノ選舉公選ニヨリテ住職ヲ撰定スルコトナレリ

二 法類ニ屬スルモノ

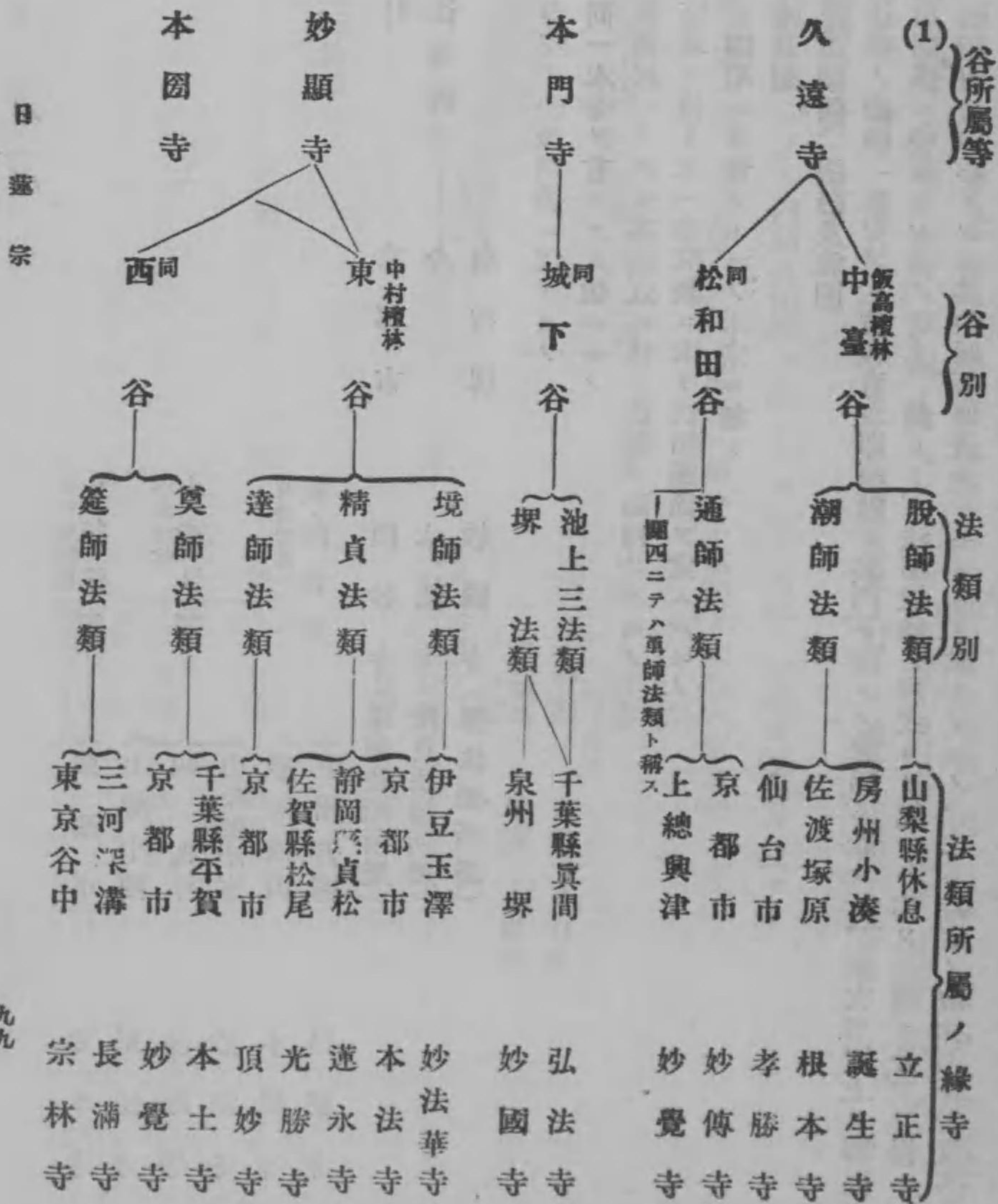
本宗寺院ノ殆ド大部分ハ此種ニ屬ス、各法類所屬ノ緣寺中ノ一寺院ヲ定メテ緣頭寺トナシ、其寺ノ代々ノ住職ヲ法緣長又ハ緣頭ト稱シ、又法類ニヨリテハ法緣長ノ下トニ評頭ヲ置クモノアリ此等ノ機關ニ依リテ其法類所屬寺院ノ住職選定其他ノ事件ヲ處理セリ、而シテ各寺院ガ夫々一定ノ法類ニ屬スルニ至リシ緣故ハ上記ノ四ヶ寺ノ場合ト同一ナリ

三 特定ノ寺院ニ屬スルモノ

此種ノ代表的ナルモノハ千葉縣中山法華經寺ニシテ、同寺ハ元ト血統相續ナリシカ、徳川家康僧ノ妻帯ヲ禁シ、文緣三年同寺ノ系統ニ屬スル京都頂妙寺日珖師ヲシテ住職セシム當時日珖師ノ弟子ノ内、日曉師ハ頂妙寺ヲ續キ、日通師ハ京都本法寺ニ、日統師ハ泉州堺妙國寺ニ住職シ居タリシヲ以テ日珖師ハ家康ノ許諾ヲ得テ向後ハ頂妙、本法、妙國ノ三ヶ寺歴代住職ヨリ輪番交代シテ管理スルノ制ヲ立ツ、之ヲ中山輪番制ト云フ

當時尙師弟又ハ血統相續ニ依ル門流制度ノ時代ナリシカ之ヨリ約五十年ノ後法類制度行ハル、ニ及ンテ、本法、頂妙、妙國ノ三寺ハ夫々ノ法類ニ屬セシモ、法華經寺三山輪番ノ制ハ依然繼續セラレテ明治ニ及ヘリ

左ニ代表的ナルモノニ就テ、谷及法類ト緣寺トノ關係ヲ圖示セハ





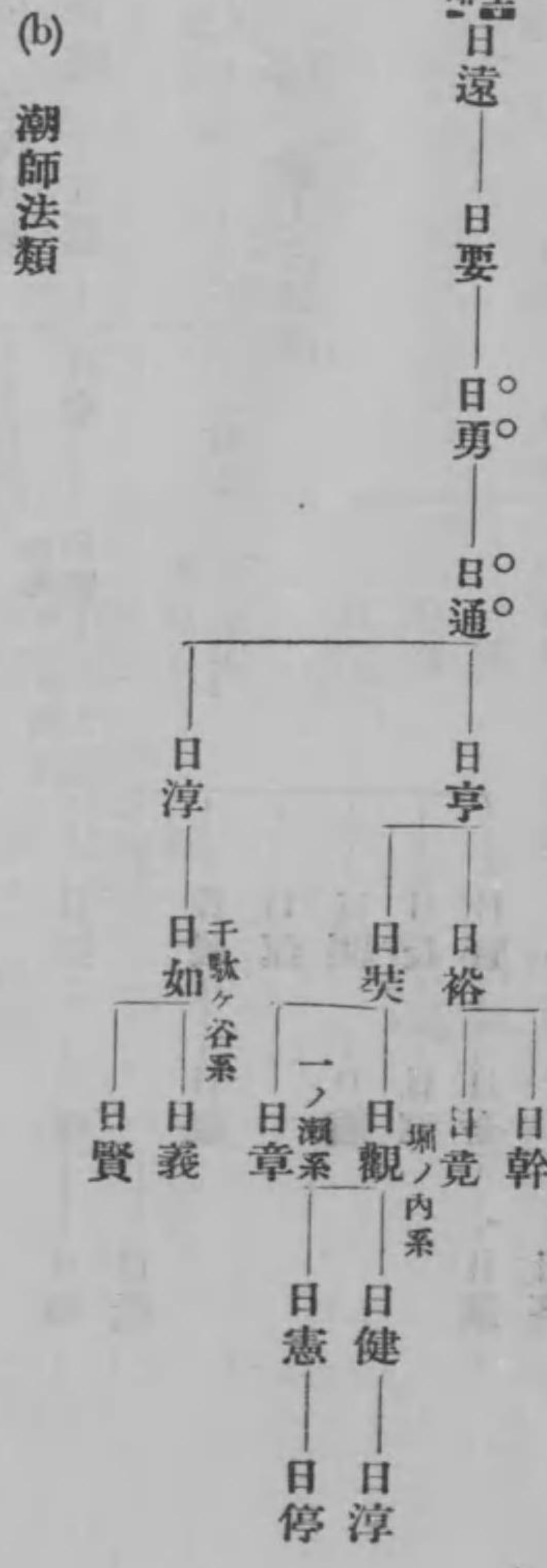
寺院ノ法脈關係ニ依ルモノ
 ハ 同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ
 ニ 法源同一ナルモ其遠近ニ依リ法類ヲ區別スルモノ
 ホ 區域ニ依リ又ハ寺院數ニ依リ法類關係ヲ定ムルモノ
 右四項ニ該當スルモノ木宗ニ無シ

三 身附法類

イ 師弟關係、續柄及範圍
 身附法類ノ續柄ハ教育者ト被教育者即學師ト其門下生トノ關係ニ始マリ、漸次事實上ノ師匠ト弟子即師弟關係ニ轉移セシモノナリ、然レトモ法類組織ノ形式ヨリ見レハ凡ソ二種ニ分ツヲ得ヘシ、一ハ一法類祖ヲ中心トシテ其法脈ヲ傳承スルモノヨリ成リシモノ、一ハ特定ノ檀林出身者及其末弟ヲ

以テ組織セラレシモノ是也、而シテ後者ノ法類祖ハ檀林又ハ其檀林ノ因テ起ルニ至ラシメシ勳功アル上代ノ師ヲ推仰シテ單ニ形式上ノ祖トナセシニ對シテ前者ノ法類祖ハ實際ニ其門ヲ統卒シテ一法類ヲ組成セシモノ多シ、今左ニ夫々ノ重ナル師弟系圖ヲ出シテ續柄及範圍ヲ限定ス

一 法類祖ノ法脈ヲ傳承スルモノ
 此種ニ屬スルモノ、内精真法類ヲ除キテハ凡テ其源ヲ身延日遠帥ニ發セリ



(c) 脫師法類
略上 日遠 — 日耀^{圓是} — 日理 — 日脫[○]
日忍
日勤
日聽
日答

(d) 達師法類
略上 日遠 — 日遷 — 日允 — 日耀^{勝光} — 日達[○]
日頤 — 日淨 — 日領
日嚴 — 日觀
日運 — 日義
日顯 — 日到
日長 — 日全
日賢 — 日鎮
日亮

(e) 筵師法類
略上 日遠 — 日護 — 日筵[○]
日春
日度
日利
日空
日隆
日諱

日體 — 日從 — 日叙 — 日視 — 日暢
日孝 — 日明 — 日龍
日有 — 日誠
日寬 — 日解 — 日威
日淨 — 日堅
日惠 — 日觀

(f) 奠師法類
略上 日遠 — 日奠[○] — 日遠 — 日從 — 日叙 — 日視 — 日暢
日體 — 日孝 — 日明 — 日龍
日有 — 日誠
日寬 — 日解 — 日威
日淨 — 日堅
日惠 — 日觀

(g) 境師法類
略上 日遠 — 日達^{眞應} — 日境[○]
日宗 — 日禪 — 日淳 — 日春
日述 — 日通
日勝 — 日週
日送

(h) 池上三法類
略上 日遠 — 日祐[○] — 日宣 — 日眞 — 日潤 — 日總^{妙玄庵系}
日等 — 日樹^{下庵系}
日芳 — 日勢
日中^{道庵系} — 日靜 — 日祇
日韻 — 日章 — 日憲

日進[○] (塚法類祖)
日健 — 日秀
日利 — 日繼
外廿四人
日幽

(i) 堺法類

略上 日祐—日宣—日顯—日進

日逢—日領—日喜

日虔 (日耀已下弟子十二人)

日道—日英

日輝—日英

日逐—日英

日相—日義

日護—日義

日誦—日義

日迅—日義

日者—日義

外下五人

日要—日壽—日進

日陳—日要—日壽—日進

日東—日迅—日暉

日是—日迅—日暉

日淳—日龍—日顯

日匡—日雄—日遠—日富

日修—日曉—日榮—日隨

日莖—文雅—日永

(j) 精貞法類
略上 日長

日德—日休—日近—日眞

日秀—日啓—日精

日精

日陳—日要—日壽—日進

日東—日迅—日暉

日是—日迅—日暉

日淳—日龍—日顯

日匡—日雄—日遠—日富

日修—日曉—日榮—日隨

日莖—文雅—日永

二、特定檀林出身者ヨリ成ルモノ

此種ニ屬スルモノニ四法類アリ

A 生師法類 (配列ハ檀林建設ノ順序ニ隨フ)

松ヶ崎檀林ノ出身者ニヨリテ形成セラレシモノニシテ遠ク此ノ檀林ノ開祖日生師ヲ仰ギテ法類ノ祖トナス成立年代ハ安永六年大頭日脱師ノ時ナルガ如シ

B 小西法類

小西檀林出身者ニヨリテ成ル法類ノ祖ハ末ダ檀林ノ設ケラレザラシ正法寺ノ開山日鏡師ナレトモ法類ノ成立セシハ元録年間ノ事ニ屬ス

C 鏡師法類

西谷檀林出身者ニヨリテ組織セラル、是亦檀林創設已前ニ於ケル教育ニ盡サレシ日鏡師ヲ推シテ法類ノ祖トナス、成立ノ年代詳ナラズ

D 勇師法類

山科檀林出身者ヨリ成レリ、法類ノ祖ハ檀林ノ開祖日勇師ナレトモ、其成立セシハ後世ノ事ナルガ如シ、但シ此檀林出身者ニシテ更ニ飯高ニ學ビシ時ハ關東ニ於テハ通師法類ト稱セラル、然レトモ關西ニ在リテハ凡テ勇師法類ト云フ、是レ日勇師ハ日通師ノ師匠ナルカ故ナリ

此ノ四法類ノ續柄ハ夫々檀林ノ出身者ヨリ師弟關係ニヨリテ續降セルモノニシテ其等ノ弟子ハ亦其師匠ノ學ビシ檀林ニ入ルヲ以テ、學閥ニ附與セルモノト見ルヲ得

法脈關係、師家ノ名稱及閱歴

(一) 境師法類 日境師 (慶長六—萬治二) 通心院ト號ス、水戸ノ人、寛永十七年中村檀林ノ

化主 (檀林長) トナルヤ、東谷ノ地ヲ開キ真如庵ヲ築キテ門下ヲ指導ス、慶安元年久遠寺ニ晉

山ス、師ノ法脈ヲ繼承スル一團ヲ境師法類ト稱ス

(二) 奠師法類祖日奠師(慶長六——寛文七) 妙心院ト號ス、慶安元年中村檀林ノ化主トナリ、上坐(教授)日蓮師ト計リ、曾テ日要師ノ構ヘシ西谷ノ觀月庵ヲ復興シテ學徒ヲ指南ス、師ノ法脈ヲ傳ヘテ奠師法類トナル、萬治三年久遠寺ニ住ス

(三) 筵師法類祖日筵師(慶長十四——天和元) 隆源院ト號ス、京都ノ人、師中村檀林ノ化主トナルニ至リ、其教育ヲ受ケシ學生亦一團ヲナシテ師ノ法脈ヲ繼承シ筵師法類トナレリ

(四) 通師法類祖日通師(元和元——延寶七) 寂遠院ト號ス、京都ノ人、寛永十七年鷹峯檀林ニ慶安元年山科檀林ニ教鞭ヲ執リ、明暦元年京都妙傳寺ニ住シ寛文二年飯高檀林ノ化主ニ赴クヤ、門下七十餘人之ニ隨フ、因テ新ニ全檀林近接地松和田谷ヲ開キ、松和軒ヲ構ヘテ之ヲ指南シ遂ニ通師法縁ヲ形成セリ寛文八年池上本門寺ニ晋シ同十二年久遠寺ニ榮轉ス、堀ノ内、千駄ヶ谷、雜司ヶ谷等ノ系脈ハ皆此法類ニ屬ス

(五) 脫師法類祖日脫師(寛永四——延寶十一) 一圓院ト號ス、越中ノ人、飯高ニ困學スルコト二十余年山科檀林ノ化主トナリ以テ京都立本寺ニ住シ寛文ノ末年飯高ノ化主トナルヤ、中臺谷ノ地ヲ拓キ學寮ヲ設ケテ門下ノ指導ニ努メシカバ遂ニ一法類ヲ爲セリ、延寶八年久遠寺ニ住ス

(六) 池上三法類祖日祐師(慶長十五——寛文四) 壽量院ト號ス、浪波ノ人飯高ニ學ビ寛永ノ末同檀林ノ上座ニ進ミ城下谷ノ地ニ向城庵ヲ建テ、衆徒ヲ指南ス、慶安元年化主トナリ承應三年下總眞間弘法寺ニ住ス、是ヨリ師ノ弟子及門下ノ子弟ニシテ飯高ニ學ブモノハ皆城下谷ノ學寮ニ入リシガ法孫日等、日芳、日顯ノ三師亦多クノ門下ヲ有シ茲ニ至テ次ノ如ク妙玄庵、樹下庵、中道庵ノ三法脈ニ分レ池上三法類ト稱スルニ至レリ

(七) 堺法類祖日進師(壽未詳) 順正院ト號ス、飯高城下谷ノ出身ニシテ泉州堺妙國寺ニ住シ、又飯高ニ化主トナル多クノ會下ヲ擁シテ終ニ一法類ヲ分設スルニ至レリ

(八) 精貞法類 日精師(延寶二——元文四) 修光院ト號ス敦賀ノ人中村ニ學ビ、寶永七年京都鶏冠井檀林ノ化主トナリ、正徳元年頂妙寺ニ住シ享保四年中村檀林ノ化主トナルヤ、東谷ニ學寮ヲ設ケテ門下ヲ撫育ス、同年京都妙顯寺ニ榮晉ス

日貞師ノ門下ハ同一系脈ナルヲ以テ合シテ精貞法類ト稱ス
(九) 達師法類祖日達師(延寶二——延享四) 了義院ト號ス、奥州福島ノ人、中村檀林ノ出身ニシテ京都求法、鷹ヶ蜂兩檀林ノ化主トナリ享保五年中村ノ化主トナリ、東谷ノ學寮ヲ會下ヲ教導シテ一法類ヲ成ス、同十五年京都本圓寺ニ晋山ス

(十) 潮師法類祖日潮師(延寶二——延元) 六牙院ト號ス、京都ノ人、飯高ニ學ヒ寛永七年仙臺孝勝寺ニ住ス、享保五年飯高ノ化主トナリ、中臺谷龍眠庵ニ百餘名ノ門下ヲ督シ一大法類ヲ作レリ、元文元年久遠寺ニ榮轉ス

己上十師ノ法脈ハ己ニ師弟關係ノ項下ニ系圖ヲ出セシヲ以テ之ヲ畧ス
又生師、小西、鏡師、勇師ノ四法類ノ祖ハ前項ニ記セシ如ク、夫々ノ法脈ヲ傳承セルモノニ非サルヲ以テ省畧ス

ハ 學寮關係 學寮名稱及沿革

法類祖ノ法脈ヲ傳承スル法類ハ飯高、中村兩檀林ノ谷ニ在リシ學寮ヨリ起リ、又特定檀林出身者ヨリ成レル法類ハ松ヶ崎、小西、西谷、山科四檀林ノ學寮ヨリ生ゼシモノナリ、今此等兩種ノ法類ト檀林學寮トノ關係ヲ圖示セハ左ノ如シ

前記宗則第二十七號法類總代組寺總代及末寺總代選定規則第一條乃至第四條參照
四組長

本宗ニハ組長ノ制定無之然レトモ宗門地方ノ行政上各府縣ニ錄司ヲ置キ其管内ニ係ル宗務ヲ執行セ
シム此意味ニ於テ錄司ハ地方寺院ノ組長トモ謂ヒ得ヘシ
(宗則第三號錄所職制參照)

顯本法華宗

第一法類

師弟關係ニヨル法類アルモ組織權義等ニ付特記スヘキモノナシ

第二組寺

各寺院ハ近傍寺院二箇寺以上適宜ニ組寺ノ約束ヲ締結シ官廳出願書類等ニ署名捺印シ、或ハ法要等
ノ際互ニ援助ヲナスモノトス
(參照)

宗規第四則 寺院

第四條 各寺院ハ近傍二箇寺以上適宜ニ組寺ヲ締結シ宗務廳ノ認可ヲ經ヘシ

本門宗

第一法類

一 法類ノ意義

同一法脈ノ關係、師弟、又ハ組寺ノ關係其ノ他特殊ノ關係ヲ有スルモノヲ指ス

二 寺附法類

イ 寺院古來ノ緣故、慣例又ハ契約ニ依ルモノ

甲、乙寺院其開基ヲ同クスル關係或ハ中頃兩寺住職者相互親密ナル關係上法類タルコトヲ契約シ
己來人體上法類ニ非ルモ其寺住職タルニ及ンテ法類トナルモノ

ロ 寺院ノ法脈關係ニ依ルモノ

甲乙兩寺ヲ開基ヲ同フスルカ或ハ甲寺開基者カ乙寺開基者ノ法縁ナル時其ノ開基者ノ名ヲ用ヒテ
何々法類ト稱シ以テ法脈關係ニ依ル寺附法類トス

三 身附(人體)法類

イ 師弟關係

續柄、重師僧、師僧、師僧ノ法兄弟、徒弟、孫法徒弟

範圍、自己ヲ中心トシ師弟ノ法縁ヲ以テ之レヲ定ム

ロ 法脈關係

本宗ニ於テハ多ク自己及自己ノ師、重師、法兄弟等ニ於テ法類關係ヲ定ムルヲ以テ特ニ法脈上師家
ノ名稱ナシ

- 四 法類ニ關シ登錄等ノ制アルモノ
(宗規第五章第五、九條) 寺院ハ法類組寺各壹名ヲ定メ印鑑相添ヘ宗務院ヘ届出ツヘキモノトス
- 五 法類ノ解除及資格ノ喪失
寺附法類ハ住職寺ヲ移轉シ又ハ法類關係ヲ離レタル時資格ヲ喪失スルモノトシ身附法類ニアリテハ法類相互諒解ノ上解除脱届出或ハ法縁ヲ離レタルトキ資格ヲ失フモノトス
- 六 法類總代
員數 一名
被選資格、寺附タルト身附タルトヲ問ヘス教師試補以上ニシテ一寺住職者タルコト
選定方法、協議ニヨリテ選定シ印鑑相添ヘ宗務院ヘ届出テシム
任 期、ナシ
職務權限、住職任免及寺有財産ノ異動其他特ニ規定セル事柄ニ對シ當該寺院ニ關係ス
- 第二組 寺
一 組寺ノ意義
隣接セル甲乙寺院カ住職任免其ノ他諸願出等ニ對レ互ニ關與シ連署シ來レル事例アルモノ、又ハ同門末間ニ於テ密接ナル關係ヲ存シ來レルモノ等ヲ指ス
- 二 組寺ノ組織及範圍
組寺ハ隣接寺院相互ニ於テ組織シ若シ隣接寺院ナキトキハ宗内寺院中慣行上從來最モ深厚關係ヲ有スル寺院ヲ以テ組寺トス
標準程度、規約等ニ別段ノ定メコレナシ
- 三 組寺總代

員 數、一名
選定方法、協議ニヨリ之レヲ定メ選定ノ上ハ印鑑添附届出シム
任 期、ナシ
職務權限、住職任免及寺有財産ノ異動其他諸願出ニ對シ當該寺院ニ關與スルモノトス

本門法華宗

第一 法類

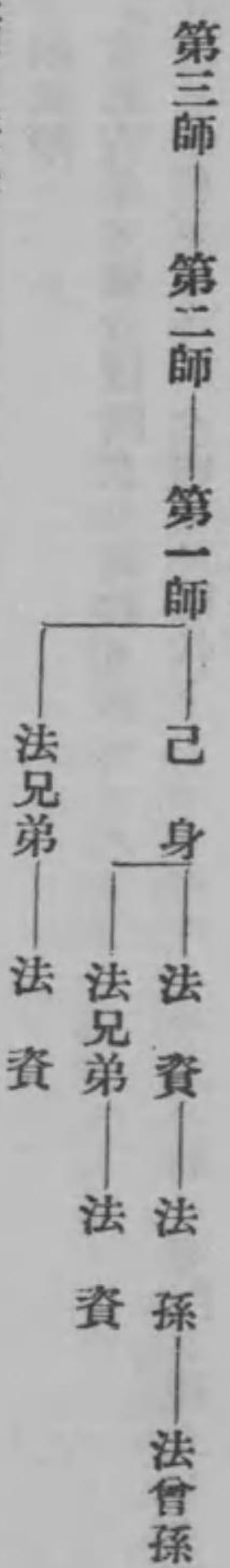
- 一 法類ノ意義
法類トハ世間所謂親族關係ノ如シ
- 二 寺附法類
イ 寺院古來ノ緣故慣例又ハ契約ニ依ルモノ
甲寺ノ歴代ガ乙寺又ハ丙寺ノ歴代トナリタルモノハ又ハ新ニ寺院ヲ建立シタル場合其ノ甲乙丙寺ヲ古來ヨリ緣故ニ依ル寺附法類トス
緣故アル法脈關係寺院アルモ遠隔ノ地ニ散在スルト云フ如キ場合ニアリテハ同一教区内ニアル同末寺院ヲ古來ヨリ慣例契約ニ依テ寺附法類ト稱ス
ロ 同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ

本寺名 所在 末寺數
本興寺 尼崎市寺町 九十二ヶ寺

- 本 能 寺 京都市寺町御池下ル 九十五ヶ寺
- 妙 蓮 寺 京都市寺ノ内大宮東入 四十七ヶ寺
- 光 長 寺 静岡縣駿東郡金岡村 三十六ヶ寺
- 鷲 山 寺 千葉縣長生郡茂原町 四十五ヶ寺

三 身附法類

師弟關係（宗規第九號第三條）



四 法類ノ登録

法類ニ關シテハ登録ノ制アリ

宗規第九號第四條各寺院ハ關係法類ヲ以テ法類總代一名ヲ定メ當該寺院ヨリ宗務廳ニ届出ツヘシ其ノ異動アルトキモ亦同ジ

第六條 法類總代ノ任期ヲ滿三ヶ年トシ再選ヲ妨ケズ

五 法類ノ解除脱退及ヒ資格ノ喪失

離弟又ハ歸俗シタル旨公式ニ届出タル場合

六 法類總代

員 數、一名

被選資格、寺院若シクハ寺附法類トシテ夫々公式ニ届出アリタルモノノ選定方法、互選ニ依ル

届出登録、第四條ニ掲ク

職務權限、住職進退、寺院財産管理其他新築改築等凡テ公式ニ届出願書ヲ要スル事件ニ關與ス

第二 組 寺

一 組寺ノ意義

組寺トハ世間ニ所謂組合ノ如シ

二 組寺ノ組織及範圍

イ 一地方一地方毎ニ布教法要等ノ相互扶掖ニ便宜ナル程度ニ於テ組寺ヲ組織シ管長ノ認可ヲ得ルモノトス

宗規 第九號 第七條

本宗寺院ハ各寺院ノ協議ヲ以テ管長ノ認可ヲ得テ組寺ヲ設ケ法要其他布教等ニ關シ相互ニ扶掖スルモノトス

ロ 組寺ノ規約ハ唯組内タケノ事ニシテ宗務廳ニ届出ナシ

三 組寺總代

員數、選定方法、任期等ハ宗規ニ規定ス

(參照)

宗規 第九號 第八條

組寺ハ其組寺住職ノ互選ヲ以テ組寺總代一名ヲ定メ宗務廳ニ届出ツヘシ

第九條 組寺總代ハ任期ヲ滿三ヶ年トシ再選ヲ妨ケズ

職務權限、住職進退、寺院財産管理其他新築改築等凡テ公式ニ届出ヲ要スル事件ニ關與ス

法華宗

第一法類

一 法類ノ意義

法類トハ世間ノ血族關係ニ於ケル親類トイフニ比スベキ法中ノ法脈關係ニ於ケル縁類ヲ謂フ
 門中悉ク法脈ヲ一ニスト雖其ノ暢達ニ從ヒ學寮ノ發達ニ伴ヒ昔時ノ或學匠ヲ中心トシテ之ニ師弟ノ
 關係ヲ結ビタルモノヨリ次第シ其等ノ弟子又弟子ハ或學閥ヲ作り漸次發展シテ今日ニ至リ。門中ニ
 於テ社會的意義ヲ有スル自治的ニ結合セル團體トナレリ

現行宗法ニハ法類ニ關スル條項ヲ缺クト雖前宗法及現ニ出願中ノ改正宗法ニハ寺附法類ヲ認メ各法
 類ノ所屬寺院ヲ定メ各法類ニハ主任ヲ置キ所屬寺院及僧侶ヲ監護シ所屬僧侶ノ身上ニツキ宗門ニ對
 シテ或ル義務ヲ負フモノトセリ

二 寺附法類

イ 始ハ或學匠ノ法脈ニ繫カリタルモノニシテ或寺ニ住職スレバ其寺ハ直ニ其ノ學匠系ノ法類トナ
 リタルモノナレトモ中比ヨリハ法系ノ大ナルモノヲ六法類ニ區分シテ其ノ所屬ノ寺ヲモ限定シタ
 ルヲ以テ身附法類ハ一轉シテ寺附法類トナレリ
 但甲法類ニ屬スル寺院ガ荒廢ニ歸シタルヲ甲法類ニ於テ顧ミサリシトキ乙法類所屬僧侶之ニ住シ
 テ維持方法ヲ確立シタルモノハ自然ニ乙法類ノ所屬トナリシモノアリ
 更ニ亦甲所屬ノ寺院ニシテ孤立ノ地ニ存シ不便ナリシモノカ便宜上乙法類ト協議ノ上所屬寺院ノ
 交換ヲ契約シタル事實アリ

甲法類寺院ニシテ當該法類ニ適當ナル後住者ナキトキ他法類ヨリ特契約ヲ以テ人ノ融通ヲ受クル
 コトアリ此ノ場合其住職ハ甲法類所屬ノ者ト見做サル

ロ 前述ノ如ク法類寺附ハ其ノ始ハ法脈關係ノ有縁ニヨリテ定メラレタルモノニシテ徳川時代ノ中
 世ニ於テ左ノ六ヲ定メタリ

- 一 觀師法類 (役寺ノ所在地ニヨリテ下谷法類トモイヘリ)
- 二 禪師法類 同 上 大木戸法類)
- 三 海師法類 (同 上 白金法類)
- 四 相師法類 (同 上 麻布法類)
- 五 珖師法類 (同 上 四谷法類)
- 六 堯師法類 (同 上 芝法類)

三 身附法類

イ 上述ノ如ク沿源ニ於テ師弟關係ヨリ發展シテ徳川中世期ニ於テハ六法類ヲ限定シテ寺附制度ヲ
 採リタルヲ以テ甲法類寺院住職ニ就テ得度シタルモノハ他ノ法類ニ融通若クハ師僧替ヲナツ、ル
 限ハ甲法類ノ所屬僧侶トス

ロ 本宗ニ於テハ法脈關係ハ同時ニ師弟關係ヲ意味ス

ハ 學寮ハ往時ニ於テハ法類トノ關係判明セサレトモ享保年中三澤檀林建設已後ハ所屬法類ニヨリ
 ラ建設維持セラレ法類所屬ノ學徒ヲ收容シタリシモ明治廿年頃學制統一ノ趣旨ニヨリ之カ法類別
 ヲ廢止シタリ

廢止前ノ學寮ノ名稱ハ左ノ如シ

東京西寮及長屋 (禪師法類)

南天寮及長屋（琬師法類）
 下谷寮及長屋（觀師法類）
 麻布寮及長屋（相師法類）
 芝寮及長屋（堯師法類）
 赤門寮及長屋（海師法類）

尙此ノ上ニ伴頭寮集講寮條講寮ノ三寮アリ之ヲ役寮ト稱シ法類ノ範圍ヲ超越セルモノトセリ

- 四 登錄等ノ制ナシ慣行ニヨリヲ執行セリ
 - 五 法類ノ解除脱退及資格喪失 寺附ノ方ハ合併若クハ廢寺ニヨリ身附ノ方ハ歸俗若クハ轉宗ニヨル
 - 六 從來本宗ニハ法類主任ノ名稱ヲ用ヒ比較的法高キモノ一人ヲ法類寺院ノ推薦ニ依リテ就任シ宗務所ニ届出タリ年限ハ規定ナシ職務權限ハ所屬寺院ノ維持法住職僧侶ノ進退ニ關シテ直接ニ參加シ又ハ所屬寺院僧侶ノ宗務所ニ提出スル重要ナル請願届出ニ連署ス
- 現行宗法ニテハ是等ノ規定ヲ缺ケトモ目下出願中ノモノニハ法類主任ハ該法類所屬寺院住職教會所等ノ管理教師ヨリ互選シ該法類上席教師ノ承認ヲ得テ就任シ人員ハ一名ニシテ任期ハ三ケ年トス職務權限ハ從來ト同シ

第二組 寺

- 一 組寺ハ法類寺院ナルト否トヲ問ハス住職不在中取締法要等ノ場合ニ互ニ緩急相扶クル契約ヲ締結セルニケテ寺以上ノ近傍寺院ヲイフ
- 二 組織モ前顯ノ如ク近傍ナルコトニケテ寺以上ナルコト契約ヲ締結スルコトヲ要素トシテ作ラレ慣行ニ依リテ執行シ別段ノ規約等ナシ

本妙法華宗

第一法類

一 法類ノ意義

開祖以來法脉連綿トシテ今日ニ到レル吾本妙法華宗ニ於テハ法類ナル語ヲ以テ區別スヘキモノナシト雖モ時トシテハ法縁上最モ近親ナルモノヲ法類ト稱シ居レリ

二 寺附法類

寺院ニ於テ法脉關係ヲ有スルモノ、法類ヲ以テ區別スヘキモノ無シ

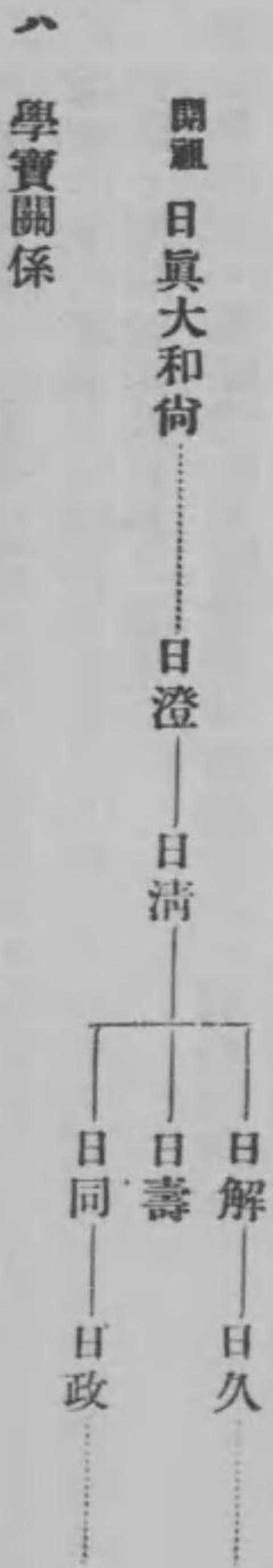
三 身附（又ハ人體）法類

イ 師弟關係

法縁上 師、兄、弟等ノ續柄トナレルモノヲ同法類トシ、而シテ之ヲ唱へ出シタルハ嘉永年間以後ナラン

ロ 法脉關係

今日所謂法類ハ日清上人ノ弟子ヲ分岐點トシテ壽師法類、久法師類、政師法類等ノ稱アリ、即チ



ハ 學實關係

本妙法華宗

- 四 學寮關係ニテ法類ヲ區別スルモノ無シ
- 四 法類ニ關シ登錄寺ノ制ナシ
- 五 法類ノ解除脫退及資格ノ喪失
- 轉宗轉派或ハ歸俗等ニ依リ僧籍ヲ取消サル、場合ニ限ル
- 六 法類總代ナシ。出願件ノ生シタル場合ハ其教區内ニ於ケル同法類者ノ首席ハ法類總代トシテ連署ス

第二組寺

- 一 組寺ノ意義
- 組寺ハ寺務上互ニ相助ケ合フベキ義務ヲ負フモノトス
- 二 組寺ノ組織及範圍
- 同教區内ニ於ケル寺院貳箇寺若クハ參箇寺トス
- 三 組寺總代
- 組寺總代又ハ組長ナルモノナク住職缺員シタルトキハ檀信徒總代及組寺住職協議ノ上一定ノ期間内ニ後任住職選定ノ責任ヲ有ス

日蓮正宗

第一法類

一 法類ノ意義

- 宗内ニ於テ一師僧ノ系統ヲ引クモノ及開基ヲ同クスル爲ニ特殊ノ關係ヲ有スルモノヲ指ス
- 二 寺附法類
- 甲乙寺院其開基ヲ同クスル關係上其寺院住職タルモノ慣例ニ依リ法類トナル
- 三 身附(人體)法類
- 師僧關係
- 續柄、重師僧、師僧、師僧ノ法兄弟、徒弟、孫法徒弟
- 範圍、自己ヲ中心トシ師弟ノ法縁ヲ以テ之ヲ定ム
- 法脉關係
- 本宗ニ於テハ一系ノ法脉ハ法主相傳ニ係ル故ニ法類ノ部ニ入レス
- 學寮關係
- 本宗ハ古來總本山内蓮藏坊ニ學寮ヲ置キ之ヲ又ハ宗學專門道場ト稱シ該坊住職大學頭ヲ以テ宗内ノ僧侶ヲ指導セシム
- 四 法類ノ登錄
- 寺院ハ法類組寺各一名ヲ定メ宗務院ヘ届出ツヘキモノトス
- 五 法類ノ解除脫退及資格ノ喪失
- 寺附法類ハ關係ノ寺院住職ヲ辭スルト共ニ其資格ヲ喪失シ、身附法類ニアリテハ相互ノ諒解ヲ得テ届出ルカ又ハ法縁ヲ自ラ離レタル時届出ニヨリテ解除ス
- 六 法類總代
- 員數一名、被選資格、寺附ト身附トノ別ナク一寺住職ニシテ准講師以上ノ者トシ、其法類間ニ於テ選定シ届テ出シメ仕期ヲ定メス、職務權限ハ該當寺院ノ住職任免及寺有財産ノ異動並ニ其他重要ナ

ル事柄ノ起ル時ニ關與ス

第二組 寺

一 組寺ノ意義

同教區内ニ於テ最モ隣接セル寺院相互ニ任職任免其他諸願届書等ニ連署シ凡ソノ協議等ニモ參與スルモノトス

二 組寺ノ組織及範圍

其教區内ニ於テ互ニ組寺タラシメ宗務院ニ届出ツル事トス標準程度ノ定ヲ置カス
本宗ニテハ其教區幹事ニ命シ區内ヲ監督セシムル故ニ別ニ組寺總代及組長等ノ置カス

日蓮宗不受不施派

本派ニ於テハ全ク教會制度ニ據リ即今ニケノ末寺アルモ但古來ノ由緒（禁止中破却等）アルヲ以テ單ニ其寺號ヲ再興公稱スルニ止リ任職モ祖山任職之ヲ兼務シ從テ法類組寺ニ關スル事項ナシ

日蓮宗不受不施講門派

本派ニ於テハ唯一本山ノ外末寺ナク古來ヨリ師弟ノ關係ニヨリテ法脈ヲ傳へ來リタルノ事實ニシテ之ヲ詳記スレハ左ノ如シ

師弟ノ關係

一 師資相承

歷代ノ法燈ヲ相續スル人師ニヨリ剃髮授戒師弟ノ契約ニヨリ生ス

二 經卷相承

經卷相承ハ法燈斷絶ノ場合經卷ヲ以テ知識トシ本尊ヲ師トシテ改悔シ法脈ヲ相承スルヲ云フ
當宗派ノ歷代法燈ハ概ネ左ノ如シ

宗祖日蓮、日朗、日像、大覺、朗源、日實等日與迄二十一世
日習、日講、日珠等及日心、日柱ニ至ル三十九世

融通念佛宗

第一 法類

一 法類ノ意義

本宗ニ於テ法類ト稱スルハ二種ニ區分スルヲ得

日蓮宗不受不施講門派

イ 宗門相續上師弟ノ法縁ヲ同フシ相互扶掖ノ義務ヲ有スル人體關係ヲ身附法類ト云フ
ロ 寺院創立以來深厚ナル縁故又ハ特殊ノ慣行ヲ有スルヲ寺附法類ト云フ

二 寺附法類

イ 彼此ノ寺院同一人カ創建シ其開基ヲ同フセル因由又ハ同一法流ノ師僧弟子等カ乙寺ヲ建立シ或ハ信仰者ノ設立セルモノヲ弟子ニ所住セシメタル縁故ニ依リ住職關職ノ場合甲寺ノ住職カ乙寺ニ轉シ兩寺ノ法弟カ乙寺ニ進ミ交互ニ深厚ノ關係狀態ヲ持續セル縁故慣例ニシテ契約ニ依ル事項ナシ

三 身附(人體)法類

イ 師弟關係

師僧徒弟又ハ法兄弟等ノ因縁ヲ有スル人體關係ニシテ續柄及範圍ヲ圖ニ示セハ左ノ通りトス

第四師——第三師——第二師——第一師——己身——法資——法孫——法曾孫——法玄孫

法兄弟——法資——法孫

法兄弟——法資

四 法類ニ關シ登録等ノ制アルモノ

當該關係寺院ニ於テ作製セル法類名簿ヲ宗務所ニ届出テシメ身附法類中ノ人體關係ニ異動ノ生スル場合ハ法類總代ヨリ事項ヲ届出ツヘキモノトス

五 法類ノ解除脱退及資格ノ喪失

僧侶分限ノ退罷又ハ師分切替ニ基キ法類解除又ハ脱退スヘキ事故發生ノ都度法類總代ヨリ事由ヲ具シ宗務所ニ届出テシメ、日錢切又ハ僧籍削除ノ原因ニ依リ之レカ資格喪失スヘキモノトス

六 法類總代

員數一名トシ被選資格ハ當該法類寺院ノ住職ニ限ル選定ノ方法ハ法類寺院住職ノ互選ヲ以テ定ム
改選ノ場合ハ當選者承諾ノ旨ヲ届出テ任期ハ滿三ヶ年トス之レカ職務權限ハ住職ノ進退ハ管長ニ於テ直接之ヲ行フ場合ニハ法類總代ハ關係スル所無シ後任住職ノ任命ヲ關係者ヨリ管長ニ願出ル場合又ハ死亡ニ際シ其他諸願届書ヲ宗務所ニ提出スル書類ニ連署スルモノトス

第二組 寺

一 組寺ノ意義

法要其他布教傳道ニ關シ相互ニ共掖スヘキモノトス

二 組寺ノ組織及範圍

地理ノ關係ニ於テ接近土地ノ村落ニ存在セル寺院ヲ按配シ三ヶ寺又ハ七ヶ寺以内ノ程度ニ組寺ヲ設置シ管長ノ認可ヲ要ス、組規約規定ハ別ニ存セス
管往古ヨリ「法事組」ト呼稱シ一般法要其他布教等ニ關シ相互扶掖シ協力スヘキ不文律ヲ嚴ニ格守セリ

三 組寺長

組寺住職ノ互選ヲ以テシ當選者承諾ノ旨ヲ宗務所ニ届出テ別ニ任命ノ辭令ヲ交付セス任期ハ滿三ヶ年トス、職務權限ハ其組寺ヲ代表シ住職ノ推薦ニ關與シ宗務所ニ提出スル諸願届書ニ連署スルモノトス

時宗

第一法類

一 法類ノ意義

師ヲ同フスルモノハ教師非教師ニ拘ラス法類ト稱ス其法類ヨリ分派シタル教師非教師モ遡リテ法類ト稱ス之レ身附(人體)法類ナリ 但其以外ノ法類ナラサルモ地理關係ヨリ必然的ニ法類ニ均シキ法類關係ヲ醸成スルコトアリ

第二組寺

一 組寺ノ意義

組寺トハ二ヶ寺以上數ヶ寺ノ寺院ガ精神的且物質的ニ相互ニ扶導シテ寺務ヲ完全ニ遂行スル機關ノ名稱ナリ故ニ組合寺院トモ稱ス

二 組寺ノ組織及範圍

古來ヨリ地理的關係ニ依リテ傳統的ニ組寺ト稱シ來リタル寺院必ス其地方々々ニ散在ス、而シテ寺院法要ヲ始トシ其他必要ニ迫ラレテ組織セルモノナルヲ以テ組寺間ニ於ケル多少ノ慣例ハ存スルモ一般組寺ニハ特種ノ慣例無之其範圍ハ稀ニ十數里ヲ離レテ存在スルモ原則トシテ組寺ト組寺トノ距離ハ遠隔ナラス

三 組寺總代又ハ組長

無之但本宗々憲ニ規定セル教務支所長ハ任免ノ形式ヲ異ニスルモ要スルニ實質ニ於テハ組長ト略同一ナリ

法相宗

第一法類

一 法類ノ意義

法類トハ同一法系ノ寺院相互間ノ法義執行維持保全ノ扶助關係ヲ有スルモノヲ云フ

二 寺附法類

イ 寺院古來ノ緣故慣例ノ多クハ寺院ノ法系關係ニ基準シテ生シ來レルモノニシテ中ニハ單ニ相互寺院間ニ久シキ以前ヨリ法要ノ助法又ハ其他ノ事故アル場合ニ互ニ親善扶持シ來レルヨリ終ニ法類關係ヲ構成セルモノモアリ

ロ 寺院ノ法脈關係ニ依ルモノ

本宗法脈ハ大分シテ二種トス一ハ孝德天皇白雉四年元興寺道昭和尙カ入唐シテ玄奘三藏ヨリ傳ヘシ所ニシテ之ヲ南寺傳ト稱ス、一ハ元正天皇養老三年興福寺玄昉僧正カ入唐シテ樓陽智周大師ニ受ケシ所ニシテ之ヲ北寺傳ト稱ス、而シテ其間度々ノ入唐學問僧アリテ本宗ヲ傳フト雖モ何レモ此ノ南北兩傳ニ攝セラル而シテ又其ノ南寺傳ハ行基菩薩ニ依リ藥師寺ニ至リ北寺傳ハ行信僧都ニ依リテ法隆寺ニ至ル就中元興寺ハ己ニ衰退ニ歸スルモ興福寺、法隆寺、藥師寺ハ何レモ大本山トシテ現ニ其法脈ヲ傳ヘ各末寺ハ其所屬本山ノ法脈ニ屬ス別ニ他宗兼學ノ寺院ハ他宗寺院トノ間ニ法類關係ヲ成セルモ宗教行政上ノ效力無シ

ハ 同一本寺ヲ有スルニ依ルモノ

本宗寺院ノ法脈ハ前項ノ如キ事由ナルヲ以テ隨テ末派寺院ノ法類ハ同一本寺ヲ有スト云フニ歸着

本寺ノ名稱所在地及關係末寺數左ノ如シ

- 奈良市登小路町 大本山 興福寺
- 同關係末寺 中本寺一 小本寺二 末寺十
- 奈良縣生駒郡法隆寺村 大本山 法隆寺
- 同關係末寺 小本寺一 末寺十九
- 奈良縣生駒郡都跡村 大本山 藥師寺
- 同關係末寺 九

ニ 法源同一ナルモ其遠近ニ依リ法類ヲ區別スルモノ

現在ハ無之

ホ 地域ニヨリ又ハ寺院數ニヨリ法類關係ヲ定ムルモノ

現在ハ無之

三 身附(又ハ人體)法類

宗制上之ヲ認メス

四 法類ノ登録

法類ハ各寺院カ法類總代ト連署シ法相宗何々法類寺院ナルコトヲ本山及宗務所ニ届出テ臺帳登録ヲ申請スルモノトス

五 法類ノ解除及資格ノ喪失

法類ハ寺院傳來ノ法脈系統ニ基準シ久シキ己前ヨリ己ニ歴史的關係ヲ構成セルモノナレハ解除變換等ノ事無キヲ原則トスルモ但シ一方ノ寺院カ他ノ法類寺院ニ對シ故ナクシテ法義執行ノ助勢ヲ謝絶

シ或ハ法類寺院タルノ故ヲ以テ猥リニ他寺院ノ内政ニ干渉シ、或ハ法類間ノ親善ヲ破壞スルカ如キ行動アル場合又ハ甲乙寺院カ遠隔セル爲メ常ニ法要ノ助法等ニ支障ヲ來ス場合等ニハ協議ノ上解除又ハ變更スルコトヲ得、但シ解除又ハ變更セシ時ハ直チニ其旨ヲ法類總代連署ヲ以テ本山及宗務所ニ届出ツルモノトス

六 法類總代

員 數 貳名以上

被選資格 寺院住職タル教師以上ノモノ

選定方法 法類間ノ互選

届出又ハ登録手續、選舉ノ結果ヲ直チニ本山及宗務所ニ届出テ登録ヲ申請ス

任 期 參ヶ年

職務權限 寺院後任住職銓衡ノ件及寺院財產異動届連署ノ件

第二 組 寺

一 組寺ノ意義

組寺トハ同一地方ニ在ル寺院相互間ノ親善關係ヲ有スルモノヲ云フ

二 組寺ノ組織及範圍

組寺ハ大體同一郡内ニ在ル寺院ヲ以テス若シ組内ノ寺院稀薄ナル場合ハ隣接セル他組ニ合併シテ一組トナスコトヲ得

別ニ特殊ノ規約ヲ設ケサルモ場合ニ依リ法類ニ準スルコトアルヘシ

法類ニ準スル組寺ハ其旨ヲ組寺總代法類總代連署ヲ以テ本山及宗務所ニ届出テ登録ヲ申請スルモノトス

三、組寺總代

員數 貳名以上

選定方法 組寺住職ノ互選ニ依ル

届出又ハ登録ノ手續、選舉ノ結果ヲ直チニ本山及宗務所ニ届出ツルモノトス

任期 參ヶ年

職務權限 寺院後任住職出願連署ノ件及寺院財產異動届連署ノ件

四、組長

組寺總代ノ外ニ組長無シ

華嚴宗

第一 法類

一 法類ノ意義

法類トハ住職ノ推薦及ビ寺有財産ノ保管等ノ任ニ當ルモノヲ云フ

二 寺附法類

寺院古來ノ縁故或ハ寺院ノ法脈關係及ヒ同一本山ヲ有スル關係ヨリ生セシ寺附法類ナルモノアリシ

モ明治維新以來自然消滅シ現今ニ於テハ身附法類ノミ存セリ

三 身附法類

身附法類中師弟關係及同一師僧ヲ有スル法兄弟並其法統ニ屬スル法孫等ノ一法團ヲ以テ法類トシ單

ニ法脈關係及學寮關係ニ在リテハ慣例上之ヲ法類ト稱セス

四 法類ニ關シ登録等ノ制無之

五 法類總代

法類中ノ上臈者ヲ以テ法類總代トレ登録任期等ノ制ナク從テ職務權限等ノ如キ定規ナシ

第二 組寺

一 本宗宗制ニ組寺ナル語アルモ事實トシテ組寺ノ組織ナシ

組寺ニ於テ取扱フ事故ハ慣例上總テ法類中ニ於テ之レヲ處理ス

大正十三年三月三十一日印刷
大正十三年四月二十五日發行

文 部 省 宗 教 局

印刷人 川 口 辰 衛
東京市牛込區納戸町四十一番地

印刷所 川 口 印 刷 所
東京市牛込區市ヶ谷田町一丁目十二番地

終